

表51 須恵器観察表(1)

※調査区・遺構、小グリッド、層位の項目に複数記載があるものは、出土位置・層位の異なる複数破片が接合したものの。

掲載番号	取上番号	採回 PL	調査区 遺構	小グリッド	層位	帰属	種別 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類番号
86	2189, 3082	第84回 PL.107	窯1	3区, 3S	12層 新段階埋土 15層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径18.0 底径11.1 器高6.5	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	砂粒を多く含む	不良	外面灰白 内面に黄・灰白	外面貼付 突帯	1
87	2340, 3086	第84回 PL.74	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径8.4※ 底径5.4※ 器高5.4△	外面回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ・高台 貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・淡黄		3
88	1594, 2339	第84回 PL.76	窯1	2S	4~13層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径7.7 底径4.3△ 器高4.3△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面淡黄・灰黄		3
89	2309, 2337	第84回 PL.74	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径7.7 底径7.2※ 器高3.4△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り後ナデ消し。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・黄灰 内面灰白・浅黄		3
90	3084	第84回	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径7.4※ 底径3.0△ 器高3.0△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・オリーブ 黒		3
91	2792	第84回 PL.74	窯1		古段階側壁	古	須恵器 杯	口径12.4※ 底径7.2※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面黄灰・黄褐		4
92	2512	第84回 PL.74	窯1		新段階側壁裏込め	古	須恵器 杯	口径10.4※ 底径5.4※ 器高4.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
93	2434	第84回 PL.76	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径12.4 底径6.8 器高4.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	口縁部黒 体部外面中~底部灰色 体部内面上半黒,下半灰 白		4
94	2432	第84回 PL.76	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径12.3※ 底径6.7 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面黄灰		4
95	2338	第84回 PL.74	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径12.2※ 底径6.3※ 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面淡黄・黒		4
96	2331	第84回 PL.76	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径13.2※ 底径7.5※ 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰オリーブ 内面灰白		4
97	2421	第84回 PL.76	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径12.0※ 底径7.6※ 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	灰白		4
98	2333	第84回 PL.74	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径11.4※ 底径6.6※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面淡黄 内面淡黄・黒		4
99	2325	第84回 PL.76	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径11.8※ 底径6.6※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		4
100	2430	第84回 PL.76	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径11.7※ 底径5.6※ 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面口縁~2/3黒褐 底部灰白 内面黄灰		4
101	2318	第84回 PL.76	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径13.4※ 底径7.7 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・黄灰 内面淡黄・一部明黄褐		4
102	2306, 3088	第84回 PL.77	窯1	ベルトA	14層 古段階埋土 12層 新段階埋土	古	須恵器 杯	口径13.0 底径7.3 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・黄灰 内面淡黄 内外面一部黒		4
103	2302	第84回 PL.74	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径12.6※ 底径6.2※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		4
104	2416	第84回 PL.77	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径12.1※ 底径6.9 器高3.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・黄灰 内面灰白・浅黄		4
105	2321	第84回 PL.74	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径12.8※ 底径6.6※ 器高3.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		4
106	2433	第84回 PL.74	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径13.0※ 底径6.8※ 器高3.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		4
107	2431	第84回 PL.74	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径7.4※ 底径1.85△ 器高1.85△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白 内面暗灰黄		4
108	2437	第84回 PL.77	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 杯	口径6.5 底径2.35△ 器高2.35△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・灰 内面灰白・明黄褐		4
109	2280, 2189, 3082	第84回 PL.77	窯1	3区	新床直 12層 新段階埋土 15層 古段階埋土	古	須恵器 皿	口径14.0 底径6.9 器高2.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰・一部浅黄		5
110	2423, 3085	第84回 PL.75	窯1		14層 古段階埋土 15層 古段階埋土	古	須恵器 皿	口径12.6※ 底径6.8※ 器高2.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・黄灰・一部 黒		5
111	2426	第84回 PL.75	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 皿	口径14.0※ 底径7.3※ 器高2.45	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・黒		5
112	2422	第84回 PL.75	窯1		14層 古段階埋土	古	須恵器 皿	口径12.7※ 底径6.0※ 器高2.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・褐灰 内面灰白・淡黄		5
113	3084	第84回 PL.75	窯1	3N	14層 古段階埋土	古	須恵器 皿	口径12.8※ 底径6.3※ 器高2.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面灰 内面灰・一部浅黄		5
114	3085	第84回 PL.75	窯1	3N	15層 古段階埋土	古	須恵器 皿	口径12.9※ 底径6.6※ 器高2.4	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面淡黄・黒褐		5
115	2315	第84回 PL.75	窯1	3S	14層 古段階埋土	古	須恵器 短頸壺	口径18.2※ 底径6.7△ 器高6.7△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面暗緑灰		18
116	3249	第84回 PL.75	窯1	突口付 近	古段階側壁裏込め	古	須恵器 壺	口径13.5※ 底径4.6△ 器高4.6△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面灰黄 内面灰黄・灰		11
117	3248	第85回 PL.105	窯1	2N	古床内	古	須恵器 転用焼台	長100 幅6.25 厚1.15	表裏とも土と砂礫が熔着 各破面に自然軸付着	密	良好	表：灰白・明オリーブ 灰 裏：灰・浅黄	壺片転用	17
118	2456	第85回 PL.105	窯1	3S	古床直	古	須恵器 転用焼台	長128 幅11.6 厚2.8	表裏とも砂熔着。表ドーナツ状に暗色 化。裏に杯片熔着。	密	良好	内外面灰	壺片・杯 片転用	17
119	2455	第85回 PL.105	窯1	3S	古床直	古	須恵器 転用焼台	長122 幅9.7 厚1.3	表：粘土熔着 裏：砂熔着	密	良好	表：灰 裏：灰	壺片転用	17
123	2266,2267 2271,2272 1594,1853	第89回 PL.77	窯1	2S, ベ ルトC	新床直 4~13層 12・13層 新段階埋土	新	須恵器 高台杯	口径17.9 底径8.9 器高9.1	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰・灰白	外面貼付 突帯	1
124	2189, 2282	第89回 PL.107	窯1	3区	12層 新段階埋土 新床直	新	須恵器 高台杯	口径18.0 底径11.1 器高6.5	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	砂粒を多く含む	不良	外面灰白 内面に黄・灰白	外面貼付 突帯	1
125	2790	第89回 PL.77	窯1		新段階側壁	新	須恵器 杯	口径12.9 底径7.0 器高3.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰白色		4
126	2251	第89回 PL.74	窯1	3N	新床直	新	須恵器 杯	口径15.0※ 底径7.8※ 器高5.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面灰・一部浅黄 内面灰・一部浅黄		4
127	2449	第89回 PL.77	窯1	窯尻	床直	新	須恵器 杯	口径13.0 底径6.4 器高4.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	不良	内外面淡黄 口縁部黒褐		4

第5章 古代以降の調査

表52 須恵器観察表(2)

※復元値 △現存値

掲載 番号	取上番号	埴田 PL	調査区 遺構	小ク リッド	層位	帰属	種別 器種	量目(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類 番号
128	2189, 2242	第89国 PL.77	窯1	3区	12層 新段階埋土 新床直	新	須恵器 杯	口径9.8※ 底径6.2△ 器高2.2	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや良好	内外面灰	外面端部 欠損	4
129	1853, 2266	第89国 PL.78	窯1	ベルトC	12・13層 新段階埋土 新床直	新	須恵器 杯	口径11.4※ 底径6.0※ 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面黄褐		4
130	2247	第89国 PL.74	窯1	3N	新床直	新	須恵器 杯	口径12.2※ 底径7.0※ 器高3.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面浅黄・黒		4
131	2250	第89国 PL.78	窯1	3S	新床直	新	須恵器 杯	口径11.3※ 底径7.3 器高4.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面にふい黄橙 内面灰白・明黄褐		4
132	2258	第89国 PL.78	窯1	3N	新床直	新	須恵器 杯	口径12.3 底径7.5 器高3.7	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰色 内面灰黄色	外面から 打ち欠 き。	4
133	2256	第89国 PL.74	窯1	3N	新床直	新	須恵器 杯	口径5.3 底径3.8 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面灰白 内面灰黄	外面端部 欠損	4
134	1853	第89国 PL.74	窯1	ベルトC	12・13層 新段階埋土	新	須恵器 杯	口径12.6※ 底径6.7※ 器高4.15	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・灰 内面浅黄		4
135	2189	第89国 PL.74	窯1	3区	12層 新段階埋土	新	須恵器 杯	口径12.0※ 底径6.1※ 器高3.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密 砂粒多く含む	やや不良	外面黄橙・褐灰 内面浅黄橙・褐灰		4
136	1599, 1601	第89国 PL.78	窯1	3N	10層 新段階埋土 11層 新段階埋土	新	須恵器 杯	口径12.8 底径7.3 器高4.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面浅黄・黄灰 内面灰白・黄灰		4
137	1853	第89国	窯1	ベルトC	9層 新段階埋土	新	須恵器 杯	口径6.4※ 底径3.8△ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰オリーブ 一部明黄褐		4
138	2255	第89国 PL.75	窯1	3S	新床直	新	須恵器 皿	口径13.9 底径6.4 器高2.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰白		5
139	2280	第89国 PL.75	窯1	3S	新床直	新	須恵器 皿	口径12.3※ 底径7.4※ 器高2.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面暗灰 内面暗灰・灰白		5
140	3088	第89国 PL.75	窯1	ベルトA	12層 新段階埋土	新	須恵器 皿	口径14.3※ 底径7.4※ 器高2.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰・灰白		5
141	2297	第89国 PL.75	窯1	ベルトA	10層 新段階埋土	新	須恵器 皿	口径14.8※ 底径7.1※ 器高2.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・暗灰		5
142	2297	第89国 PL.75	窯1	ベルトA	10層 新段階埋土	新	須恵器 皿	口径13.3※ 底径7.1※ 器高2.7	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面淡黄・黒褐		5
143	1854	第89国 PL.75	窯1	ベルトF	9層 新段階埋土	新	須恵器 皿	口径15.0※ 底径8.6※ 器高2.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・暗灰		5
144	2219	第89国 PL.75	窯1	ベルトA	9層 新段階埋土	新	須恵器 皿	口径15.0※ 底径8.3※ 器高2.5	内外面回転ナデ。底部回転系切り。	やや密	やや不良	内外面灰黄		5
145	1789	第89国 PL.75	窯1	ベルトB	11層 新段階埋土	新	須恵器 椀	口径15.9※ 底径4.4△ 器高4.4	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面灰白・灰黄 内面黄灰		18
146	1751	第89国 PL.105	窯1	2S	新床直	新	須恵器 転用焼台	長9.3 幅9.6 厚1.6	粘土・石付着 破面・裏面自然粘(ゴマ)付着。	密	良好	表：青灰と灰のムラ有 裏：青灰	裏片転用	17
150	3100	第91国 PL.107	窯1	ベルトA	4~7層 埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 高台杯	口径3.9△ 器高3.9△	外面回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		1
151	1594	第91国	窯1	2S	4~13層 埋め戻し (+新段階埋土)	埋め 戻し	須恵器 高台杯	口径14.3※ 底径7.0※ 器高6.6	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面にふい黄橙		3
152	1594	第91国 PL.74	窯1	2S	4~13層 埋め戻し (+新段階埋土)	埋め 戻し	須恵器 高台杯	口径8.0※ 底径4.9△ 器高4.9	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 内面回転ナデ後不定方向のナデ。	密	やや不良	外面浅黄橙・一部赤橙 内面浅黄橙		2
153	3185	第91国	窯1		埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 高台杯	口径7.2※ 底径3.2△ 器高3.2	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面明黄褐		3
154	1784	第91国	窯1	ベルトB	4・5層 埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 高台杯	口径7.3※ 底径3.0△ 器高3.0	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面淡黄		3
155	414	第91国	窯1	焚口付 近	表土	表土	須恵器 高台杯	口径7.2※ 底径2.35△ 器高2.35	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面黄褐		3
156	1653	第91国 PL.74	窯1	1s	5・11層 埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 杯	口径12.3※ 底径6.8※ 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面浅黄橙		4
157	2227	第91国	窯1		8層 埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 杯	口径12.5※ 底径7.1※ 器高3.7	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰白・浅黄		4
158	414	第91国	窯1	焚口付 近	表土	表土	須恵器 杯	口径13.6※ 底径7.0※ 器高3.65	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰黄褐		4
159	3099	第91国	窯1	ベルトA	7・8層 埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 皿	口径14.3※ 底径7.1※ 器高2.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面にふい黄		5
160	1593	第91国 PL.78	窯1	2N	4~13層 埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 皿	口径12.7※ 底径7.6※ 器高2.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面浅黄・黒褐 内面黄褐・黒褐		5
161	1774	第91国	窯1	ベルトD	1層 流土	流土	須恵器 皿	口径16.4※ 底径8.1 器高2.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ・不定方向のナデ。	密	やや良好	内外面灰・灰白		5
162	1593	第91国 PL.75	窯1	2N	4~13層 埋め戻し (+新段階埋土)	古	須恵器 高台皿	口径7.0※ 底径2.4△ 器高2.4	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	外面灰 内面灰・灰白・一部浅 黄		18
163	3100	第91国 PL.75	窯1	ベルトA	4~7層 埋め戻し	埋め 戻し	須恵器 瓶類	口径10.0※ 底径2.65△ 器高2.65	外面タタキ。内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面灰黄		14
164	614	第91国	窯1周辺		にふい褐色土		須恵器 皿	口径13.4※ 底径5.6 器高2.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ・縦方向のナデ(指オサエ)。	密	良好	内外面灰白・灰	内外面鉄 分付着	5
165	546	第91国	窯1-2		検出面		須恵器 瓶類	器高2.8△	内面タタキ。	密	やや不良	内外面暗灰黄	外面貼付 炎帯	12
171	3087	第99国 PL.107	窯2	2区	16層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径16.6※ 底径6.1△ 器高6.1	外面回転ナデ・突帯貼付後ナデ。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	外面紫灰 内面青灰		1
172	2533	第99国 PL.107	窯2	2区	16・17層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径17.0※ 底径5.7△ 器高5.7	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内面灰白・灰 外面灰色	外面貼付 炎帯	1
173	2178	第99国 PL.78	窯2	1区	16層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径15.0※ 底径6.6※ 器高5.65△	内面調整不明。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面淡黄・黒		2
174	2533	第99国 PL.79	窯2	2区	16・17層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径14.6※ 底径6.8※ 器高6.15	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白・灰		2
175	2953	第99国 PL.78	窯2	2区	15層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径7.4※ 底径4.3△ 器高4.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面黄灰 内面浅黄・黄灰		2
176	2299-①	第99国 PL.79	窯2		15層 古段階埋土	古	須恵器 高台杯	口径6.6※ 底径3.45△ 器高3.45	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面黒・浅黄 内面黒	杯部一部 人為的な 打ち欠 きか	2
177	2787	第99国 PL.79	窯2		古段階埋土裏込め	古	須恵器 杯	口径5.5※ 底径2.8△ 器高2.8	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰	外面端部 欠損	4

表53 須臾器観察表(3)

※復元値 △現存値

掲載番号	取上番号	押図 PL	調査区遺構	小クワリッド	層位	帰属	種別器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類番号
178	2376, 2361, 3000	第99図 PL.78	窯2	2N	16層 古段階埋土 17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径131 底径73 器高47	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面オリブ黒 内面灰白		4
179	2364, 3105, 3000	第99図 PL.80	窯2	ベルトA	16層 古段階埋土 2・5・6層 埋め戻し 17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径124 底径69 器高42	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面にふい黄橙		4
180	3081, 2386, 3087	第99図 PL.79	窯2	2区	古床直~17層 古段階埋土 古床直~16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径125 底径69 器高42	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面黄灰		4
181	2301, 3081	第99図 PL.79	窯2	ベルトA 窯尻付近	16・17層 古段階埋土 17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径124※ 底径67 器高40	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		4
182	1857, 2350, 3003	第99図 PL.80	窯2	1S	6層 埋め戻し 16・17層 古段階埋土 17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径120※ 底径66 器高41	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	外面オリブ黒 内面淡黄・オリブ黒		4
183	2157, 2158, 2299, 3104	第99図 PL.80	窯2		新床直 古段階埋土	古	須臾器杯	口径126 底径71 器高40	内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰黄・にふい黄 橙・オリブ黒	底面円孔あり。	4
184	2380, 3081, 3087	第99図 PL.80	窯2	2区	16層 古段階埋土 古床直~17層 古段階埋土 古床直~16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径120 底径68 器高42	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	内外面淡黄		4
185	1666, 1716	第99図 PL.80	窯2	3S	7・8層 新段階埋土 15層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径124 底径65 器高41	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面にふい黄橙・浅 黄橙・灰		4
186	3000, 3003, 3105, 3109	第99図 PL.80	窯2	2N	17層 古段階埋土 16層 古段階埋土 2・5・6層 埋め戻し 7・8層 新段階埋土	古	須臾器杯	口径125 底径69 器高40	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面オリブ黒		4
187	2299③	第99図	窯2		15層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径124※ 底径62※ 器高37	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・暗灰 内面灰黄		4
188	2301①	第99図	窯2	ベルトA 窯尻付近	16・17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径122※ 底径56※ 器高38	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面明黄褐・暗灰 内面浅黄橙・暗灰		4
189	1859, 2179	第99図 PL.80	窯2	1S	9層 埋め戻し 16・17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径127※ 底径67 器高41	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	内外面にふい橙・灰白・ 暗灰		4
190	2301②	第99図 PL.80	窯2	ベルトA 窯尻付近	16・17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径134 底径70 器高42	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	内外面淡黄・暗灰		4
191	2360	第99図 PL.81	窯2		16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径123 底径68 器高41	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 雲母・角閃石を 多く含む	やや不良	外面灰 内面黄灰		4
192	3003, 3087	第99図 PL.81	窯2		16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径127 底径68 器高40	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	内外面灰白・灰		4
193	1767, 2386, 3087	第99図 PL.81	窯2	2S	16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径128 底径72 器高44	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		4
194	2299②	第99図	窯2		15層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径130※ 底径73※ 器高42	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰・暗灰		4
195	2533	第99図	窯2	2区	16・17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径127※ 底径72※ 器高41	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・黒		4
196	3081	第99図	窯2	2区	古床直~17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径126※ 底径70※ 器高41	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・暗灰 内面灰黄		4
197	1766, 1856, 2184, 2532, 3105	第99図 PL.81	窯2	2S	新床直 埋め戻し 新床直 17層 古段階埋土 2・5・6層 埋め戻し	古	須臾器杯	口径113 底径67 器高44	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面にふい黄橙・灰		4
198	858, 2532, 2533, 3000, 3003, 3109	第99図 PL.81	窯2	2S	7・8層 新段階埋土 16・17層 古段階埋土 7・8層 新段階埋土	古	須臾器杯	口径125 底径68 器高44	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面にふい黄橙・暗 灰		4
199	3081, 2532, 2533, 3000	第99図 PL.81	窯2	2区, 焚口付 近, 2N	古床直~17層 古段階埋土 16・17層 古段階埋土 17層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径122 底径61 器高41	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面黒褐 口縁黒褐 内面浅黄 底部浅黄		4
200	2532, 1859, 2184	第99図 PL.81	窯2	焚口付 近, 1S	17層 古段階埋土 9層 埋め戻し 新床直	古	須臾器杯	口径129 底径63 器高42	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面にふい黄橙		4
201	1757, 2365, 3000, 3103	第99図 PL.81	窯2	2S	16・17層 古段階埋土 17層 古段階埋土 9層 埋め戻し	古	須臾器杯	口径128 底径74 器高43	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	内外面浅黄・黒褐		4
202	2299, 3109	第99図 PL.82	窯2	ベルトA	15層 古段階埋土 7・8層 新段階埋土	古	須臾器杯	口径129 底径71 器高46	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面黒 内面にふい黄		4
203	2174	第99図	窯2		16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径122※ 底径66※ 器高37	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰黄 口縁オリブ黒 内面灰黄・一部黒		4
204	3000, 3103	第99図	窯2	2N	17層 古段階埋土 9層 埋め戻し	古	須臾器杯	口径121※ 底径70※ 器高42	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面暗灰 内面にふい黄橙・暗灰		4
205	2381	第99図 PL.79	窯2		16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径128※ 底径67※ 器高41	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ後不定方向のナデ。	密	やや良好	外面暗青灰 内面灰 底部灰白		4
206	2391	第99図 PL.79	窯2		16層 古段階埋土	古	須臾器杯	口径132※ 底径70 器高45	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	不良	外面灰白 内面灰白・暗灰		4
207	1857, 1858, 2532, 3103	第99図 PL.82	窯2	焚口付 付近	6層 埋め戻し 6・9層 埋め戻し 17層 古段階埋土 9層 埋め戻し	古	須臾器杯	口径142 底径75 器高53	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面にふい黄橙		4
208	1856, 2532, 2533	第100図 PL.82	窯2	ベルト B, 焚口 付近, 2 区	9層 埋め戻し 16・17層 古段階埋土	古	須臾器皿	口径130※ 底径56※ 器高315△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		5
209	1856, 3000, 3105, 3103	第100図 PL.82	窯2	ベルト 1S, 2N	9層 埋め戻し 17層 古段階埋土 2・5・6層 埋め戻し 9層 埋め戻し	古	須臾器皿	口径136※ 底径66 器高205	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰・暗灰		5
210	2363	第100図 PL.82	窯2		16層 古段階埋土	古	須臾器皿	口径126 底径54 器高31	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		5
211	2362	第100図 PL.82	窯2		16層 古段階埋土	古	須臾器皿	口径133 底径67 器高27	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰白 口縁灰		5
212	1857, 2532	第100図 PL.82	窯2	1S, 焚 口付近	6層 埋め戻し 17層 古段階埋土	古	須臾器皿	口径134※ 底径60※ 器高31△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・黒		5
213	1719	第100図 PL.79	窯2	3S	15層 古段階埋土	古	須臾器皿	口径124※ 底径66※ 器高37	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ・不整方向のナデ。	密 砂粒を多く含む	不良	内外面淡黄・黄灰		5

第5章 古代以降の調査

表54 須恵器観察表(4)

※復元値 △現存値

掲載 番号	取上番号	埴田 PL	調査区 遺構	小ク リッド	層位	帰属	種別 器種	量 量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類 番号
214	2358	第100図 PL.82	窯2	1区	17層 古段階埋土	古	須恵器 小壺	口径3.2※ 底径4.2※ 器高5.5△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・暗灰		18
215	2659, 305	第100図 PL.79	窯2		古段階埋土 新段階埋土	古	須恵器 壺	口径12.8※ 器高7.3△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		11
216	585, 1645, 1783, 2167, 2179, 2223, 2301, 3107	第100図	窯2	2N, 4N	7層 新段階埋土 3層 新段階埋土 新床直 16・17層 古段階埋土 3層 新段階埋土	古	須恵器 壺	口径13.4※ 器高11.6△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。 底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰 内面灰白		11
217	3080, 3081	第100図 PL.79	窯2	1区, 2区	17層 古段階埋土 17層 古段階埋土	古	須恵器 瓶類	器高16.3△	外面タタキ。内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面灰白	外面貼付 突帯	16
218	2367,2375 2533,3000 3003,2354	第100図 PL.83	窯2		16・17層 古段階埋土	古	須恵器 壺	口径12.8※ 器高17.6	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕・ナデ消し。	密	やや良好	外面灰・暗灰 内面灰黄・暗灰	内面に粘 土帯接合 痕が明瞭 に残る (幅約2.5 cm)	15
219	2163,2164 2532,2344 2384,3000	第100図 PL.83	窯2	狭口, 1区, 2区	17層 古段階埋土 16層 古段階埋土	古	須恵器 壺	器高16.3△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面灰白・黄灰・黒 褐		15
220	1759,2184 2383,2390 2533,3089	第100図 PL.83	窯2		新床直 16・17層 古段階埋土 道1	古	須恵器 壺	器高13.6△	外面ヘラケズリ後ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰		11
221	1766, 2533	第100図	窯2	2S, 2区	新床直 16・17層 古段階埋土	古	須恵器 転用焼台	長9.4 幅8.0 厚2.8		密	良好	内外面灰	220の一 部を転用	17
222	3057	第100図 PL.105	窯2		15層 古段階埋土	古	須恵器 転用焼台	長7.35 幅6.1 厚1.45	表:粘土塔着、裏面にハジケ多数 裏:礫塔着、礫は粗粒安山岩(石英斑晶 多い) 裏全体がガラス光沢を帯びる 表→右側面の表面が発泡している	密	良好	表:灰・浅黄 裏:灰		17
223	1856, 163, 2184, 344, 3000, 3103	第101図 PL.83	窯2	1S	17層 古段階埋土	古	須恵器 壺	器高32.1△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕・ナデ消し。	密	やや不良	内外面灰白・黒褐		15
224	1856, 859, 1895, 164, 2295, 395, 2532, 2661	第101図 PL.83	窯2	ベルトB	17層 古段階埋土	古	須恵器 壺	口径13.6 器高32.2	外面タタキ。 底部ナデ。 内面同心円文の当て具痕・ナデ消し。	密	やや不良	外面灰白・明黄褐 内面淡黄・明黄褐		15
234	2232, 2296	第108図 PL.79	窯2	ベルトC	8層 新段階埋土 7層 新段階埋土	新	須恵器 高台杯	口径14.8※ 底径7.2※ 器高6.25△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	外面灰白・黄灰 内面灰白・黒		2
235	2152	第108図 PL.79	窯2		新床直	新	須恵器 高台杯	口径7.0※ 器高3.2△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白・黄灰		2
236	2018	第108図 PL.84	窯2	4S	新床直	新	須恵器 杯	口径13.4 底径7.2 器高4.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密 雲母・角閃石を 多く含む	やや良好	外面灰白 内面灰白		4
237	1722,2215 2232,2296	第108図 PL.84	窯2	3N, ベルトA, ベルトC	7・8層 新段階埋土	新	須恵器 杯	口径12.2 底径6.9 器高4.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面淡黄・オリブ黒 内面オリブ黒		4
238	2215	第108図 PL.84	窯2	ベルトA	新段階埋土	新	須恵器 杯	口径12.3 底径7.0 器高4.3	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面橙・オリブ黒 内面浅黄・灰		4
239	2153, 2151, 2299	第108図 PL.84	窯2		新床直	新	須恵器 皿	口径13.0 底径6.5 器高2.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰黄・暗灰		5
240	1776	第108図 PL.79	窯2	ベルトD	8層 新段階埋土	新	須恵器 皿	口径14.8 底径7.1 器高2.4△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面淡黄・黄灰・黒		5
241	1780, 565	第108図 PL.79	窯2	ベルトD	8層 新段階埋土 検出中	新	須恵器 皿	口径14.0※ 底径7.0 器高3.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰オリブ 内面灰		5
242	1720	第108図 PL.105	窯2	3N	7層 新段階埋土	新	須恵器 転用焼台	長9.3 幅7.35 厚1.5	表:粘土塔着 裏:礫塔着、礫は粗粒安山岩(石英斑晶 多い)	密	良好	表:灰白・浅黄・暗灰 裏:灰・灰オリブ		17
260	556	第115図	窯2	サブトレ①	埋め戻し	埋め戻し	須恵器 高台杯	口径7.5※ 器高3.45△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白 内面黄灰		2
261	1856, 1859, 3103	第115図 PL.84	窯2	ベルトB, 1区	9層 埋め戻し	埋め戻し	須恵器 高台杯	口径14.2※ 底径7.0※ 器高5.6△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・オリブ 黒		2
262	1858, 1859	第115図 PL.84	窯2	1S	6・9層 埋め戻し	埋め戻し	須恵器 杯	口径12.6 底径6.8 器高4.3	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面黒 内面淡黄・黒		4
263	1856, 1858	第115図 PL.84	窯2	ベルトB	6・9層 埋め戻し	埋め戻し	須恵器 杯	口径12.5 底径7.0 器高4.1	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面オリブ黒 内面に黄橙・オリブ 黒		4
264	1856, 1857, 1858	第115図 PL.84	窯2	ベルトB	9層 埋め戻し 6層 埋め戻し 6・9層 埋め戻し	埋め戻し	須恵器 杯	口径12.4 底径7.5 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面オリブ黒 内面に黄橙 口縁オリブ黒		4
265	3105	第115図	窯2	ベルトA	2・5・6層 埋め戻し	埋め戻し	須恵器 杯	口径12.4※ 底径7.0※ 器高3.5	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	内外面灰黄・暗灰		4
266	3103	第115図 PL.85	窯2		9層 埋め戻し	埋め戻し	須恵器 皿	口径12.9※ 底径7.0※ 器高3.0△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		5
267	556	第115図	窯2	サブトレ①	埋め戻し	埋め戻し	須恵器 皿	口径4.6※ 器高2.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰		5
268	3105	第115図 PL.85	窯2	1区	2・5・6層 埋め戻し	埋め戻し	須恵器 長頸壺 (水甌)	口径4.6※ 器高6.85△	外面回転ナデ。内面縦方向のナデ・回転 ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰	外面貼付 突帯	18
272	2902, 2903, 2904, 3049	第121図 PL.85	窯3		第3段階埋土 19・21~23層 第1段階埋土	第1	須恵器 杯	口径12.3※ 底径7.2 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		4
273	3049	第121図 PL.87	窯3		19・21~23層 第1段階埋土	第1	須恵器 杯	口径13.2 底径7.0 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面黄灰		4
274	2218	第121図 PL.87	窯3		17・18層 第2段階埋土	第1	須恵器 杯	口径12.6※ 底径8.0※ 器高4.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	内外面灰		4
275	3049	第121図 PL.87	窯3		19・21~23層 第1段階埋土	第1	須恵器 高台杯	口径8.2※ 器高2.5	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	外面灰白 内面灰		3
276	3047	第121図 PL.87	窯3		17層 第2段階埋土	第1	須恵器 高台杯	口径10.4 底径8.4 器高3.1	底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰	外面端部 欠損	3
277	3049, 2664	第121図 PL.88	窯3		19・21~23層 第1段階埋土 16層 第2段階埋土	第1	須恵器 瓶類または 壺	口径16.0※	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	良好	外面灰 内面暗青灰		14
278	2664	第121図	窯3		16層 第2段階埋土	第2	須恵器 高台杯	口径7.4 器高4.2	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	内外面灰白		3
279	2664	第121図 PL.105	窯3		16層 第2段階埋土	第2	須恵器 転用焼台	長6.9 幅8.2 厚1.4		密	良好	外面灰・暗灰 内面灰・灰白	外面に暗 灰色自然 釉	17

表55 須恵器観察表(5)

※復元値 △現存値

掲載番号	取上番号	検出PL	調査区遺構	小クワリッド	層位	帰属	種別器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類番号
280	1662, 2196	第122回 PL.85	窯3	2N サブトレ、焚口	埋土一括 8層 第3段階埋土	第3	須恵器高台杯	底径8.6※ 器高5.7	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		1
281	2797, 906, 2907, 799, 3075	第122回 PL.85	窯3		第3段階床直	第3	須恵器高台杯	口径14.2※ 底径7.9※ 器高7.2	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	やや良好	外面灰白 内面浅黄		2
282	2798, 2907, 3075	第122回 PL.85	窯3		第3段階床直	第3	須恵器高台杯	口径12.5 底径7.5 器高5.8	外面回転ナデ。底部回転系切り・粘土紐貼付後回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白 鉄分明褐	外面の一部、内面の全面に鉄分が付着	2
283	2796, 2907	第122回 PL.85	窯3		第3段階床直	第3	須恵器高台杯	口径13.0※ 底径7.1※ 器高5.55	底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰	外面の一部、内面の全面に鉄分が付着	2
284	2903, 2905, 3075	第122回 PL.85	窯3		第3段階床直	第3	須恵器高台杯	口径13.0 底径7.3 器高5.2	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰		2
285	2222	第122回 PL.87	窯3		8層 第3段階埋土	第3	須恵器高台杯	底径8.2※ 器高5.0	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ・不定方向のナデ。	密	やや不良	内外面灰白		3
286	2196	第122回 PL.87	窯3	焚口	8層 第3段階埋土	第3	須恵器高台杯	底径8.1 器高3.9	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ・不定方向のナデ。	密	やや良好	内外面灰		3
287	2222	第122回 PL.87	窯3		8層 第3段階埋土	第3	須恵器高台杯	底径8.8※ 器高3.5	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ・不定方向のナデ。	密	良好	内外面灰白		3
288	3077	第122回 PL.87	窯3		16層直上～16層 第3段階床直～第2段階埋土	第3	須恵器高台杯	底径9.0※ 器高4.7	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面暗青灰 内面灰		3
289	2795	第122回 PL.86	窯3		第3段階床直 (第2の可能性あり)	第3	須恵器杯	口径11.2 底径6.7 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面青黒 内面灰白		4
290	2597	第122回 PL.86	窯3 (奥側傾斜面)		第3段階床直	第3	須恵器杯	口径12.2 底径7.1 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	不良	外面青黒 内面灰白		4
291	2917, 2910, 3075	第122回 PL.86	窯3		第3段階床直	第3	須恵器杯	口径12.1※ 底径7.8 器高4.35	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面淡黄・明褐 内面淡黄		4
292	2909	第122回 PL.87	窯3		第3段階床直	第3	須恵器杯	口径12.0※ 底径8.3※ 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	不良	外面淡黄 内面灰白		4
293	2912①	第122回 PL.87	窯3		第3段階床直	第3	須恵器杯	口径13.4※ 底径8.0※ 器高3.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面不定方向のナデ。	密	やや不良	内外面灰白		4
294	2912②	第122回 PL.87	窯3		第3段階床直	第3	須恵器杯	口径12.6※ 底径8.0※ 器高3.7	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		4
295	3250	第122回 PL.87	窯3	奥壁付近	第3段階床直	第3	須恵器杯	口径12.0※ 器高3.95△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・明黄褐		4
296	545, 2196	第122回 PL.87	窯3	焚口	検出面、8層 第3段階埋土	第3	須恵器皿	底径6.7 器高2.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 内面暗灰		5
297	1976, 1977, 2226	第122回 PL.88	窯3	南半	上層 8層 第3段階埋土	第3	須恵器壺	器高16.8△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰 内面灰		11
298	2183, 1863	第122回 PL.88	窯3	ベルトC	9層 第3段階埋土 1・3層 上層	第3	須恵器鉢	口径22.6※	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	不良	外面オリーブ黒 内面灰		18
299	2596, 3075, 3171, 2597, 3076	第123回 PL.89	窯3		第3段階床直	第3	須恵器壺	口径40.9※ 器高11.1△	外面2条(一部3条)の波状文。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・灰黄 内面灰白・黒褐	300と同一個体	15
300	2596, 2596, 2916, 3077, 3171	第123回 PL.89	窯3		第3段階床直	第3	須恵器壺	器高39.8	外面タタキ。内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	外面淡黄 内面灰白	299と同一個体	15
301	553	第124回 PL.86	窯3		上層	上層	須恵器高台杯	口径14.8※ 底径6.1※ 器高5.8	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰		2
302	1976	第124回 PL.86	窯3	南半	上層	上層	須恵器高台杯	口径13.6※ 器高5.1△	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 内面灰白		2
303	1744	第124回 PL.87	窯3	3N	1～3・6層 上層	上層	須恵器高台杯	底径8.8※ 器高4.7	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	内外面灰白		3
304	2226	第124回 PL.86	窯3		1～7層 上層	上層	須恵器高台杯	口径12.0※ 底径7.1 器高5.1	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや良好	内外面浅黄		3
305	1863	第124回 PL.87	窯3	ベルトC	1・3層 上層	上層	須恵器杯	口径12.6※ 底径7.0※ 器高4.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	外面灰 内面灰		4
306	1863	第124回 PL.87	窯3	ベルトC	1・3層 上層	上層	須恵器杯	口径12.0※ 底径6.0※ 器高4.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや良好	内外面灰白		4
307	2186	第124回 PL.86	窯3	焚口	根の攪乱(上層・第3段階埋土?)	上層	須恵器杯	口径12.4※ 底径6.4※ 器高3.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密 砂粒・石英を多く含む	良好	内外面灰		4
308	752	第124回 PL.87	窯3		焚口一括	上層	須恵器杯	口径12.0※ 底径7.0※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 内面黄灰		4
309	2186	第124回 PL.86	窯3		攪乱(上層・第3段階埋土?)	上層	須恵器皿	口径13.8※ 底径7.5 器高2.8	底部回転系切り。内外面回転ナデ。	密	良好	外面灰白・灰 内面灰白		5
310	752, 1860, 2226	第124回 PL.88	窯3		7層 上層	上層	須恵器壺	口径44.8※ 器高11.1△	外面回転ナデ。波状文2条。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面淡黄・明黄褐 内面灰白・淡黄		15
311	2013	第133回 PL.107	灰原1	g12	下層	-	須恵器高台杯	口径18.2※ 器高6.5△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	良好	外面オリーブ黒 内面浅黄橙 口縁部オリーブ黒	外面貼付突帯	1
312	1285	第133回 PL.107	灰原1	il1	下層	-	須恵器高台杯	器高2.6△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		1
313	1306	第133回 PL.107	灰原1	g14	上層	-	須恵器高台杯	口径17.5 底径8.4 器高9.6	外面回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰黄 内面黒・黄灰	外面貼付突帯	1
314	1292	第133回 PL.107	灰原1	ll1	上層	-	須恵器高台杯	口径18.0※ 器高4.7△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密 砂粒を多く含む	やや良好	内外面にぶい黄橙	外面貼付突帯	1
315	100, 729	第133回 PL.89	灰原1	k13	上層	-	須恵器高台杯	底径7.7※ 器高4.6△	外面回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面灰黄 内面灰白		1
316	100	第133回 PL.107	灰原1		表土	-	須恵器高台杯	口径14.4 底径9.2 器高5.2	外面回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	外面灰黄 内面灰白	外面端部欠損	1
317	561	第133回 PL.107	灰原1	k10・11	トレンチャー一括	-	須恵器高台杯	底径8.6※ 器高5.3△	外面回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付後ナデ。底部回転系切り。内面回転ナデ。	やや密 石英・雲母を少し含む	やや良好	外面灰黄 内面浅黄		1

第5章 古代以降の調査

表56 須恵器観察表(6)

※復元値 △現存値

掲載 番号	取上番号	埴田 PL	調査区 遺構	小ク リッド	層位	帰属	種別 器種	量目(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類 番号
318	3199-①	第133園 PL.93	灰原1	f11	下層	-	須恵器 高台杯	口径15.2※ 底径8.0※ 器高6.2	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰白		2
319	3199-②	第133園 PL.93	灰原1	f11	下層	-	須恵器 高台杯	口径7.0※ 底径2.1△	外面回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付後 ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰白		3
320	1292	第133園 PL.89	灰原1	l11	上層	-	須恵器 高台杯	口径15.0 底径7.7 器高6.4	外面回転ナデ。底部回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面黒・にぶい黄 内面浅黄		3
321	767	第133園 PL.89	灰原1	l10	上層	-	須恵器 高台杯	口径14.7 底径7.2 器高6.3	外面回転ナデ。底部回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰黄 内面灰黄・にぶい黄		3
322	1074	第133園	灰原1	k9	上層	-	須恵器 高台杯	口径13.4※ 底径4.8△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	内外面灰黄		6
323	3200	第133園 PL.93	灰原1	e11	上層	-	須恵器 高台杯	口径8.0 底径5.2 器高5.2	外面回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰	外面端部 欠損	1
324	1002	第133園 PL.93	灰原1	k11	上層	-	須恵器 高台杯	口径8.2 底径3.9 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰黄		3
325	1012, 2076	第133園 PL.93	灰原1	ll4, j12	上層	-	須恵器 高台杯	口径7.0※ 底径2.8△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	良好	内外面灰		3
326	1002	第133園 PL.93	灰原1	k11	上層	-	須恵器 高台杯	口径7.6※ 底径1.6△	外面高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面灰白 内面灰黄		3
327	561,1002 1292,2007 2009,2024 3195	第133園 PL.90	灰原1	k10, ll,k11 ll1, g12,k12.	下層	-	須恵器 高台杯	口径15.0 底径7.7 器高6.4	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面黄灰 内面灰黄		2
328	375	第133園	灰原1		排土	-	須恵器 高台杯	口径7.9※ 底径3.8△	外面回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付後 ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面黒褐 内面にぶい黄褐・褐灰		3
329	2013	第134園 PL.93	灰原1	ベルト g12	下層	-	須恵器 杯	口径13.0 底径7.0 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	砂粒を多く含む	やや良好	外面黄灰 内面灰黄		4
330	3199	第134園 PL.93	灰原1	f11	下層	-	須恵器 杯	口径11.9 底径7.0 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 角閃石・黒雲母 を多く含む	不良	内外面灰黄		4
331	3191	第134園	灰原1	e11	下層	-	須恵器 杯	口径12.8 底径7.4 器高3.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰黄		4
332	3199	第134園 PL.93	灰原1	f11	下層	-	須恵器 杯	口径11.8※ 底径6.2※ 器高4.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面灰白 内面灰黄		4
333	3197	第134園	灰原1	g11	下層	-	須恵器 杯	口径11.2※ 底径6.4※ 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面灰 内面灰黄		4
334	3197	第134園	灰原1	g11	下層	-	須恵器 杯	口径11.3※ 底径6.4※ 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰白		4
335	2009	第134園 PL.90	灰原1	ベルト g12	下層	-	須恵器 杯	口径7.0 底径3.0 器高3.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面にぶい黄橙	外面端部 欠損	4
336	3199	第134園	灰原1	f11	下層	-	須恵器 杯	口径6.6 底径3.3△ 器高3.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密 砂粒を多く含む	不良	内外面灰白		4
337	1292	第134園 PL.90	灰原1	ll1	上層	-	須恵器 杯	口径11.2 底径6.3 器高4.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面オリーブ黒・灰白 内面黄灰・灰白		4
338	1609	第134園 PL.90	灰原1	k10	上層	-	須恵器 杯	口径12.5 底径6.6 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面褐灰		4
339	2024, 2031	第134園 PL.90	灰原1	ベルト k12, ベ ルトl12	上層	-	須恵器 杯	口径12.0 底径7.0 器高3.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰黄		4
340	1292-①	第134園 PL.90	灰原1	ll1	上層	-	須恵器 杯	口径11.8※ 底径6.6※ 器高3.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
341	1290	第134園 PL.94	灰原1	k11	上層	-	須恵器 杯	口径12.4 底径6.4 器高3.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
342	1292-②	第134園 PL.93	灰原1	ll1	上層	-	須恵器 杯	口径12.3※ 底径6.4※ 器高4.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面黄灰・灰黄 内面浅黄		4
343	741, 1306, 1307	第134園 PL.90	灰原1	g14, e13	上層	-	須恵器 杯	口径11.2 底径6.0 器高3.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		4
344	1207	第134園	灰原1	n13	上層	-	須恵器 杯	口径11.0※ 底径6.6※ 器高3.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密 砂粒を多く含む	不良	外面灰オリーブ 内面黄灰		4
345	766-①	第134園 PL.90	灰原1	ll1	上層	-	須恵器 杯	口径12.1 底径7.0 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰黄		4
346	2031	第134園 PL.94	灰原1	ll2	上層	-	須恵器 杯	口径12.3※ 底径7.2※ 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面灰 内面灰・灰白		4
347	1292	第134園 PL.91	灰原1	ll1	上層	-	須恵器 杯	口径12.8 底径7.0 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面浅黄		4
348	766-②	第134園 PL.93	灰原1	ll1	上層	-	須恵器 杯	口径12.8 底径7.2 器高4.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面黒褐 内面にぶい黄橙		4
349	1292	第134園 PL.93	灰原1	ll1	上層	-	須恵器 杯	口径12.2 底径7.4 器高4.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰黄		4
350	1002	第134園 PL.93	灰原1	k11	上層	-	須恵器 杯	口径13.0※ 底径3.7 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密 砂粒を多く含む 角閃石・雲母を 多く含む	やや不良	外面灰白 内面浅黄		4
351	1102	第134園 PL.93	灰原1	h11	上層	-	須恵器 杯	口径12.5 底径7.0 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰黄		4
352	1098	第134園	灰原1	f10	上層	-	須恵器 杯	口径12.2 底径7.4 器高3.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰黄		4
353	1036	第134園 PL.93	灰原1	h11	上層	-	須恵器 杯	口径14.3 底径6.6 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面褐灰 内面灰白		4
354	3192	第134園 PL.94	灰原1	e11	上層	-	須恵器 杯	口径11.6 底径6.0 器高3.7	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		4
355	1098	第134園	灰原1	f10	上層	-	須恵器 杯	口径13.2 底径6.6 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰黄		4
356	1179	第134園	灰原1	f11	上層	-	須恵器 杯	口径12.2※ 底径6.2※ 器高3.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	内外面灰白		4

表57 須恵器観察表(7)

※復元値 △現存値

掲載番号	取上番号	検出地	調査区	小グリップ	層位	帰属	種別	種別	量目 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類番号
357	1033	第134図	灰原1	g11	上層	-	須恵器	杯	口径10.6※ 底径4.8※ 器高3.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	内外面灰		4
358	1609	第134図 PL.91	灰原1	k10	上層	-	須恵器	杯	口径13.8※ 底径7.0 器高5.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面灰 内面灰黄		17
359	1033	第134図	灰原1	g11	上層	-	須恵器	杯	口径7.0※ 底径3.0※ 器高3.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	不良	内外面灰白		4
360	2031	第134図	灰原1	l12	上層	-	須恵器	杯	口径6.0※ 底径2.1△ 器高2.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面黄灰 内面灰		4
361	1109	第134図	灰原1	d11	上層	-	須恵器	杯	口径7.0※ 底径2.4△ 器高2.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面浅黄		4
362	562	第134図 PL.93	灰原1	k8,9	トレンチ一括	-	須恵器	杯	口径13.0 底径6.8 器高3.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰黄		4
363	375	第134図	灰原1		排土	-	須恵器	杯	口径11.6 底径6.4 器高3.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		4
364	375	第134図	灰原1		排土	-	須恵器	杯	口径11.8 底径6.6 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白 内面灰黄		4
365	375	第134図 PL.91	灰原1		排土	-	須恵器	杯	口径12.1 底径7.2 器高3.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰		4
366	375	第134図 PL.91	灰原1		排土	-	須恵器	杯	口径12.7 底径6.8 器高3.7	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや良好	内外面灰		4
367	1291, 1610	第135図 PL.91	灰原1	k11	下層	-	須恵器	皿	口径13.8 底径7.7※ 器高2.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	外面灰 内面浅黄		5
368	1608	第135図 PL.94	灰原1	l11	上層	-	須恵器	皿	口径14.2※ 底径7.2※ 器高2.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面にふい黄橙		5
369	1287	第135図 PL.94	灰原1	j11	上層	-	須恵器	皿	口径14.2※ 底径6.4※ 器高2.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面浅黄 内面灰白		5
370	2080	第135図 PL.94	灰原1	h11	上層	-	須恵器	皿	口径14.0※ 底径7.0※ 器高2.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面浅黄・一部黒褐 内面灰黄・一部黄灰		5
371	3192	第135図 PL.94	灰原1	e11	上層	-	須恵器	皿	口径13.1 底径6.6 器高2.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面浅黄		5
372	1292	第135図 PL.94	灰原1	l11	上層	-	須恵器	皿	口径13.2※ 底径5.6 器高2.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや不良	外面灰白 内面にふい黄橙		5
373	1608	第135図 PL.94	灰原1	l11	上層	-	須恵器	皿	口径14.8 底径7.6 器高2.7	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	外面灰白 内面灰黄		5
374	2100	第135図 PL.94	灰原1	j11	上層	-	須恵器	皿	口径12.0 底径6.4 器高2.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		5
375	1292	第135図 PL.94	灰原1	l11	上層	-	須恵器	皿	口径12.1 底径5.4 器高2.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	やや良好	内外面灰黄		5
376	1004	第135図 PL.94	灰原1	m11	上層	-	須恵器	皿	口径12.8※ 底径7.0※ 器高2.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	良好	外面黄灰 内面灰白		5
377	1113	第135図 PL.94	灰原1	j13	上層	-	須恵器	皿	口径11.5※ 底径6.2※ 器高1.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	内外面灰		5
378	1291	第135図 PL.94	灰原1	k11	上層	-	須恵器	皿	口径12.6 底径7.2 器高2.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面灰白 内面灰黄		5
379	2031, 579	第135図 PL.91	灰原1	l12, サ プトレA 南側北 寄りb11 ~e11	上層	-	須恵器	皿	口径13.0 底径7.6 器高3.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密 砂粒を少し含む	やや不良	内外面灰白		5
380	3200	第135図 PL.94	灰原1	e11	上層	-	須恵器	皿	口径12.0※ 底径6.4※ 器高2.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面浅黄・一部黒褐 内面浅黄・一部黄灰		5
381	1033	第135図 PL.94	灰原1	g11	上層	-	須恵器	皿	口径11.8※ 底径6.4※ 器高2.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面黄灰		5
382	775	第135図	灰原1	n10	上層	-	須恵器	皿	口径11.8※ 底径6.4※ 器高2.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	不良	外面黒・浅黄橙 内面オリーブ黒・浅黄 橙		4
383	1113	第135図 PL.94	灰原1	j13	上層	-	須恵器	高台皿	口径11.8※ 底径8.0※ 器高2.7	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰黄		18
384	577	第135図 PL.94	灰原1	サプ トレA北 側南寄 りe11~ h11	上層	-	須恵器	高台皿	口径11.8※ 底径6.0※ 器高2.8	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰白		18
385	741	第135図 PL.94	灰原1	g14	上層	-	須恵器	高台皿	口径7.2 器高1.8	外面回転ナデ。底部回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰黄	外面端部 欠損	18
386	349	第135図 PL.94	灰原1		表土	-	須恵器	高台皿	口径8.6※ 器高2.0	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰黄 内面黄灰		18
387	3200	第135図 PL.95	灰原1	e11	上層	-	須恵器	長頸壺	器高6.5△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面黄灰 内面暗灰黄	内面粘土 接合痕あり	9
388	1194	第135図 PL.95	灰原1	d11	上層	-	須恵器	長頸壺	器高6.6△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		9
389	763, 851, 2275, 3003	第135図	灰原1 窯1 窯2	l12, 3S	窯1 新段階 窯1 新床直 窯2 古段階	-	須恵器	壺	口径14.6※ 器高15.5△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面灰黄 内面黄灰		11
390	1702	第135図 PL.95	灰原1	k8~k10	トレンチ	-	須恵器	小壺	口径3.4※ 器高2.6△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
391	2230	第135図 PL.91	灰原1		上層	-	須恵器	長頸壺 (水甌)	口径4.6 器高8.1	内外面回転ナデ。	密	やや良好	外面灰白・黄灰 内面灰白		18
392	1671	第135図 PL.95	灰原1	f13	上層	-	須恵器	壺	口径6.4※ 器高5.8△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや良好	外面にふい黄 内面灰黄		18
393	2081	第135図 PL.95	灰原1	h14	上層	-	須恵器	短頸壺	器高2.2△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。 内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面黄灰 内面灰黄		18
394	375	第135図 PL.95	灰原1		排土	-	須恵器	壺	器高1.6△	内外面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		18
395	1116	第135図 PL.95	灰原1	k13	上層	-	須恵器	短頸壺	口径9.4※ 器高3.7△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。 外面耳。接合後穿孔。 外面タタキ。	やや密	やや良好	内外面灰白		18
396	375	第135図 PL.95	灰原1		排土	-	須恵器	瓶類	器高3.5△	内面同心円状の当て具痕。 外面回転ナデ・ヘラケズリ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰白		14
397	350, 3202	第135図	灰原1	e10	表土 上層	-	須恵器	壺	口径10.0 器高5.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		11

第5章 古代以降の調査

表58 須恵器観察表(8)

※元値値 △現存値

掲載番号	取上番号	押図 PL	調査区 遺構	小ケリッド	層位	帰属	種別 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類番号
398	1030	第136図 PL.95	灰原1	f11	上層	-	須恵器 鉢形器	器高3.6△	外面回転ナデ・ヘラケズリ。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面黄灰 内面灰黄		18
399	375	第136図 PL.95	灰原1		排土	-	須恵器 鉢形器	口径25.2※ 器高2.1△	外面ケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰黄		18
400	375	第136図 PL.95	灰原1		排土	-	須恵器 鉢形器	器高6.5△	外面回転ナデ・ヘラケズリ。内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰		18
401	2097	第136図 PL.95	灰原1	ベルト h12	下層	-	須恵器 鉢形器	口径25.6※ 器高5.1△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		18
402	1098	第136図 PL.95	灰原1	f10	上層	-	須恵器 鉢形器	口径20.6※ 器高4.0△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	内外面灰黄		18
403	1179	第136図 PL.95	灰原1	f11	上層	-	須恵器 鉢形器	口径23.6※ 器高6.3△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面灰オリーブ 内面灰		18
404	1186	第136図 PL.95	灰原1	i10	上層	-	須恵器 鉢形器	口径30.8※ 器高4.2△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	内外面灰		18
405	728	第136図 PL.95	灰原1	k14	上層	-	須恵器 鉢形器	口径17.2※ 器高5.5△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや不良	内外面灰黄		18
406	576	第136図 PL.95	灰原1	e11~ h11	上層	-	須恵器 鉢形器	口径19.2※ 器高6.4△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面灰黄 内面暗灰黄		18
407	1033	第136図 PL.95	灰原1	g11	上層	-	須恵器 鉢形器	器高4.4	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
408	1002-①	第136図 PL.108	灰原1	k11	上層	-	須恵器 風字規	器高2.9△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ・ケズリ。	やや密	やや不良	内外面灰・灰白		18
409	1002-②	第136図 PL.108	灰原1	k11	上層	-	須恵器 風字規	器高1.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ・ケズリ。	やや密	やや不良	外面オリーブ黒・灰黄 内面浅黄		18
410	758	第136図	灰原1	k10	上層	-	須恵器 転用焼台	長8.3 幅7.8 厚1.9	表：須恵器底部片接着(壺または甕)・土接着 裏：土・須恵器粘土片接着	密	良好	内外面灰	甕片転用	17
411	1613	第136図	灰原1	m11	上層	-	須恵器 転用焼台	底径8.6※ 器高3.2△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。	密 砂粒を多く含む		内外面灰	高台杯転用	17
429	1129	第140図 PL.92	灰原2	q16	上層	-	須恵器 高台杯	底径7.2 器高4.2△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰黄		3
430	352-①	第140図 PL.97	灰原2		表土	-	須恵器 高台杯	口径11.4※ 底径7.6※ 器高4.3△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰黄 内面黄灰		3
431	413	第140図 PL.97	灰原2		表土	-	須恵器 高台杯	底径9.2 器高3.2△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面黄灰 内面灰黄		3
432	365	第140図 PL.97	灰原2		表土	-	須恵器 高台杯	底径8.8※ 器高3.2△	外面回転ナデ・ケズリ・高台貼付ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		3
433	355	第140図 PL.92	灰原2		攪乱	-	須恵器 高台杯	器高3.8△	外面回転ナデ。底部回転糸切り後ナデ消し。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		3
434	856	第140図 PL.97	灰原2	t16	上層	-	須恵器 杯	口径12.7※ 底径6.6 器高3.5	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面黄灰 内面灰白		4
435	1064	第140図 PL.97	灰原2	r16	上層	-	須恵器 杯	口径10.6※ 底径6.3※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 口縁部青灰		4
436	493, 1064, 1684	第140図 PL.92	灰原2 灰原3		上層	-	須恵器 皿	口径14.2 底径7.0 器高2.3	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		5
437	352-②	第140図 PL.97	灰原2		表土	-	須恵器 皿	口径13.1※ 底径7.0※ 器高2.0	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		5
438	1129	第140図 PL.97	灰原2	q16	上層	-	須恵器 高台皿	底径8.2 器高2.1△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	やや密	やや良好	外面灰オリーブ 内面灰・一部灰白		18
439	369	第140図 PL.97	灰原2		検出面	-	須恵器 高台皿	底径8.4 器高2.0△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面黒褐・一部淡黄 内面淡黄		18
440	1063	第140図 PL.92	灰原2	w16	上層	-	須恵器 長頸壺	口径10.8 器高7.9△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰・一部オリーブ 黒 内面灰		10
441	854, 352	第140図 PL.92	灰原2	v16	上層	-	須恵器 長頸壺	口径8.9 器高6.1△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		11
442	1281-①	第140図 PL.97	灰原2	t15	上層	-	須恵器 罎	口径12.1※	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
443	1281-②	第140図 PL.97	灰原2	t15	上層	-	須恵器 鉢形器	口径19.6※ 器高3.1△	外面回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰黄		18
444	854	第140図	灰原2	v16	上層	-	須恵器 転用焼台	底径6.3 器高2.7△	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		17
449	1633	第142図 PL.92	灰原3	r9	下層	-	須恵器 高台杯	底径9.2※ 器高5.0△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面黄灰 内面灰白		1
450	1229	第142図 PL.107	灰原3	p9	下層	-	須恵器 高台杯	底径10.6※ 器高4.9△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密 砂粒を含む	不良	内外面灰白	外面端部欠損	1
451	811	第142図 PL.107	灰原3	t10	上層	-	須恵器 高台杯	底径13.2※ 器高5.2△	外面ケズリ後ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰 内面灰白	外面端部欠損	1
452	338, 1038, 1900, 1974, 2036	第142図 PL.96	灰原2 灰原3	p9, ベルト s8, ベルト r9	下層	-	須恵器 高台杯	底径8.4※ 器高5.1△	外面高台貼付ケズリ後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密 砂粒を少し含む	良好	内外面灰	外面端部欠損	1
453	399	第142図 PL.107	灰原3		表土	-	須恵器 高台杯	口径19.6※ 器高7.0△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 内面灰オリーブ	底部欠損	1
454	2035	第142図 PL.97	灰原3	ベルト r8	下層	-	須恵器 高台杯	底径8.2※ 器高2.9△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰	外面端部欠損 全体的に歪みが大きい	3
455	1630	第142図 PL.92	灰原3	q9	下層	-	須恵器 高台杯	底径7.6※ 器高6.7△	外面回転ナデ・高台貼付後ケズリ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰	外面端部欠損	3
456	1636	第142図 PL.92	灰原3	t9	上層	-	須恵器 高台杯	口径15.8※ 底径6.6※ 器高6.3	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		3
457	1001	第142図 PL.96	灰原3	s10	上層	-	須恵器 高台杯	底径7.8 器高4.5△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰	外面端部欠損	3
458	1897	第142図 PL.97	灰原3	ベルト r7	上層	-	須恵器 高台杯	底径8.0※ 器高5.4△	外面回転ナデ・高台貼付後ケズリ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白	外面端部欠損	3
459	440-②	第142図 PL.97	灰原3		表土	-	須恵器 高台杯	底径7.4※ 器高4.9△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密 石英・雲母を多く含む	やや不良	外面黒褐 内面黄灰	外面端部欠損	3
460	1627	第142図 PL.96	灰原3	p8	下層	-	須恵器 杯	口径12.7※ 底径7.3 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	良好	内外面オリーブ黒		4
461	1235	第142図 PL.97	灰原3	S9	下層	-	須恵器 杯	口径11.9※ 底径6.4※ 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	不良	外面オリーブ黒 内面灰白		4
462	1629	第142図 PL.97	灰原3	q8	下層	-	須恵器 杯	口径12.0※ 底径7.0※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転糸切り。内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面褐灰		4

表59 須恵器観察表(9)

※復元値 △現存値

掲載番号	取上番号	挿図 PL	調査区 遺構	小ク リップ	層位	帰属	種別 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類 番号
463	1798	第142図 PL.96	灰原3	p9	下層	-	須恵器 杯	口径127※ 底径6.8※ 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		4
464	1636	第142図 PL.97	灰原3	t9	上層	-	須恵器 杯	口径130※ 底径7.0※ 器高4.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		4
465	837	第142図	灰原3	q10	上層	-	須恵器 杯	口径117※ 底径7.0※ 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	外面灰オリーブ 内面灰オリーブ・灰白		4
466	837	第142図	灰原3	q10	上層	-	須恵器 杯	口径124※ 底径6.4※ 器高3.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		4
467	1068, 1267	第142図 PL.96	灰原3	q7, p7, q7, r7	上層	-	須恵器 杯	口径120※ 底径6.8※ 器高4.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰黄		4
468	539	第142図 PL.97	灰原3		擾乱	-	須恵器 杯	口径125※ 底径6.6※ 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を少し含む	やや不良	内外面灰白		4
469	1037	第142図	灰原3	p8	上層	-	須恵器 杯	器高2.3※	内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面オリーブ黒 内面灰黄		4
470	1879	第142図 PL.96	灰原3	q7	下層	-	須恵器 皿	口径132※ 底径7.2※ 器高2.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		5
471	2035	第142図 PL.96	灰原3	ベルト r8	下層	-	須恵器 皿	口径135 底径6.9 器高2.5	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		5
472	879	第142図 PL.97	灰原3	s9	上層	-	須恵器 皿	口径132※ 底径7.2※ 器高2.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		5
473	1038	第142図	灰原3	p9	上層	-	須恵器 皿	口径132※ 底径7.2※ 器高2.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		5
474	1315, 1972	第142図 PL.96	灰原3	q9, ベ ルトq8	下層	-	須恵器 皿	口径139 底径7.0 器高2.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面浅黄		5
475	815, 1048	第142図 PL.99	灰原3	s10, t9	上層	-	須恵器 高台皿	底径7.4※ 器高1.8△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。	密	良好	N0.815:内外面灰 No.1048:内外面黄灰		18
476	876	第142図	灰原3	q9	上層	-	須恵器 高台皿	口径112※ 底径5.2※ 器高2.7△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		18
477	797, 1898	第142図 PL.97	灰原3	s6, ベ ルトr8	上層	-	須恵器 高台皿	底径7.4※ 器高1.4△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰	外面端部 欠損	18
478	440①	第142図 PL.97	灰原3		上層	-	須恵器 高台皿	底径6.2※ 器高2.7△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白	外面端部 欠損	3
479	1974	第143図 PL.98	灰原3	ベルト r9	下層	-	須恵器 平皿	口径62※	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 内面黄灰		18
480	1228	第143図 PL.98	灰原3	p8	下層	-	須恵器 小壺	口径22※ 器高3.1△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白	外面端部 欠損	18
481	352, 839, 815	第143図 PL.99	灰原2 灰原3周辺 灰原3	v16, t14, s10	上層	-	須恵器 壺	底径7.4※ 器高10.7△	外面回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰・褐灰 内面オリーブ黒		18
482	1231, 1629, 1897, 1963	第143図	灰原3	q8, ベ ルト r7, ベ ルト r9	下層	-	須恵器 長頸壺	器高6.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰	外面端部 欠損	11
483	539, 755	第143図	灰原3	g8	上層	-	須恵器 長頸壺	器高9.8△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰		9
484	830, 1684	第143図 PL.98	灰原3	q7, t7	上層	-	須恵器 壺	底径13.2※ 器高5.8△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	灰白	外面端部 欠損	11
485	1676, 2035	第143図 PL.98	灰原3	s7, ベ ルト r8	下層	-	須恵器 壺	底径15.0※ 器高7.7△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰・紫灰 内面灰	外面端部 欠損	11
486	2034	第143図 PL.98	灰原3	ベルト r8	下層	-	須恵器 壺	器高2.8△	外面ヘラケズリ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
487	1269	第143図 PL.98	灰原3	o8, o9, o10	下層	-	須恵器 壺	器高1.3△	外面ヘラケズリ・回転ナデ。内面回転ナ デ。	密 砂粒を多く含む	良好	内外面黄灰	外面端部 欠損	18
488	1630	第143図 PL.98	灰原3	q9	下層	-	須恵器 壺	器高1.5△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナ デ。	密 砂粒を多く含む	やや良好	内外面灰白	外面端部 欠損	18
489	1228	第143図 PL.98	灰原3	p8	下層	-	須恵器 壺	口径31.0 (参考値)	外面ケズリ・回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
490	876	第143図 PL.98	灰原3	q9	上層	-	須恵器 壺	口径12.2※ 器高2.5△	外面回転ナデ。天井部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰白		18
491	1633	第143図 PL.98	灰原3	r9	下層	-	須恵器 鉄鉢形 須恵器 鉄鉢形	口径23.0※ 器高2.9△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		18
492	876	第143図 PL.98	灰原3	q9	上層	-	須恵器 鉄鉢形 須恵器 鉄鉢形	口径23.0※ 器高4.0△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		18
493	1314	第143図 PL.98	灰原3	q8	下層	-	須恵器 鉄鉢形 須恵器 鉄鉢形	口径23.0※ 器高4.9△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		18
494	1045	第143図 PL.98	灰原3	r9	上層	-	須恵器 鉄鉢形 須恵器 鉄鉢形	口径25.7※ 器高5.2△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白	外面端部 欠損	18
495	815	第143図 PL.98	灰原3	s10	上層	-	須恵器 鉄鉢形 須恵器 鉄鉢形	口径25.0※ 器高6.0△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面暗灰黄		18
496	1037	第143図 PL.98	灰原3	p8	上層	-	須恵器 鉄鉢形 須恵器 鉄鉢形	口径27.6※ 器高6.3△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
497	1235	第143図 PL.98	灰原3	s9	下層	-	須恵器 壺	底径12.4※ 器高6.3△	外面回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ。 底部回転系切り。	密	良好	外面黄灰 内面灰黄		18
498	2032	第143図 PL.98	灰原3	s8	下層	-	須恵器 壺	底径11.5※ 器高4.5△	外面ヘラケズリ後回転ナデ・高台貼付後 ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		11
499	1228	第143図 PL.98	灰原3	p8	下層	-	須恵器 壺	底径10.2※ 器高4.0△	外面ヘラケズリ後回転ナデ・高台貼付後 ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を少し含む	やや不良	内外面灰白	外面端部 欠損	18
500	1973, 391	第143図 PL.108	灰原3 灰原1	ベルト v7	下層	-	須恵器 風字硯	器高1.3	外面回転ナデ。底部ヘラケズリ後ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
501	1634	第143図	灰原3	r10	下層	-	須恵器 転用焼台	長9.4 幅8.7 厚1.8	表：円形を残して黒色化 裏：部分的に黒色化	密	良好	裏片転用		17
502	1634	第143図	灰原3	r10	下層	-	須恵器 転用焼台	長11.1 幅9.1 厚2.3	同一個体の裏片が2個搭着 内面車輪文の当て具痕 表：須恵質粘土搭着。瓦か？ 裏：礫搭着。全体に暗灰色化し光沢を帯 びる。	密	良好	内外面灰	裏片転用	17
503	1899	第143図	灰原3	r10	上層	-	須恵器 転用焼台	長9.6 幅6.9 厚2.4	表：須恵質焼粘土搭着。瓦か？ 砂搭着 裏：一部黒色化	密	良好	外面灰・黒 内面灰	裏片転用	17

第5章 古代以降の調査

表60 須恵器観察表(10)

※復元値 △現存値

掲載 番号	取上番号	埴田 PL	調査区 遺構	小グ リッド	層位	帰属	種別 器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類 番号
515	354, 400, 463, 387, 546, 556, 779, 811, 875, 879, 1272, 1229, 1792, 2036, 2232, 3100, 1713, 1635, 1678, 1784, 1975	第147園 PL.99	窯1 窯2 窯3 灰原1 灰原2 灰原3	※接合する破片が多く、小グリッド・層位とも多岐にわたるため省略。表47を参照。		-	須恵器 横瓶	口径11.6※ 器高27.75 △	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	良好	内外面灰白	外面指頭 圧痕	14
516	414, 1658, 1856, 2175, 2532, 3003, 1693, 1042, 1695, 1870, 352, 493, 399, 805, 815, 826, 827, 838, 875, 879, 1001, 1045, 1049, 1068, 1232, 1234, 1235, 1272, 1629, 1633, 1635, 1684, 1685, 1793, 1799, 1869, 1974, 1975, 2035	第148園 PL.99 PL.100	窯1 窯2 道2 (c13, d13) 灰原1 灰原2 灰原3	※接合する破片が多く、小グリッド・層位とも多岐にわたるため省略。表47を参照。		-	須恵器 甕	口径49.5※ 器高44.2△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面灰白・黄灰	口縁外面 に波状文	15
517	1772, 556, 375, 1187, 1194, 811, 876, 1040, 1068, 1229, 1232, 1629, 1632, 1675, 1897, 1899, 1964, 2035, 2036, 830	第148園	窯1 灰原1 灰原3	※接合する破片が多く、小グリッド・層位とも多岐にわたるため省略。表47を参照。		-	須恵器 甕	口径41.0※ 器高9.8△	外面回転ナデ。 内面同心円文の当て具痕。	密	不良	内外面灰白・灰	口縁外面 に波状文	15
518	3100, 3191	第148園 PL.100	窯1 灰原1	ベルト A, e11	4~7層 埋め戻し 下層	-	須恵器 甕	口径46.2※ 器高7.9△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面浅黄		15
519	1610, 1892, 2100, 561, 1136, 1879, 1887	第148園 PL.100	灰原1 灰原3	k11, i10, j11, q7, p7 ~r7	上層・下層 上層・下層	-	須恵器 甕	口径46.0※ 器高15.3△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面黄	口縁外面 に波状文	15
520	14, 1695, 1870, 2000	第148園 PL.100	灰原1		上層	上層	須恵器 甕	口径54.3※ 器高10.7△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面灰白・暗灰	口縁外面 に波状文	15
521	576	第148園 PL.100	灰原1	サブト レA	上層	上層	須恵器 甕	口径42.2※ 器高10.0△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	良好	内外面黄灰		15
522	1677, 1679, 1799	第148園 PL.100	灰原3	s6, u7, s7	上層 下層	下層	須恵器 甕	口径38.6※ 器高9.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰 口縁部黒褐 内面灰・灰オリーブ		15
523	1207	第148園 PL.100	灰原1	h13	上層	上層	須恵器 甕	器高6.7△	外面一条の凹線・回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰 内面灰オリーブ		15
524	833, 2034	第148園 PL.100	灰原3	p7, ベ ルトr8	上層 下層	下層	須恵器 甕	口径12.4※ 器高7.7△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	良好	外面青灰 内面暗青灰		15
525	1870	第149園	灰原1周辺	北西部	暗褐色土	-	須恵器 高台杯	口径8.4※ 器高3.0△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	不良	外面にふい黄 内面浅黄		3
526	1094	第149園	灰原1周辺	h14.15	暗褐色土	-	須恵器 皿	口径11.6※ 底径6.0※ 器高2.1△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 直径0.5~1mmの 石英・長石の砂 粒を僅かに含む	良好	内外面灰		5
527	463-①	第149園 PL.107	灰原2周辺		表土	-	須恵器 高台杯	口径20.5※ 器高5.4△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・黄灰	外面貼付 突帯	1
528	463-②	第149園	灰原2周辺		表土	-	須恵器 杯	口径10.0※ 底径6.6※ 器高4.05△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒をやや多く 含む	良好	内外面灰		4
529	463-③	第149園	灰原2周辺		表土	-	須恵器 杯	口径12.0※ 底径6.6※ 器高3.8△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		4
530	388	第149園	灰原2周辺		表土	-	須恵器 長頸壺	器高7.1△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰	外面貼付 突帯	9
531	376	第149園	灰原1・2 付近		表土	-	須恵器 壺	口径18.8※ 器高2.7△	外面ヘラケズリ?・回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
532	1681	第149園	灰原3周辺	u5		-	須恵器 皿	口径13.0※ 底径7.0※ 器高2.7△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		5
533	792, 1066, 1069, 1681, 1685, 1686, 1796	第149園 PL.99	灰原3周辺	u5, v5.6, w5.6, 7.8, t4, u4		-	須恵器 長頸壺	口径14.8※ 器高8.6△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		9
534	5	第149園	灰原1・3		一括	-	須恵器 杯	口径12.8※ 底径6.8※ 器高3.9△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		4
535	7	第149園	灰原1・3		一括	-	須恵器 杯	口径12.0※ 底径6.0※ 器高3.8△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・オリーブ 黒		4
536	7	第149園	灰原1・3		一括	-	須恵器 鉢	口径32.4※ 器高5.3△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰	外面鉄分 付着?	18
537	354-①	第149園 PL.107	灰原1~3		排土	-	須恵器 高台杯	口径16.0※ 器高5.95△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面浅黄・灰	外面貼付 突帯	1
538	354-②	第149園	灰原1~3		排土	-	須恵器 高台杯	口径9.4※ 器高6.5△	外面回転ナデ・ヘラケズリ・高台貼付後 ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ・不定方向のナデ。	密	良好	内外面灰		3
539	354-③	第149園	灰原1~3		排土	-	須恵器 杯	口径12.0※ 底径6.4※ 器高4.5△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白・灰		4
540	100, 580	第149園	灰原1~3		上層	-	須恵器 杯	口径11.7※ 底径3.4※ 器高3.4△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
541	100	第149園	灰原1~3		表土	-	須恵器 皿	口径13.5※ 底径7.6※ 器高2.7△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		4
542	100	第149園 PL.95	灰原1~3		表土	-	須恵器 平瓶	-	外面面取り。	密	不良	内外面灰・灰白	把手	18
543	354-⑤	第149園	灰原1~3		排土	-	須恵器 鉢形 須恵器	口径20.6※ 器高6.2△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	不良	外面灰 内面黄灰		18
544	354, 925	第149園 PL.99	灰原1~3		排土 耕作土	-	須恵器 瓶類また は甕	口径16.8※ 器高5.5△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面灰白		14

表61 須恵器観察表(11)

※復元値 △現存値

掲載 番号	取上番号	検出 PL	調査区 遺構	小ク リッド	層位	帰属	種別 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類 番号
545	354④	第149回	灰原1~3		排土	-	須恵器 瓶類	器高7.6△	外面タタキ。内面同心円文の当て具痕。	密	やや不良	内外面灰白	外面貼付 突帯	12
546	1657	第150回	道1	窯2南半 付近	埋土中	-	須恵器 杯	口径12.8※ 底径7.2※ 器高4.1	底部回転系切り。 内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面にぶい黄橙 内面にぶい黄橙・灰黄 褐		4
547	1668②	第150回	道1	灰原2付 近	埋土中	-	須恵器 杯	口径11.1※ 底径6.0※ 器高4.2	底部回転系切り。 内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
548	1668①	第150回	道1	灰原2付 近	埋土中	-	須恵器 杯	口径11.2※ 底径5.8※ 器高4.0	底部回転系切り。 内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
549	1691②	第150回	道1	e15. f15.g15	埋土中	-	須恵器 高台皿	底径7.2※ 器高3.1	底部回転系切り。 内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰黄・灰 内面灰		18
550	1093	第150回	道1	i16	埋土中	-	須恵器 高台皿	底径7.0※ 器高1.6△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面底部灰白・体部オ リーブ黒 内面灰白・オリーブ黒		18
551	1689	第150回	道2	窯1~2の 間	埋土中	-	須恵器 高台皿	口径13.4※ 底径6.6※ 器高2.7	底部回転系切り。 内外面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰白・暗灰 内面灰黄・暗灰		18
552	2665	第150回	道2		埋土中	-	須恵器 高台皿	底径6.6※ 器高1.8△	内外面回転ナデ・回転系切り。	密	良好	内外面黄灰		18
553	1691①	第150回	道1	e15. f15.g15	埋土中	-	須恵器 高台杯	口径15.4※ 底径7.5※ 器高7.5	外面回転ナデ・ケズリ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰黄		2
554	1093	第150回	道1	i16	埋土中	-	須恵器 高台杯	底径8.0※ 器高4.6△	外面回転ナデ・ヘラケズリ後ナデ・高台 貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	やや密	やや不良	外面浅黄・ぶい黄 内面淡黄		3
555	1694	第150回	道2	e13. f13.g13	埋土中	-	須恵器 高台杯	口径15.4※ 底径6.2※ 器高7.0	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密 砂粒を少し含む	やや良好	内外面灰		2
556	1693	第150回	道2	c13. d13	埋土中	-	須恵器 壺または 平瓶	器高4.0△	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白	外面貼付 突帯	9
557	1692	第150回	道1		埋土中	-	須恵器 壺	器高4.7	外面連続刺突文。内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰白		15
560	958	第158回 PL103	テラス1		埋土中	-	須恵器 皿	底径8.8※ 器高1.5△	外面回転ナデ。内面回転ナデ。	やや粗	良好	内外面灰白		5
561	910	第158回 PL103	テラス1		床直	-	須恵器 長頸壺	器高5.6△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	外面黒・灰 内面黒	外面貼付 突帯	9
562	989	第158回 PL103	テラス1		床直	-	須恵器 壺	器高5.5△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密 直径1mmの砂粒 を多く含む	良好	外面にぶい黄 内面にぶい黄褐		15
563	897	第158回 PL103	テラス1		埋土中	-	須恵器 壺	器高23.7△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	良好	外面にぶい黄橙 内面灰黄褐		15
564	962	第158回 PL103	テラス1		表土中	-	須恵器 壺	器高9.8△	外面回転ナデ・波状文・3条の沈線文。 内面回転ナデ。	密 直径1mmの石英・ 長石を僅かに含 む	良好	外面にぶい黄 内面灰オリーブ		15
565	900	第158回	テラス1		II層	-	須恵器 高台杯	器高5.7△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白	外面貼付 突帯	1
567	880, 916	第161回 PL101	排滓場1	i10	褐色土 褐色~黄灰褐色	-	須恵器 高台杯	底径6.4※ 器高4.7△	外面ケズリ後ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 雲母・石英を含 む	不良	外面暗灰黄 内面灰白		1
568	955	第161回	排滓場1	j11	黒褐色土	-	須恵器 壺	底径10.0※ 器高10.4△	外面ケズリ後回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 砂粒を少し含む	良好	外面暗青灰		11
570	616	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 高台杯	口径13.8※ 底径7.8※ 器高5.4	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好			3
571	570, 574, 583	第162回 PL101	排滓場2		埋土中	-	須恵器 高台杯	口径13.1 底径7.4 器高5.9	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白		3
572	537	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 高台杯	底径7.6※ 器高2.6△	外面回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		3
573	1755④	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 高台杯	口径12.1※ 底径7.4※ 器高4.9△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		3
574	537	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 高台杯	口径14.6※ 器高4.05△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	外面青灰・紫灰 内面青灰・黄褐	外面鉄サ ビ付着	6
575	569	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 高台杯	底径7.0※ 器高4.0△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		3
576	574	第162回 PL101	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径11.5※ 底径7.1 器高4.3	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面灰白	被熱によ るハジケ	4
577	583	第162回 PL101	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径11.4※ 底径6.5 器高4.2	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
578	1755②	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径11.3※ 底径6.3 器高4.0	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
579	569	第162回 PL101	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径11.4※ 底径6.0※ 器高3.9	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰 口縁部暗灰		4
580	569, 574	第162回 PL101	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径11.9※ 底径6.5 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	外面灰白 内面黄灰		4
581	570	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径11.2※ 底径5.7※ 器高4.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	内外面灰白		4
582	538, 524	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径12.6※ 底径8.2※ 器高3.75	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰黄		4
583	1755①	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径12.5※ 底径8.0※ 器高3.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰白 内面灰		4
584	1755③	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	口径11.4※ 底径6.7※ 器高4.1	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		4
585	1752	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 杯	底径6.9 器高3.1△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰白	ハジケた ように割 れている。 二次 焼成?	4
586	538	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 転用焼台	底径6.6※ 器高3.05△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰白・灰・暗灰 内面灰	転用	17
587	1755⑥	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 皿	口径13.8※ 底径5.8※ 器高2.4	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰白 内面灰		5
588	1755⑤	第162回	排滓場2		埋土中	-	須恵器 皿	口径14.2※ 底径7.0※ 器高2.6	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		5
589	1755, 617, 1752, 463, 518, 521	第162回 PL101	排滓場2		埋土中	-	須恵器 長頸壺	口径12.8※ 器高32.8△	外面回転ナデ・ヘラケズリ後回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 内面灰白		9

第5章 古代以降の調査

表62 須恵器観察表(12)

※復元値 △現存値

掲載 番号	取上番号	埴田 PL	調査区 遺構	小ケ リッド	層位	帰属	種別 器種	法量 (cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	分類 番号
590	583	第162図 PL.101	排滓場 2		埋土中	-	須恵器 壺	口径14.6※ 底径10.5※ 器高4.6△	外面ケズリ後回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	外面灰白 内面灰白		11
591	1755、574	第162図	排滓場 2		埋土中	-	須恵器 壺	底径14.3※ 器高7.4△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		11
592	537	第162図	排滓場 2		埋土中	-	須恵器 壺	底径10.6※ 器高10.0△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰オリーブ		11
593	538	第162図	排滓場 2		埋土中	-	須恵器 壺	口径1.9※ 器高5.2△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	不良	内外面灰白		15
597	2075	第209図	古代流路		埋土中	-	須恵器 高台杯	器高8.1△	外面回転ナデ・貼付突帯・回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰白		1
598	2744	第209図	古代流路	東西 ベルト	上層	-	須恵器 高台杯	底径6.9 器高4.0△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面浅黄		3
599	2626	第209図 PL.102	古代流路		埋土中	-	須恵器 杯	口径12.2※ 底径6.7※ 器高4.05△	外面ナデ。底部回転系切り。 内面ナデ。	密	やや良好	内外面灰白		4
600	2495	第209図	古代流路		埋土中	-	須恵器 皿	口径15.4※ 底径8.0※ 器高2.4~ 2.8	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面灰・淡黄 内面灰		5
601	3035、3054	第209図 PL.102	古代流路		埋土中	-	須恵器 長頸壺	口径11.6 器高6.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		11
602	2233	第209図	古代流路	東西 ベルト	上層	-	須恵器 長頸壺	器高5.1△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		9
603	2996	第209図	古代流路		埋土中	-	須恵器 壺	底径8.6 器高4.6△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		11
604	2536	第210図	1区		I層	-	須恵器 高台皿	底径6.4※ 器高1.9△	外面回転ナデ・高台貼付後ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	普通 砂粒を多く含む	やや不良	外面淡黄 内面浅黄		18
605	272	第210図 PL.107	1区		表土	-	須恵器 壺	口径13.3※ 器高3.1	外面天井部ヘラケズリ後ナデ。 内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む	良好	内外面灰		18
606	922	第210図	1区		I層	-	須恵器 壺	器高1.7△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰		18
607	236	第210図	1区		表土	-	須恵器 鉄鉢形	器高2.9△	内外面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白		18
608	568	第210図	1区		排土中	-	須恵器 平瓶	器高4.5△	ヘラケズリによる面取り	密	良好	内外面灰	把手	18
609	496	第210図 PL.102	1区		表土	-	須恵器 長頸壺	口径11.3 器高7.2△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面灰白・灰		10
610	297	第210図 PL.102	1区		表土	-	須恵器 長頸壺	口径12.3 器高6.9△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰・一部暗紫灰 内面灰・にぶい黄		10
611	2111	第210図	1区		表土	-	須恵器 長頸壺	器高7.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	普通	外面灰黄 内面灰黄・灰	外面貼付 突帯	9
612	3038	第210図 PL.102	1区		表採	-	須恵器 壺	底径7.0※ 器高6.1△	外面ヘラケズリ後回転ナデ。底部ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面褐灰	底部に工 具痕あり	11
613	285	第210図	1区		表採	-	須恵器 壺	底径7.0※ 器高4.5	外面回転ナデ。 底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰・灰白 内面灰		11
614	502	第210図	1区		表土	-	須恵器 壺	底径7.3 器高1.6△	外面回転ナデ。 底部回転系切り後ナデ消し。 内面回転ナデ。	密	やや良好	内外面灰		11
615	415	第210図 PL.108	1区		表土	-	須恵器 風字瓶	器高2.0	外面ナデ。内面ナデ。	密	やや良好	内外面灰黄		18
616	929	第210図 PL.108	1区		I層	-	須恵器 風字瓶	器高1.8△	内外面ナデ。脚ヘラケズリによる面取り。	密	やや不良	外面灰 内面灰白		18
617	367	第210図	1区		表土	-	須恵器 鉢	器高10.4△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	やや不良	外面にぶい黄橙 内面灰白		18
687	1222、717	第234図 PL.108	炭焼窯 4		埋土中 II層	-	須恵器 壺	口径35.8※ 器高9.4△	外面回転後ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	外面灰白 内面灰	二次焼成 を受け る。	15
688	2988	第248図	炭焼窯14		埋土中	-	須恵器 杯	底径7.7※ 器高3.1△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや良好	外面黄灰 内面浅黄		4
689	2893	第248図	炭焼窯14		埋土中	-	須恵器 高台杯	底径6.6 器高4.4△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	不良	外面灰 内面灰オリーブ		3
696	2975	第263図 PL.108	2区		II層	-	須恵器 高台杯	器高3.9△	内面回転ナデ。	密	良好	外面灰 内面灰白		1
697	112	第263図 PL.108	2区		II層	-	須恵器 高台杯	底径8.1※ 器高3.4△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	やや不良	内外面浅黄		3
698	84	第263図 PL.108	E14		II層	-	須恵器 杯	器高2.3△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面褐灰		18
699	85	第263図 PL.108	E14		II層	-	須恵器 杯	器高2.5△	外面回転ナデ。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面黄灰		18
700	20、84、 1592	第263図 PL.108	E14ほか		II層	-	須恵器 杯	底径9.3 器高1.4△	外面回転ナデ。底部回転系切り。 内面回転ナデ。	密	良好	内外面暗灰黄		18
701	89	第263図 PL.108	2区		II層	-	須恵器 瓶類または壺	口径14.5※ 器高6.7△	外面タタキ。 内面同心円文の当て具痕。	密	良好	外面灰オリーブ 内面オリーブ黒		14

表63 古代以降土師器観察表

掲載番号	取上番号	挿図PL	調査区	遺構グリッド層位	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
566	1922 1940 961	第158図 PL.103	1区	テラス1 埋土	土師器 鍋	口径30.6※ 器高6.05△	外面ナデ・横方向のハケメ・指オサエ・ハケメ。 内面ハケメ。	密 直径0.1mmの長石・雲母をわずかに含む	やや良好	外面にふい黄橙・黒褐 内面黄橙	外面スス付着
618	378 392	第210図 PL.103	1区	H8 H9.19 表土	土師器 甕	口径31.2※ 器高3.7△	外面ナデ。 内面ナデ・ヘラケズリ。	密 直径1mm以下の微砂粒を含む	良好	外面明褐 内面橙	
619	426	第210図 PL.103	1区	G8 表土	土師器 鍋	器高4.5△	外面ハケメ・指オサエ。 内面ハケメ。	密 直径1mmの長石を含む 雲母を非常に多く含む	良好	外面明黄褐・にふい黄橙 内面浅黄橙	
690	3060	第248図 PL.103	1区	炭焼窯14 埋土	土師器 甕	口径27.8※ 器高3.3△	外面ナデ。 内面ナデ。	密 直径0.2～0.5mmの長石を多く含む 雲母を多く含む	良好	外面にふい褐 内面明褐	外面スス付着
691	3060	第248図 PL.103	1区	炭焼窯14 2層	土師器 甕	器高3.5△	外面ナデ。 内面ナデ・ケズリ。	密 直径1mm以下の長石を含む 雲母・角閃石を多く含む	良好	内外面橙	
692	2894	第248図 PL.103	1区	B6 包含層	土師器 甕	器高4.0△	外面ナデ(一部強くナデ)。 内面ナデ。	密 直径0.01mmの石英・長石を多く含む	良好	内外面明赤褐	

表64 瓦観察表(1)

遺物番号	取上番号	挿図番号 PL	調査区	遺構層位	小グリッド	種類器種	法量(cm)			凹凸面整形・調整	側面・端面調整	胎土 焼成	隅数	備考
							側面長 端面長	厚さ	重量(g)					
120	2793	第85図 PL.110	1区	窯1 古壁うら		平瓦		3.0~4.3	1014	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ナデ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 須恵質	1	平瓦Ⅰ類
121	2514	第85図 PL.110	1区	窯1 新壁		平瓦		2.6~3.9	367	凸面：タテナデ 凹面：細布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅰ類
122	2314 他	第85図 PL.117	1区	窯1・道1 古段階埋土	ベルトA 道1	道具瓦 (隅切瓦)		4.1	1908	凸面：タテケズリ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 良	1	-
147	2265 他	第90図 PL.118	1区	窯1・灰原1・ 灰原3 新床直・上層	ベルトh14・s7・r7	瓦製相輪 九輪	内径：24.7 幅：9.0	2.4	730	表面：不明 裏面：布目後ナデ・ケズリ	-	密 須恵質	0	-
148	1725	第90図 PL.110	1区	窯1 新床直	2s	平瓦		3.1~4.2	753	凸面：タテケズリ 凹面：細布後タテナデ・タテケズリ	側面：ケズリ・凸面取 端面：ケズリ・凸面取	密 須恵質	1	平瓦Ⅰ類
149	2297	第90図 PL.110	1区	窯1 新段階埋土	ベルトA 3・4区	平瓦		1.1~1.5	96	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅳ類
166	1784	第92図 PL.110	1区	窯1 埋め戻し	ベルトB	平瓦		2.3~4.0	542	凸面：タテナデ・ヨコナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅰ類
167	3185	第92図 PL.110	1区	窯1 埋め戻し		平瓦		1.8	68	凸面：平行タタキ後タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	平瓦Ⅲ類
168	2227	第92図 PL.110	1区	窯1 埋め戻し		丸瓦		1.3~2.0	263	凸面：タテケズリ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲ類
169	2785	第93図 PL.111	1区	窯2 古壁裏込め		平瓦		1.5~4.3	1318	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅰ類
170	2788 他	第93図 PL.111	1区	窯2 古壁裏込め・ 上層	ベルトO12	平瓦		3.2~4.0	1184	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅰ類
225	2387	第102図 PL.111	1区	窯2 古段階埋土		平瓦		2.7~4.0	2706	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅰ類
226	2389 他	第103図 PL.111	1区	窯2 古段階埋土		平瓦		1.3~2.3	1060	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲa類
227	2533	第103図	1区	窯2 古段階埋土	2区	平瓦		1.0~1.4	82	凸面：ナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・凹面取 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅳ類
228	2532	第103図 PL.111	1区	窯2 古段階埋土	焚口付近	丸瓦		1.1~2.0	229	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	丸瓦Ⅲ類
229	3057 他	第103図 PL.111	1区	窯2 古段階埋土・ 上層	3区	平瓦		1.5~2.3	916	凸面：タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲa類
230	3057 他	第103図 PL.117	1区	窯2 古段階埋土・ 新床直	3区	道具瓦 (隅切瓦)		2.0~3.5	723	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ナデ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	-
231	2566	第104図 PL.110	1区	窯2 新壁		平瓦		2.6~3.9	2286	凸面：タテナデ 凹面：ヨコナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅰ類
232	2661	第104図 PL.111	1区	窯2 第2段階埋土	焚口	平瓦		1.9~2.8	691	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲa類
233	2529 他	第104図 PL.111	1区	窯2・窯1 新壁		平瓦		2.3~3.1	512	凸面：タテナデ 凹面：細布	側面：ナデ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅱ類
243	1643 他	第109図 PL.112	1区	窯2 新段階埋土・ 古段階埋土・ 新床直・新壁	3N・3S・2S・2区・ 2N・3区	平瓦	側面長： 51.2 広端長： 32.6 狭端長： 27.9	2.0~5.0	10,000	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	4	平瓦Ⅰ類
244	2130	第109図 PL.111	1区	窯2 新床直		平瓦	狭端長： 33.0	1.6~3.9	3920	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	2	平瓦Ⅰ類
245	1732 他	第110図 PL.111	1区	窯2 新床直・新段 階埋土・新壁	3S	平瓦	端部長： 32.2	2.3~5.5	3833	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	0	平瓦Ⅰ類
246	2125 他	第110図 PL.111	1区	窯2 新床直		平瓦	端部長： 34.0	2.5~5.0	3134	凸面：タテナデ 凹面：細布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 良	0	平瓦Ⅰ類
247	2234 他	第110図 PL.111	1区	窯2 新床直・上層		平瓦	端部長： 30.8	2.3~4.0	2865	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ	密 良	0	平瓦Ⅰ類
248	557他	第111図 PL.111	1区	窯2 新段階埋土・ 検出面	サブトレC・2S	平瓦	端部長： 33.3	1.5~3.4	2025	凸面：タテナデ 凹面：粗布後ナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅱ類
249	2172 他	第111図 PL.111	1区	窯2 新床直・新段 階埋土・新壁 上層	3S・e11	平瓦		3.0~5.2	4500	凸面：平行タタキ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅰ類
250	1089	第112図 PL.111	1区	窯2 新段階埋土	2S	平瓦		2.7~5.4	3757	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅰ類

第5章 古代以降の調査

表65 瓦観察表(2)

遺物番号	取上番号	挿入番号 PL	調査区	遺構 遺構	小グリッド	種類 器種	法量(cm)			凹凸面整形・調整	側面・端面調整	胎土 焼成	隣数	備考
							側面長 端面長	厚さ	重量(g)					
251	2650 他	第112図 PL.111	1区	窯2 新床直・新壁	焚口礫集積	平瓦		1.2~2.8	995	凸面：平行タタキ後タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅲa類
252	2129 他	第112図 PL.111	1区	窯2 新床直・上層	ベルトr8	平瓦		1.5~2.8	991	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲa類
253	2649	第113図	1区	窯2 新床直		平瓦		2.5~3.5	1493	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 や や 軟	1	平瓦Ⅰ類
254	1723	第113図 PL.111	1区	窯2 新段階埋土	3N	平瓦		1.4~3.0	1368	凸面：平行タタキ後タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅱ類
255	858他	第113図 PL.110	1区	窯2 新段階埋土・ 排土中・攪乱	2S	平瓦		1.6~2.1	502	凸面：平行タタキ後タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲa類
256	2130 他	第114図 PL.111	1区	窯2 新床直・古段 階埋土・新段 階埋土		平瓦	側面長： 18.9	1.2~1.8	889	凸面：平行タタキ後タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲb類
257	1782 他	第114図	1区	窯2 新段階埋土	ベルトD・サブトレC	平瓦		1.2~2.3	1107	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 や や 軟	1	平瓦Ⅲa類
258	2296 他	第114図 PL.111	1区	窯2 新段階埋土・ 下層・埋土(暗 褐色~黒褐 色)・上層	ベルトC・i13・s6	平瓦		1.4~2.3	797	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・凹面取 端面：ナデ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲa類
259	585	第114図	1区	窯2 新段階埋土	焚口	丸瓦		2.8	269	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	0	丸瓦Ⅲ類
269	1856 他	第116図 PL.111	1区	窯2 埋め戻し・新 床直・古段階 埋土	ベルトB・2区	平瓦		2.3~4.3	1157	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅰ類
270	3080	第116図 PL.111	1区	窯2 古段階埋土		平瓦		2.0~3.2	485	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅱ類
271	2653	第116図	1区	窯2 新床直	焚口礫集積	平瓦		3.0~4.5	934	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凹凸面取	密 良	1	平瓦Ⅰ類
412	3191	第137図	1区	灰原1 下層	e11	平瓦		1.2~2.0	98	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・凹面取 端面：ケズリ・凸面取	密 良	1	平瓦Ⅲb類
413	739他	第137図 PL.112	1区	灰原1周辺・ 灰原1 上層・表土・ 包含層一括	c10・e10・ベルトf12	平瓦		1.8~3.7	1261	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅰ類
414	375他	第137図 PL.113	1区	灰原1・灰原3 排土・下層 (下)	ベルトq8	丸瓦		2.4~3.2	822	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ナデ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 良	1	丸瓦Ⅱ類
415	3200	第137図 PL.112	1区	灰原1 上層	e11	平瓦		4.5	780	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	-	密 良	0	平瓦Ⅰ類
416	2004	第137図 PL.112	1区	灰原1 上層	ベルトf12	平瓦		2.0~3.5	500	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅰ類
417	1873	第137図 PL.112	1区	灰原1 上層	e12	平瓦		2.0~2.7	521	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・凹面取 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲa類
418	349他	第138図	1区	灰原1 上層・表土	ベルトf12	平瓦		2.3~3.0	452	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅱ類
419	347	第138図 PL.112	1区	灰原1 表土		平瓦		2.1~2.9	389	凸面：ナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲa類
420	1306	第138図	1区	灰原1 上層	g14	平瓦		1.3~2.0	184	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ナデ・端面のみ	密 や や 軟	1	平瓦Ⅲ類
421	3192	第138図 PL.112	1区	灰原1 上層	e11	平瓦		1.0~1.7	282	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅲb類
422	1054 他	第138図 PL.110	1区	灰原1・灰原3 上層・下層 (下)	m13・g12・ベルト e12・ベルトg12・ベ ルトs8	平瓦		1.0~2.8	597	凸面：平行タタキ 凹面：粗布後ナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲb類
423	347他	第138図 PL.113	1区	灰原1・道1(窯 2北半付近) 表土・埋土(暗 褐色~黒褐 色)		平瓦		2.1~3.2	701	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 良	1	平瓦Ⅱ類
424	3192 他	第138図 PL.113	1区	灰原1 上層・表土	e11	丸瓦		1.7~2.2	774	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 や や 軟	1	丸瓦Ⅲ類
425	347	第139図	1区	灰原1 表土		丸瓦		2.0	181	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凸面取	密 須 忠 賢	1	丸瓦Ⅲ類
426	2006	第139図	1区	灰原1 上層	ベルトd12	道具瓦 (甃斗瓦)		1.5~2.6	237	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 や や 軟	0	-
427	375	第139図	1区	灰原1 排土		平瓦		1.4~1.5	160	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	0	平瓦Ⅳ類
428	576他	第139図 PL.117	1区	灰原1 上層	e11~h11・e11	道具瓦 (甃切瓦)		1.4~2.2	507	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・凹凸面取	密 須 忠 賢	1	-
445	779	第141図	1区	灰原2周辺 1	n14	平瓦		3.4~4.6	870	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 や や 軟	0	平瓦Ⅰ類
446	413	第141図	1区	灰原2 表土		平瓦		2.6~3.3	323	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅱ類
447	558	第141図	1区	灰原2 灰原堆積土		平瓦		2.2~4.0	834	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 良	1	平瓦Ⅰ類
448	1281	第141図 PL.117	1区	灰原2 上層	t15	道具瓦 (甃切瓦)		1.5~1.7	123	凸面：タテナデ 凹面：粗布後ナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 良	1	-
504	1630	第144図	1区	灰原3 下層	q9	平瓦		1.4~1.7	160	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅲb類
505	2035	第144図 PL.112	1区	灰原3 下層(下)	ベルトr8	平瓦		1.1~2.1	308	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅲa類
506	2036	第144図	1区	灰原3 下層(下)	ベルトs8	平瓦		1.3	107	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・凹面取 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅳ類
507	2036	第144図	1区	灰原3 下層(下)	ベルトs8	平瓦		1.9~2.6	302	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	0	平瓦Ⅲa類
508	1630 他	第144図 PL.113	1区	灰原3・灰原3 周辺 下層・下層 (下)	q9・ベルトs8・u9	丸瓦		1.9~3.0	777	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凸面取	密 良	1	丸瓦Ⅱ類
509	1684 他	第144図	1区	灰原3 上層	t7・t8	平瓦		1.6	197	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲb類
510	805	第144図	1区	灰原3 上層	u8	平瓦		1.3~1.9	258	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須 忠 賢	1	平瓦Ⅲb類

表66 瓦観察表(3)

遺物番号	取上番号	挿図番号 PL	調査区	遺構階位	小グリッド	種類 器種	法量(cm)			凹凸面整形・調整	側面・端面調整	胎土 焼成	隅数	備考
							側面長 端面長	厚さ	重量(g)					
511	1065	第144図	1区	灰原3 上層	t5	平瓦		20	678	凸面：ナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲa類
512	836	第145図	1区	灰原3 上層	r10	丸瓦		14~24	210	凸面：タテナデ 凹面：ココナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 良	0	丸瓦Ⅲ類
513	1001	第145図 PL.117	1区	灰原3 上層	s10	道具瓦 (隅切瓦)		1.4	124	凸面：タテナデ 凹面：粗布	不明	密 やや軟	1	-
514	806	第145図 PL.112	1区	灰原3周辺	u9	平瓦		32~4.0	958	凸面：タテナデ・タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	平瓦Ⅰ類
558	1650	第150図	1区	道1 埋土	窯1北半付近	平瓦		30	167	凸面：平行タタキ 凹面：タテナデ	-	密 須恵質	0	平瓦Ⅱ類
559	1091 他	第150図	1区	道1 埋土	j15・i15・i16	丸瓦		18~2.7	413	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・凹面取 端面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	丸瓦Ⅲ類
569	934	第161図 PL.113	1区	排滓場1 埋土	115	平瓦	狭端長： 206	10~2.0	953	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 やや軟	2	平瓦Ⅲb類
594	606	第162図 PL.113	1区	排滓場2 埋土		平瓦	端長： 17.4	13~2.3	895	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	2	平瓦Ⅲb類
595	480	第162図	1区	排滓場2 埋土		丸瓦	端長： 13.0	0.9~1.8	461	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	2	丸瓦Ⅲ類
596	537	第162図	1区	排滓場2 埋土		丸瓦	端長： 11.5	1.5~2.5	537	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ	密 良	0	丸瓦Ⅲ類
620	488	第211図 PL.114	1区	サブトレンチ 黒褐色土		平瓦	狭端長： 19.0	1.3~2.5	1321	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	2	平瓦Ⅲb類
621	300	第211図 PL.114	1区	表採		丸瓦		3.0	806	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	丸瓦Ⅳ類
622	161他	第211図 PL.114	1区	表土中		丸瓦		10~1.8	328	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	2	丸瓦Ⅳ類
623	3188	第211図 PL.114	1区	不明		丸瓦		11~1.5	253	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 須恵質	1	丸瓦Ⅳ類
624	455	第212図 PL.114	1区	灰原3周辺 表土(造成土)		丸瓦		10~1.8	200	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	丸瓦Ⅳ類
625	298	第212図	1区	表土		道具瓦 (隅切瓦)		30~4.5	691	凸面：タテケズリ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ	密 良	0	-
626	1139 他	第214図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦	端長： 19.0	1.8~2.7	1308	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	平瓦Ⅲb類
627	1146	第214図	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦	狭端長： 18.5	10~2.2	1152	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	2	平瓦Ⅲb類
628	1402 他	第214図	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦	狭端長： 16.0	0.9~2.0	682	凸面：タテナデ 凹面：ナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 やや軟	2	平瓦Ⅲb類
629	1402 他	第215図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦	側面長： 32.6 狭端長： 16.8	1.8	1486	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	3	平瓦Ⅲb類
630	1144	第215図	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦	狭端長： 17.3	1.5~2.0	690	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 良	2	平瓦Ⅲb類
631	1403	第215図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦		10~2.0	457	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲb類
632	1139 他	第216図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦	広端長： 21.0	2.0	1132	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	2	平瓦Ⅲb類
633	1146 他	第216図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦	端長： 18.4	10~2.0	903	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	平瓦Ⅲb類
634	1402 他	第216図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦		10~2.0	771	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲb類
635	1405	第216図	2区	瓦溜まり1 埋土		平瓦		1.3~1.5	319	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅳ類
636	1403	第217図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦	狭端長： 12.2	0.7~1.6	377	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	2	丸瓦Ⅲ類
637	1145	第217図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦	端長： 13.3	10~2.0	566	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：未調整	密 やや軟	2	丸瓦Ⅲ類
638	1144	第217図	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦	端長： 14.6	0.9~1.2	570	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ	密 不良	2	丸瓦Ⅳ類
639	1403	第217図 PL.114	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦	端長： 14.9	1.3~2.6	393	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・端面のみ 端面：ナデ・端面のみ	密 やや軟	2	丸瓦Ⅲ類
640	1438	第217図	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦		0.8~1.3	166	凸面：平行タタキ後タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	丸瓦Ⅳ類
641	1148	第217図	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦	端長： 15.2	1.3~1.8	299	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 不良	2	丸瓦Ⅳ類
642	1143	第217図	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦		10~1.3	178	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	0	丸瓦Ⅳ類
643	1405	第217図	2区	瓦溜まり1 埋土		丸瓦		0.7~1.9	90	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	丸瓦Ⅲ類
644	1144	第217図	2区	瓦溜まり1 埋土中		丸瓦		0.6~1.5	68	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 良	0	丸瓦Ⅳ類
645	1401 他	第218図 PL.115	2区	瓦溜まり1 埋土		道具瓦 (敷斗瓦)	狭端長： 10.8	1.2~2.9	1143	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ナデ・ケズリ・凹 面取 端面：ナデ・端面のみ	密 やや軟	2	-
646	1388	第220図 PL.116	2区	瓦溜まり2 埋土		平瓦	広端長： 27.6	1.6~3.0	2496	凸面：タテナデ 凹面：ナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・凹面取	密 やや軟	2	平瓦Ⅱ類
647	1386	第220図 PL.116	2区	瓦溜まり2 埋土		平瓦		1.5~2.0	824	凸面：平行タタキ後タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ナデ	密 やや軟	1	平瓦Ⅲb類
648	1388	第220図 PL.116	2区	瓦溜まり2 埋土		平瓦		1.5~2.0	639	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲb類
649	2966	第221図	2区	表土~Ⅱ層		平瓦		2.5~4.0	677	凸面：タテナデ 凹面：粗布	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	1	平瓦Ⅰ類
650	654	第221図 PL.115	2区	Ⅱ層		平瓦	広端長： 26.0	1.8~3.0	1686	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・凸面取 端面：ケズリ・凹面取	密 やや軟	2	平瓦Ⅱ類
651	643	第221図 PL.115	2区	Ⅱ層		平瓦	狭端長： 22.6	2.1~3.0	1233	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 良	2	平瓦Ⅱ類
652	3021	第222図	2区	Ⅱ層		平瓦	狭端長： 19.3	1.5~2.1	988	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	2	平瓦Ⅲb類
653	1155	第222図	2区	Ⅱ層		平瓦	端長： 19.8	1.7	730	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	2	平瓦Ⅲb類
654	640他	第222図	2区	Ⅱ層		平瓦	端長： 20.3	1.7	754	凸面：タテナデ 凹面：粗布後タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	平瓦Ⅲb類
655	1160	第222図	2区	Ⅱ層		平瓦	端長： 18.1	1.2~2.0	473	凸面：タテナデ 凹面：タテナデ	側面：ケズリ・端面のみ 端面：未調整	密 須恵質	1	平瓦Ⅲb類

第5章 古代以降の調査

表67 瓦観察表(4)

遺物番号	取上番号	挿図番号 PL	調査区	遺構 層位	小グリッド	種類 器種	法量(cm)			凹凸面整形・調整	側面・端面調整	胎土 焼成	隣数	備考
							側面長 端面長	厚さ	重量(g)					
656	1394	第223図 PL.115	2区	根掘乱土		平瓦	狭端長: 15.5	1.5	1054	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	2	平瓦Ⅲb類
657	640他	第223図 PL.115	2区	Ⅱ層		平瓦	狭端長: 15.2	0.9~2.2	977	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・凹面取	密 須恵質	2	平瓦Ⅲb類
658	660	第223図 PL.115	2区	Ⅱ層		平瓦	端長: 18.1	1.0~1.4	757	凸面:平行タタキ後ヨコナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 良	2	平瓦Ⅳ類
659	659	第224図	2区	Ⅱ層		平瓦	広端長: 21.0	1.5~2.1	690	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ナデ・凸面取 端面:ケズリ・凸面取	密 やや軟	1	平瓦Ⅲb類
660	683	第224図 PL.115	2区	Ⅱ層		平瓦		1.1~1.5	712	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:無調整	密 須恵質	1	平瓦Ⅳ類
661	631	第224図 PL.115	2区	Ⅱ層		平瓦		1.5	819	凸面:タテナデ 凹面:粗布後ヨコナデ	側面:ナデ・端面のみ 端面:未調整	密 やや軟	1	平瓦Ⅳ類
662	652	第225図	2区	Ⅱ層		平瓦	狭端長: 13.5	0.7~1.1	381	凸面:タテナデ 凹面:タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 不良	2	平瓦Ⅳ類
663	1599	第225図	2区	Ⅱ層		平瓦	端長: 15.2	1.1~1.4	535	凸面:タテナデ 凹面:タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 不良	2	平瓦Ⅳ類
664	3145	第225図 PL.115	2区	Ⅱ層		平瓦	端長: 19.4	1.5~2.3	974	凸面:タテナデ 凹面:粗布	側面:ナデ・端面のみ	密 良	0	平瓦Ⅲb類
665	1221	第225図	2区	Ⅱ層		平瓦	端長: 19.2	1.7	302	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	平瓦Ⅲb類
666	666	第226図	2区	Ⅱ層		平瓦		0.9~1.9	609	凸面:タテナデ 凹面:タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	0	平瓦Ⅲb類
667	2939	第226図	2区	Ⅱ層		平瓦		0.7	77	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅳ類
668	621	第226図	2区	Ⅱ層		平瓦		1.6~2.0	205	凸面:タテナデ 凹面:粗布	側面:ナデ・端面のみ	密 良	0	平瓦Ⅲb類
669	694	第226図	2区	Ⅱ層		平瓦		1.3~2.3	482	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ナデ・端面のみ 端面:ナデ・端面のみ	密 やや軟	1	平瓦Ⅲb類
670	3115	第226図	2区	根掘乱土		平瓦		1.0~1.7	381	凸面:ナデ 凹面:粗布	不明	密 やや軟	0	平瓦Ⅲb類
671	2955	第226図 PL.116	2区	Ⅱ層		丸瓦		2.6~3.5	344	凸面:タテナデ・タテケズリ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・凹面取	密 良	0	丸瓦Ⅰ類
672	684	第226図	2区	Ⅱ層		丸瓦		1.8~2.3	168	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	0	丸瓦Ⅲ類
673	701	第227図 PL.116	2区	Ⅱ層		丸瓦		1.0~1.8	277	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	丸瓦Ⅲ類
674	660	第227図	2区	Ⅱ層		丸瓦	狭端長: 12.1	1.1~1.3	306	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ナデ・端面のみ 端面:ナデ・端面のみ	密 やや軟	2	丸瓦Ⅳ類
675	1604	第227図 PL.116	2区	Ⅱ層		丸瓦	広端長: 14.1	1.0~2.1	678	凸面:タテナデ・タテケズリ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 須恵質	2	丸瓦Ⅲ類
676	1155	第227図	2区	Ⅱ層		丸瓦	端長: 13.55	1.5	409	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	不明	密 やや軟	1	丸瓦Ⅳ類
677	1155	第227図 PL.116	2区	Ⅱ層		丸瓦	端長: 14.1	1.7	394	凸面:タテナデ 凹面:タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	丸瓦Ⅲ類
678	622	第227図	2区	Ⅱ層		丸瓦		1.2~1.9	154	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	0	丸瓦Ⅲ類
679	2954	第228図 PL.116	2区	Ⅱ層		丸瓦	端長: 15.05	1.2~1.4	340	凸面:タテナデ 凹面:ヨコナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 不良	0	丸瓦Ⅳ類
680	586②	第228図 PL.116	2区	Ⅱ層		丸瓦		0.6~1.1	93	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	丸瓦Ⅳ類
681	3113	第228図 PL.116	2区	Ⅱ層		丸瓦	端長: 14.2	1.1~1.5	223	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ナデ・端面のみ	密 やや軟	0	丸瓦Ⅳ類
682	586①	第228図	2区	Ⅱ層		丸瓦		0.8~1.0	79	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 良	1	丸瓦Ⅳ類
683	667他	第229図	2区	Ⅱ層		丸瓦		0.7~1.2	85	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	丸瓦Ⅳ類
684	636	第229図	2区	Ⅱ層		丸瓦		1.1	80	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 良	1	丸瓦Ⅳ類
685	1165	第229図	2区	Ⅱ層		丸瓦		1.0~1.7	55	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ナデ・端面のみ	密 やや軟	1	丸瓦Ⅳ類
686	651	第229図	2区	Ⅱ層		道具瓦 (製斗瓦)		1.5~2.5	1165	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	-
693	323	第262図	2区	炭焼窯20		平瓦		0.9~1.7	160	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ 端面:ケズリ・端面のみ	密 やや軟	1	平瓦Ⅲb類
694	1370	第262図	2区	炭焼窯23		平瓦		1.6~1.9	6.5	凸面:タテナデ 凹面:粗布	側面:ケズリ・凹面取 端面:ケズリ・端面のみ	密 須恵質	1	平瓦Ⅲ類
695	1597	第262図	2区	炭焼窯23		丸瓦		1.0	64	凸面:タテナデ 凹面:粗布後タテナデ	側面:ケズリ・端面のみ	密 須恵質	0	丸瓦Ⅳ類

表68 製鉄関連遺物観察表(1)

※備考は穴澤義功氏による詳細口述結果である。

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
1	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・上段(上半)・頂部寄り・横方向接合痕付き・酸化色)	8.4	6.2	3.0	131	1	なし	内面が明褐色の被熱面となる炉壁破片。側部は全周が破面で、下面は水平方向に途切れた粘土単位の接合部様。外面は表皮が脱落して全体にくすんでいる。上端部寄りには芯部にかけてが吸炭がみ。胎土は粘土質が強く、長さ3cm前後のスサをまばらに混じえる。
2	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・上段(下半)・砂鉄焼結付き)	6.7	7.3	4.8	157	1	なし	内面が灰褐色に被熱して発泡ごみの炉壁破片。表皮の一部に砂鉄焼結部の痕跡を残す。上端部は水平に途切れた粘土単位の接合部で、残る側部から外面は破面となる。胎土の質やスサ等は前者と同じ。内面の被熱は下端部で約1.5cmを測る。
3	第173図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・上段(下半)・横方向接合痕付き・砂鉄焼結付き)	9.4	8.2	6.8	401	1	錆化(△)	分析資料No.1 分析資料詳細観察表参照。
4	第173図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・中段(上半)・滓化弱)	4.0	5.3	2.0	22	1	なし	内面表皮が薄く滓化した炉壁破片。滓化の厚みは最大で5mmを測る。側部から外面は完全な破面となる。胎土は濃褐色に被熱してスサ痕が目立つ。
5	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・中段(上半)・横方向接合痕付き・砂鉄焼結付き・滓化弱)	8.5	5.5	4.9	197	1	なし	内面表皮が灰色調の滓化が始まっている炉壁破片。部分的に垂れの先端部がづら状となる。側部4面が破面で、下面左手には明瞭な砂鉄焼結部が認められる。焼結した砂鉄の粒度は0.1mm大前後が目立つ。外面はやや面を成すが、破面かもしれない。胎土中のスサはまばら。
6	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・中段(上半)・滓化弱・横方向接合痕付き・砂鉄焼結付き)	6.9	9.3	2.6	128	2	錆化(△)	内面が滓化して左側が瘤状に垂れている炉壁破片。側部の全周と外面が破面となる。左側部には暑さ1.3cmにも達する砂鉄焼結部が残されている。砂鉄の粒度は構成No.5より被熱が進んでいる。ただし、最も細かい粒度は0.1mm大前後を測る。胎土は粘土質で、表層にはスサが目立つ。あるいは、炉壁表面を異なるスサ量の粘土で整形している可能性もあり。
7	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・中段(下半)・通風孔上・滓化強)	6.4	7.2	6.3	190	1	なし	内面が強く滓化して、黒褐色の垂れがづら状に目立つ炉壁破片。側部4面と外面が破面となる。側部の破面には多量のスサ痕が露出しているのに対して、外面寄りでは目立たない。
8	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・コーナー部・中段(下半)・通風孔上・外面整形痕付き・滓化強)	7.4	7.9	5.9	232	2	錆化(△)	内面が黒褐色に滓化して垂れや溶損が認められる炉壁破片。側部は上端部を除きイガイガした破面となる。上端部は粘土単位の接合部で、外面はやや面をなしている。本資料もスサ痕が側面の破面に目立つ。
9	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・中段(下半)・通風孔上・含鉄・マグネタイト系滓付き・砂鉄焼結付き・滓化強)	10.1	9.0	5.4	394	1	H(○)	内面上部から下部にかけての滓化の程度が異なる炉壁破片。上方では壁表面に固着した砂鉄層が初期の滓化状態であるのに対して、下方では炉壁表面そのものが滓化・溶損して垂れも目立つ。上端部は水平に途切れた接合部で、残る側部3面と外面が破面となる。
10	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・下段(上半)・通風孔周辺・通風孔付き)	7.35	7.45	4.1	158	1	なし	内面表皮が厚さ1.5cm前後に黒褐色のガラス化して、表皮には垂れが点在する炉壁破片。内面は溶損のためか平滑で、黒褐色から暗紫紅色となる。側部3面と外面全体が破面。
11	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・下段(上半)・通風孔付き・横方向接合痕付き)	6.4	11.0	5.2	265	2	なし	内面が黒褐色に滓化して、下端部では1~2cm幅のづら状に垂れている炉壁破片。側部から外面は全周が破面となる。内面上端部は滓化がやや弱め。胎土は粘土質が強く、スサ痕も目立つ。また練りが甘いためか、ひび割れが生じている。
12	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・下段(上半)・通風孔周辺・通風孔1孔付き・基部接合痕付き・工具痕付き)	18.6	15.5	7.9	1212	2	なし	左右の側部下側に通風孔部の壁面を2孔分を残している炉壁破片。上下に長めの炉壁破片で、上下方向の被熱による変化が明瞭となる。通風孔部2孔の壁面間隔は約9.6cmを測る。通風孔径の2/5程度が残存しており、通風孔は円孔気味か。内径は少なくとも3.5cm以上を測る。残存状態が良好な破片のため、通風孔部の角度も算出可能とみられる。側部から外面は基本的に破面となっており、やや凹凸が激しい。胎土全体の被熱は通風孔部の上方が強く、通風孔部の側面以下は弱めとなる。胎土は粘土質で練りが甘く、スサ量には濃淡あり。
13	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・下段(上半)・通風孔下・通風孔1孔付き?・基部接合痕付き・滓付き)	8.4	4.35	3.7	250	2	なし	下端部が平坦に途切れた炉壁基部破片。内面は滓化・溶損が進み、暗紫紅色に滓化する。右側面上端がし字状に途切れており、通風孔の頸部の可能性も残る。この場合、炉壁基部と通風孔頸部との間隔は5cm前後とやや狭い。側部から外面は破面となっている。
14	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔周辺・通風孔下・基部接合痕付き・滓付き)	6.4	9.0	6.8	181	1	なし	下端部が水平に途切れた炉壁基部破片。内面上端部のみが垂れの目立つ黒色ガラス質で、以下は錆色の面となる。側部から外面は破面。下端部の内面寄りには粘土質の滓が垂れて、基部の一部を覆う。
15	第173図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (長軸側・コーナー部・下段(下半)・通風孔下・横方向接合痕付き・基部接合痕付き・滓付き)	5.0	6.8	4.2	110	1	なし	前者と同様、下端部が炉壁基部の平坦面となった炉壁破片。内面は暗紫紅色に滓化して、部分的に垂れている。側部から外面は破面となる。
16	第173図 PL.120	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・上段(上半)・頂部寄り・横方向接合痕付き・酸化色)	9.5	11.7	11.6	822	1	なし	上面が緩やかな平坦気味の面となる炉壁コーナー部破片。最大厚さは10cm前後で、内面表皮の一部のみが褐色に熱変化する。平面形は内面が僅かに弧状となる。内面やや右手が上下方向に窪んでいるが、明瞭なスマキ痕とは異なる。胎土は強い粘土質で、3cm前後のスサをまばらに含む。
17	第173図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・上段(下半)・横方向接合痕付き・巻巻痕付き・砂鉄焼結付き)	8.1	11.2	7.9	552	1	なし	内面の中央部に上下方向のスマキ痕を残す炉壁コーナー部破片。構成No.18とも共通点が多い。内面表層の1cm前後の厚み部分が褐色に被熱する以外は全体が明褐色となる。上下面が平坦気味で、下面は明瞭な粘土単位の接合部となる。平面形は全体からみれば弧状気味。上面の平坦面が生きたとすれば、粘土単位の厚みは8cm前後が予測される。
18	第174図 PL.120	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・上段(下半)・横方向接合痕付き・巻巻痕付き・砂鉄焼結付き)	11.0	9.4	8.7	570	1	なし	内面に2条のスマキ痕が明瞭に残る炉壁コーナー部破片。内面左側のスマキ痕は径2cmを測る溝状となる。内面の被熱は表層の2cmほどが淡褐色気味。性格は不明ながら、内面上部から左下にかけては面をなして途切れている。下面は粘土単位とみられる平坦面となる。残る側部から外面は境目のはっきりしない破面となっている。一見すると粘土塊様。箱形炉のコーナー部ではスマキ痕がより明瞭となっている。
19	第174図 PL.120	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・中段(下半)通風孔上・横方向接合痕付き・滓化強)	8.9	8.0	6.1	317	1	なし	平面形が強い弧状をした炉壁コーナー部破片。内面は滓化が始まり、細身の垂れが生じ始めている。上面は水平に途切れた粘土単位の接合部で、残る側部から外面は破面となる。ただし、外面右上部が斜めに途切れているのは、発掘時の道具による傷か。内面上端には一部、砂鉄焼結部あり。
20	第174図 PL.120	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・中段(下半)・通風孔上・横方向接合痕付き・外面整形痕付き・滓化強)	8.5	8.5	8.2	446	2	なし	内面左側に幅10cm程の粘土質の垂れが認められる炉壁破片。下面は平坦気味で、粘土単位の接合部の可能性大。残る側部は破面となっている。外面は平坦で、もとの表皮を残している可能性あり。現状の厚みは7.5cm前後を測る。

第5章 古代以降の調査

表69 製鉄関連遺物観察表(2)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
21	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・下段(上半)・通風孔周辺・通風孔付き・横方向接合痕付き)	8.1	6.5	3.9	213	2	なし	平面形が強い弧状をした炉壁コーナー部破片。内面は滓化・溶損が進み、左側では垂れが目立つ。側部から外面は破面となっている。胎土の練りが悪いのか、細かいひび割れも目立つ。
22	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・下段(上半)・通風孔付き・外面整形痕付き)	11.0	8.2	6.5	399	1	錆化(△)	内外面が生きている可能性の強い炉壁コーナー部破片。内面は滓化・溶損して暗紫紅色となる。垂れは僅かで、胎土の耐火性の高さを伺わせる。下面の一部は粘土単位の接合部様に塗切れており、残る側部は明瞭な破面となる。表層からの被熱が芯部にまで及び、側部からみると被熱状態が層状となる。外面はやや平坦気味で、胎土中には径3.3cm大のやや丸みをもった小礫が露出する。右側部上半の通風孔部はやや不明瞭。
23	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・下段(下半)・通風孔下・基部接合痕付き・炉内流動滓付き・滓付き)	10.4	9.0	7.65	674	1	なし	表層が分厚い滓層に覆われた炉壁コーナー部、かつ基部破片。平面形は外面の弧状が強く、内面には厚さ3cm程度の滓部が中段に突出する。この部分を境に、上部では滓が水平気味に流動し、下部では中空部に垂れたような形となる。外面には明褐色の炉壁土が露出する。
24	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・下段(下半)・通風孔下・通風孔付き・横方向接合痕付き・基部接合痕付き・滓付き)	13.3	14.2	11.0	1220	1	H(○)	下面が広い平坦面となった炉壁基部、またはそれに近いコーナー部破片。最大厚みは11.5cmと分厚く、外面はきれいな弧状となる。左右の側部から上面は破面。内面の滓は下端部でつらら状に垂れ、粘土単位の繋ぎ目には滓が貫入している。胎土の被熱が強いほどスサ痕が目立つ傾向にある。
25	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (横方向接合痕付き・木舞孔付き)	3.0	3.3	3.8	32	1	なし	内面に径2.8cm前後の丸みをもった桶状の小舞孔の痕跡を残す炉壁小破片。上面は斜め左下に傾斜した平坦気味の面で、残る側部から外面は破面となる。
26	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・横方向接合痕付き・木舞孔付き)	5.6	4.5	4.0	60	1	なし	内面中央に上下方向の木舞孔、またはスマキ痕を残す炉壁破片。前者と比べて圧痕の径が1.3cm前後と細い点と表皮の一部が茶褐色気味となることから、後者の可能性がやや強いかもしれない。側部から外面は全面破面。
27	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (横方向接合痕付き・木舞孔付き)	5.7	6.0	4.0	75	1	なし	内面の中央やや左手に上下方向に伸びる浅い桶状の木舞孔、またはスマキ痕を残す炉壁破片。側部から外面は全面破面で、スサ痕がやや目立つ。
28	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁(木舞孔付き)	11.3	11.9	6.5	534	1	なし	上下方向に貫通した木舞孔が明瞭に残るやや厚みをもった炉壁破片。内面表皮は褐色から茶褐色に被熱している。側部から外面は全面破面。木舞孔は径1cm前後の細い丸棒状の中空部となっている。炉壁内面に対して軸がやや傾斜しており、孔の位置は上部で内面から5.8cm前後、下部では3cm前後の所を斜めに貫通している。胎土はまばらなスサを混じえる強い粘土質。
29	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (横方向接合痕付き・木舞孔付き)	10.5	8.0	5.7	302	1	なし	前者を一回り小さくしたような木舞孔付きの炉壁破片。内面の表層は淡茶褐色に被熱しており、木舞孔は前者と似て斜め上下方向に残されている。径は2.5cm前後で、現状は桶状。上面の内面寄りが粘土単位の接合部とみられ、残る側部から外面は破面となる。
30	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁 (コーナー部・木舞孔付き?)	7.5	6.8	6.0	164	1	なし	外面右側に上下方向に伸びる木舞孔の痕跡が認められる炉壁破片。木舞の径は2.7cm前後とみられる。炉床内面は僅かに滓化して、幅5mm程度の垂れが生じている。残る側部から外面左側は破面となる。平面形は一部が弧状で、炉壁コーナー部破片の可能性もあり。
31	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉壁(木舞孔付き)	4.0	3.1	3.9	24	1	なし	内面に幅2.5cm以上の浅い桶状の木舞孔の痕跡を残す炉壁小破片。側部から外面は破面となっている。外面の中央部が僅かに滓化している。表裏逆の可能性もあり。
32	第174図 PL.125	1区	テラス1製鉄炉	炉床土 (基部接合痕付き・滓付き)	32.7	19.55	4.8	2410	1	H(○)	左右の側部と下手側の側部右側が狭い破面となった盤状の炉床土破片。質感は右上手側と下手側では大きく異なっており、前者がイガイガした錆色の目立つ粘土質の滓層となっているのに対して、後者は表面が平滑に滓化した窯壁様となる。側部から下面はそれとは異なり、1.5cm大以下の炉壁粉を混じえる炉床土となっている。厚みは下手側に向かい薄くなり、左手側ではほぼ端部が収束する。短軸方向の本来の傾斜角度は不明ながら、全体的に上手側が高く、下手側が低くなっている可能性が高い。これは、粘土質の滓表面の垂れの状態による。炉壁基部とどのように接するかは不明。粉炭層を炉床とした箱形炉には認められない種類の遺物種で、特定の炉床土を用いた炉に特有の生成物とみられる。
33	第174図	1区	テラス1製鉄炉	炉床土(滓付き)	11.5	8.0	5.2	386	1	なし	上面から側面が錆色の滓と炉床土の半溶解物から形成された炉床土破片。下面の中央部が舟底状に突出しており、その表面や側部の一部に炉壁粉を含む炉床土が広がっている。表層の滓の動きから前者と同様、上面が下手側に向かい傾斜する可能性が高い。
34	第174図 PL.119	1区	テラス1製鉄炉	炉床土 (炉内流動滓付き・滓付き)	13	6.3	4.1	290	1	なし	下面全体に炉壁粉が目立つ炉床土破片。上面から側面は不定方向に流動する流動滓に覆われている、下手側の端部には垂れが生じて、右寄りの窪んだ部分には、引きつれたような流れ皺が生じている。おそらく、下手側の側部が下面となり、炉床土の部分は手前に傾斜した状態になると推定される。
35		1区	テラス1製鉄炉	砂鉄(周辺河川採集)	-	-	-	20	3	なし	分析資料No.2 分析資料詳細観察表参照。
36		1区	テラス1製鉄炉	砂鉄(周辺河川採集)	-	-	-	20	3	なし	分析資料No.3 分析資料詳細観察表参照。
37	第174図 PL.125	1区	テラス1製鉄炉	砂鉄焼結塊(含鉄)	3.5	2.3	1.3	11	2	H(○)	厚さ1cm前後の薄板状をした砂鉄焼結塊。側部は破面になっており、裏面はやや波状で、全体的には舟底状となる。上面はほぼ平坦で、右側部には木炭痕が残る。砂鉄粒子は焼結が進み、その多くが膨らみをもつ。また、錆色も目立つ。
38	第174図	1区	テラス1製鉄炉	砂鉄焼結塊(含鉄)	3.2	2.7	2.0	14	3	H(○)	分析資料No.4 分析資料詳細観察表参照。
39	第174図 PL.125	1区	テラス1製鉄炉	砂鉄焼結塊(含鉄)	4.2	2.3	1.3	17	3	H(○)	厚さ1.2cm前後の板状をした砂鉄焼結塊。側部は破面になっており、裏面には木炭痕による平坦面が2ヶ所に残る。上面では錆色が目立つ。砂鉄粒子の粒径は0.1mm大前後が最小で、全般的に膨らみをもっている。裏面の方がもとの粒径に近い。
40	第174図 PL.125	1区	テラス1製鉄炉	砂鉄焼結塊(含鉄)	4.0	2.0	1.2	24	2	H(○)	全体的に錆色の目立つ砂鉄焼結塊。厚さ1.8cm前後の歪んだ塊状となる。側部は木炭痕と破面が混在しており、下面には木炭痕と剥離面様の部分が含まれる。上面にも木炭痕が残り、一部が黒褐色気味となる。砂鉄粒子は還元途上のためか粒度がまちまち。
41	第174図 PL.125	1区	テラス1製鉄炉	砂鉄焼結塊(含鉄)	3.8	2.4	2.4	21	2	H(○)	厚さ2.5cmほどの小塊状をした砂鉄焼結塊。下面から下手側は酸化土砂に覆われて茶褐色となり、それ以外の面は焼結した砂鉄が明瞭に露出する。上面から上手側の側部にかけては、粒径が0.1mm大前後の砂鉄粒子が密に焼結している。側部からみるとやや層状で、表層の一部がメタル化する。表裏逆の可能性もあり。

表70 製鉄関連遺物観察表(3)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
42	第174図 PL.125	1区	テラス1 製鉄炉	マグネタイト系遺物 (含鉄・砂鉄焼結塊付き)	3.6	2.9	2.0	28	3	H(○)	塊状で滓化の進んだマグネタイト系遺物。上面は半流動状の滓となり、上手側の側部から左側部にかけて砂鉄焼結部が残る。裏面は炉壁表面からの剥離面様。右下手側の含鉄部はごく小範囲。
43	第174図 PL.125	1区	テラス1 製鉄炉	マグネタイト系遺物 (含鉄)	3.6	2.9	1.1	14	1	H(○)	木炭痕の隙間で生成したような中空部や突出部が目立つマグネタイト系遺物。上手側の側部は流動状で一部が垂れており、下手側半分は半流動状。破面の結晶が発達して青光りしている。
44	第176図 PL.129	1区	テラス1 製鉄炉	工具付着滓	5.0	2.3	1.2	11	1	なし	内面に径1.8cm程度の丸棒状の工具痕を残す工具付着滓破片。最大厚みは5mm前後を測る。内面は平滑で光沢をもち、外面は土砂の圧痕様の凹凸に覆われる。工具自体は鉄棒とみられる。
45	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	流出孔～溝滓	6.2	4.0	1.6	60	1	なし	1～1.5cm幅程度の流動滓が4単位ほど重層した流出孔～溝滓破片。左側部は不自然に途切れた破面で、人為的なものか。下面は浅い舟底状で、地山の土砂を固着する。平滑な表皮の色調は暗紫紅色。
46	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	流出孔～溝滓	6.2	3.4	1.3	33	1	なし	左右の側部が破面となった流出孔～溝滓破片。細い流動単位が重層しており、下面には炉壁粉が固着する。表皮の色調は暗紫紅色。
47	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	流出孔～溝滓	6.5	3.0	1.2	41	1	なし	分析資料No.5 分析資料詳細観察表参照。
48	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	流出溝滓	4.8	5.1	1.4	78	1	なし	左右の側部がシャープな破面となった扁平な流出溝滓破片。幅2.5cm程度の流動単位2条からなり、表皮には流れ皺が残る。ごく浅い流出溝の底面に沿って流動している。
49	第176図 PL.129	1区	テラス1 製鉄炉	流動滓	4.2	1.4	0.9	11	1	なし	幅1.3cm前後の流動滓破片。左右の側部に破面が残る、下面には炉壁粉が固着する。表皮は平滑で色調は暗紫紅色。
50	第176図 PL.129	1区	テラス1 製鉄炉	流動滓	5.0	1.3	1.0	20	1	なし	左右の側部が破面となった幅1.2cm前後を測る棒状の流動滓破片。下面は平坦気味で土砂の圧痕に覆われている。
51	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	3.4	3.1	2.0	28	2	錆化(△)	錆色と側部の凹凸が目立つ含鉄の炉内滓破片。下面はイガイガしているながらも、全体的観は舟底状で、炉壁表面からの剥離面の可能性も残る。上面から肩部は平坦面と錆影れ状の突出部から成る。マグネタイト系の滓部は上面が主体で、含鉄部はごく小範囲。
52	第176図 PL.129	1区	テラス1 製鉄炉	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	4.5	5.9	2.8	55	2	錆化(△)	上手側の側部が塊状の酸化土砂に覆われた含鉄の炉内滓破片。酸化土砂の部分を除けば構成No.51とよく似た資料で、流動状の部分はマグネタイト化している。上面の一部に大きな錆影れの欠けあり。含鉄部は小塊状で散在。
53	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	炉内滓(含鉄)	5.8	2.0	1.7	23	1	H(○)	一見、黒鉛化木炭様の外観を示す含鉄の炉内滓破片。短軸側の側部から下面には木炭痕とみられる筋目が残されている。上面を中心に炉壁粉が目立って固着する。また、下面の酸化土砂の一部は砂鉄由来とみられる。
54	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	炉内滓(含鉄)	7.0	4.8	2.4	93	2	H(○)	分析資料No.6 分析資料詳細観察表参照。
55	第176図 PL.129	1区	テラス1 製鉄炉	炉内滓(含鉄)	4.0	6.1	3.3	95	2	H(○)	平面、不整形三角形をした3cmを超える厚みをもつ含鉄の炉内滓破片。表面の8割方が粉炭を含んだ酸化土砂に覆われ、地は上面の2ヶ所に瘤状に突出する。いずれも錆影れの可能性大。右上手側部の突出部も錆影れか。下面はほぼ舟底状で剥離面の可能性を残す。
56	第176図 PL.133	1区	テラス1 製鉄炉	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	12.8	8.5	6.8	568	2	錆化(△)	平面、不整形円形をした厚さ7cmほどの再結合滓。左右の側部が主破面で、上面のみ生きている。上面は薄片や砂鉄焼結部主体で、左側部下手側に向かって厚くなっていく。残る部分は炉壁粉に覆われている。下面は丸みをもった舟底状で、土坑または溝底に溜ったものか。砂鉄焼結部では被熱砂鉄が目立つ。
57	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	9.2	6.0	2.5	129	1	H(○)	一見、流出溝滓様の外観をもつ再結合滓破片。左右の側部が破面となり、側部から下面は左右方向に伸びるきれいな舟底状となる。流出溝底で生成か。左側部の破面には焼結した砂鉄粒子が目立つ。内部に木炭を噛み込んでいるためか、中空部も確認される。
58	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	10.0	6.8	4.0	215	1	H(○)	分析資料No.7 分析資料詳細観察表参照。
59	第176図 PL.133	1区	テラス1 製鉄炉	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	12.3	8.6	4.4	374	1	H(○)	厚さ4cmほどの扁平な再結合滓破片。全体観は大ぶりの流出溝滓様で、側部から下面は幅広い舟底状となる。破面は左右の側部から下手側の側部で、層状に推積しつつ形成されていることが分かる。薄片や砂鉄焼結部の目立つ部分と炉壁粉が目立つ部分の両者あり。
60	-	1区	テラス1 製鉄炉	炭化材	-	-	-	1286	1	なし	5点のサンプルから成る製鉄炉地下構造内の粉炭層に伴う炭化材様の資料。樹種にもばらつきがあり、材はいずれもミカン割りされている可能性が高い。1点は端部に刃物による切断痕が確認される。表面が焼損している破片も含まれている。未水洗のため表面には土砂が残り、樹種や年輪数を読み取りにくい。いずれにしても細い小枝材ではなく、やや太い材をミカン割りしたものが炭材として用いられている。
61	第176図	1区	テラス1 製鉄炉	被熱石(砥石転用・滓付き)	6.8	29.7	6.1	3570	1	なし	左側部と上手側の側部がシャープな破面となった大型の被熱石破片。上面は平坦で、右側部と下手側の側部が急角度で立ち上がる。被熱が明瞭な部分は上面から下手側の側部で、右側部上手側の肩部寄りには長さ1.2cm、幅4cm程度の範囲に黒褐色の熱変化部分あり。その中央部では粘土質の滓が薄く広がっている。また被熱以前と推定される砥面が右側部に複数単位で確認される。砥痕は主に短軸方向に伸びている。下手側の側部にも僅かではあるが粗い砥痕あり。従って、当初は砥石として用いられた石材を、後に炉材または防熱、あるいは送風装置の固定等の目的のために転用したものか。石質は安山岩系と見られる。

表71 製鉄関連遺物観察表(4)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
62	第175図 PL.129、 131・132	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	290	30 49	4 11	146,600	なし	<p>全体観 長さ29cm、最大幅49cmを測る扁平で長大な炉底塊。長軸左側の端部は滓が一旦収束して、7cmほど離れた先に長さ63cm、最大幅30cmを測る別単位の操作によるものと推定される質感の全く異なる流出孔～溝滓(62-1)片がある。本体の炉底塊側は大きくひび割れた単位毎に枝番を付けて管理・取納している。それが62-2から62-18とした15のグループである。炉底塊の最大厚みは11cm前後で、左側の長軸端部寄りと右寄りの90cmほどの長さ部分が肥厚して、中間の1.3～4mの範囲は4cm前後の厚みをもつ。炉底塊全体の上面観は、厚い部分では流動単位が区別される流動状で、中間に広がる薄い部分では全体に半流動状でザラザラした砂鉄焼結部に近い状態を示す。色調も厚い部分では上面に酸化土砂が残り茶褐色気味となる。直下の流動滓は黒褐色から暗紫色。薄い部分の色調は青黒色から黒褐色。下面はごく浅い舟底状で、表層の1～2cmの範囲は軽石や小礫を含む暗褐色や灰色の炉床土に覆われている。割れてはいるが62-2から18は全てが一体となる同一個体とみられる。なお、左下手側の炉底塊の上面下手側肩部には幅10cm、長さ44cm程の、下面に炉床土が確認できる細長い炉底塊破片が乗っており、左右の側部や下手側の側部には狭い破面が確認される。この形状と厚みは、炉底塊本体の中央下手側の側部が欠け落ちている範囲と似た形状となる。つまり、破面の位置と形状から判断すると、上面に乗っている細長い炉底塊片は右寄りへ40cm程離れた炉底塊の肩部が割り取られて、ほぼ180度回転した形で乗っている可能性が高い。なお、文頭に記録した炉底塊とは別単位の流出溝滓との関係については、流出溝滓の方が前段階の製鉄炉操作に伴う可能性のある資料で、本遺跡の最終操業時の炉床部は後者の2.9cmにも達する炉底塊の可能性が高い。したがって、最終操業直後に炉壁を突き崩した上で、炉底塊を取り除いて次の操業に備える目的を持ちながらも、何らの原因で中止されて放置した資料ということが想定できる。</p> <p>工具痕 この炉底塊には工具痕が上面や側部に数多く残されており、総数は43ヶ所を数える。このうち上面に残る工具痕の方が数多く、25ヶ所を数える。側面に残る炉底塊の側部をこじ上げるような動きの工具痕は17ヶ所を数える。炉底塊の上面から側面に残る工具痕の性格はその方向や角度からみて2種類、または3種類に分かれる可能性が高い。上面の工具痕は、最大幅が4cm程度の丸棒状の工具の先端寄りが炉底塊の長軸に対して直角方向を向き、マイナス20～30度程の角度で接触した圧痕として残される。また、各圧痕の間隔が13cm前後と狭いことから、炉壁の基部に設けられた通風孔部から差し込まれた工具痕かもしれない。もう一種の工具痕は、炉底塊の長軸側の側面に沿って残されているもので、炉底塊の肩部から差し込まれて、上にこじ上げるような急角度となっている。そのために炉底塊の長軸右側の部分的では、下手側の肩部が工具痕を中心にV字状に変形して、大きな欠けや歪みを作り出している。これらの、炉底塊側部からの工具痕の間隔が9～20cmとまちまちで、肩部が比較的分厚い滓部を中心に認められる。つまり、前者の工具痕は炉内の生成物(炉底塊や含鉄の滓)の状態を通風孔部から差し込んだ工具により確認している状態で、後者は操業後の炉床面に貼り付いた薄い炉底塊様の滓層を引き起こして、取り除く意図があるものと考えられよう。</p>	
62-1	第175図 PL.129	1区	テラス1 製鉄炉	流出孔～溝滓 (炉床土付き)	53	30	14	20,000	1	なし	<p>2片に割れている大型の流出孔～溝滓破片。右側に伸びている長さ23cm、幅14cmほどの部分は、側部から底面が丸みをもった舟底状となる流出孔滓様で、右側部上手側は不自然に途切れている。この部分には幅3cmほどの窪みがあり、厚さ5mmを測る吸炭部分が確認される。工具となった木製の道具に関わるものかもしれない。滓上面は半流動状で、途切れ途切れとなった流動単位が残されている。流出孔滓の左上に重層する流出溝滓側は左方向に徐々に幅を広げて、左側の端部では約31.5cmにも広がって溜まり滓様となる。上面には1～4cm幅の流動滓が乱雑に重層する。表皮は黒褐色で、一部に暗紫紅色もあり。流れ穢も発達し始めている。左側部は重層した滓が露出する破面で、肩部に工具痕らしき傷が1ヶ所認められる。裏面には軽石や小礫に加えて、炉壁片や滓片が点々と固着する。</p>
62-2	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	9,000	1	なし	<p>右側部の破面が62-3と接合する最大厚み10cmほどの炉底塊。左側部は大きな波状に途切れた自然面様で、下手側には斜め下に向かい幅4cm、長さ10cmほどの工具痕が残されている。こうしたことから、一見、生きているようにも見える左側部が何らかの破面となる可能性もややあり。上面は全体に上手側に傾斜して、砂鉄を含む酸化土砂が貼り付いている。右側部の破面は下手側ほど気孔が数多い。下面は軽石や小礫を含む炉床土となっているが、流出溝滓のような滓片は含んでいない。また、下面の一部に砂鉄焼結部主体の黒錆の吹いた部分が2ヶ所残されている。その2ヶ所の間は工具痕により途切れている。</p>
62-3	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	15,000	1	なし	<p>左側部の破面が62-2の右側と接合して、上手側は62-4から62-6までの3片と接合する炉底塊。上面と下手側の側部には工具痕が8ヶ所に残り、幅10cmほどの、他の部位から移動されたと推定される破片が右下手側の肩部に沿って乗っている。炉底塊としての厚みは、下手側が5cmを測り上手側が2cmと薄くなる。左右方向に直線状に伸びる下手側の側部は、左側の端部で弧状に折れ曲がっている。上面に残る工具痕は5単位を数え、斜め左方向からと下手側からの2種類が確認される。幅4cm前後を測り原形は丸棒状。他方、下手側の肩部3ヶ所に立ち上がるような形の別種の工具痕が残る。最大の大きさをもつ右側の工具痕は炉底塊の肩部を变形させてしまっている。工具痕の幅は2cm強とやや狭い印象を受ける。炉底塊表皮の状態は下手側が砂鉄焼結部を含む酸化土砂が厚いものに対して、上手側には半流動状でややイガイガした滓表面が露出する。下面は浅い舟底状で、軽石や礫を含む炉床土の範囲と厚さ2cmを超える錆の吹いた砂鉄焼結部の両者あり。</p>
62-4	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	12,000	1	なし	<p>下手側が62-3と接合し、右側部が62-5と接合する厚さ3cm前後の板状の炉底塊。側部3面が破面で、上手側の端部には小破面と表皮から流れ落ちる形で収束する滓層が混在する。上面は黒褐色から暗紫紅色で、全体観は半流動状。下面は軽石や炉壁粉を含む比較的均質な褐色の炉床土に覆われている。側部から見ると上面表皮が薄皮状の滓層で、下半は炉床土から成る。</p>
62-5	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	15,000	1	なし	<p>前者と基本的には類似した板状の炉底塊破片。左側部から右回りに62-4、42-3、62-6、62-7に囲まれ、いずれも接合する。上手側の側部のみが生きており、出入りをもちながらも端部が収束する。上下面の状態は62-4と同様。</p>

表72 製鉄関連遺物観察表(5)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル 度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
62-6	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	7,000	1	なし	62・3の左側と接合する厚さ3.5cmほどの板状となった炉底塊。上面には別単位の炉床土様の炉底塊破片が乗る。右下手側の側部は肩部が収束する形で、右側部には62・8個と連続する工具痕が残されている。また、右寄りの中央部が大きく窪んでおり、これも工具痕によるものと推定される。上面下手側の肩部寄りには青黒い流動滓に、上手側は暗紫紅色の表皮をもつ半流動状の滓に覆われる。下手側の側部はせり上がりながらやや肥厚する。下面は軽石や小礫に加えて炉壁片を含む炉床土が広がる。
62-7	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	1,600	1	なし	62・4、5と似た3cm前後の厚みをもつ板状の炉底塊。上手側は収束気味で、下手側の2面が他の破片と接合する破面となる。上面は半流動状で、一部が斜め下に流れ下る流動状。上手側肩部に工具痕とみられる幅2.5cmほどの窪みあり。側部の破面から見ると上面表皮沿いのみが滓層で、下半は炉床土層となる。また、下手側の破面の一部はやや紫紅色が強い。
62-8	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	2,400	1	なし	3片に割れているが接合可能な板状の炉底塊破片。下手側がせり上がって収束し、上面に3ヶ所、下手側の側部に1ヶ所の工具痕が残されている。工具痕はいずれも短軸方向を向き、幅としては3cm前後と7cm前後の2種類が認められる。上面の滓層は短軸側の中間部分が4cmと厚くなる。下面に沿った1cmほどの厚み部分が炉床土で、全体が丸みをもった舟底状となる。
62-9	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	9,000	1	なし	炉底塊の中央やや左寄りの大破片。上面には7単位の工具痕が、上手側の側部には3単位の工具痕が確認される。表層が薄く滓化した厚さ4cmほどの炉底塊で、左側は62・8と、右側は62・10と接合する。上手寄りの端部は小破面が残りながらも端部がほぼ収束する。下手側の端部は左半分がややせり上がって収束し、右半分は引きちぎられたような破面が2ヶ所に数えられる。この部分は62・19、12の下手側の肩部から側部に残る小破面と連続し、62・3、6の上面に乗る細長い炉底塊破片が割り取られ可能性をもつ。炉底塊の上面は左右方向に浅く窪んだ種状で、下手側の肩部沿いのみが比較的きれいな流動状。残る9割方の範囲は全体に流動性の低い、ザラザラした滓層に覆われる。また右上手側の表面には砂鉄焼結部由来の顆粒状の結晶が露出する。下面はごく浅い舟底状で、礫や軽石を含む炉床土の各所から炉壁片や黒錆の吹いた突出部が顔を出している。右下手側には錆色の砂鉄焼結部が盛り上がる。
62-10	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	5,000	1	なし	左側部が62・9と接合し、右廻りに62・11、12、13と接合する炉底塊破片。上面右側には3単位の工具痕が残り、その内の2ヶ所は短軸方向に伸びている。もう1ヶ所は上から突き刺すような形となる。最大厚みは左側の中央部付近で約6cmを測る。下手側は一見、収束しているようにも見えるが、実際は上下幅3cmほどの不規則な破面となっている。これは62・9と12にまたがる破面で、そのために62・10、11の短軸方向の幅は34cmと全体の最大幅より15cm近く狭くなっている。上面はゆったりとした波状で、窪みや盛り上がり共存在する。表皮は全体に黒褐色で半流動状。右上手側の端部寄りでは62・11、13と近い錆色で、細かい木炭痕の連続する平坦面となる。下面は下手側がせり上がり、全体に軽石や小礫を含む褐色の炉床土が固着する。
62-11	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	14,000	1	なし	左側部が62・9と接合し、下手側が62・10と、右側部が62・13が接合する炉底塊破片。上手側の側部は小破面が連続し、表皮の滓層はほぼ収束する。破面から見ると上面表皮寄りの2cmほどの厚み部分が滓化して、下面に沿った5mmほどの厚み部分が炉床土となる。下面は上手側に向かい緩やかにせり上がり、表面には軽石を含む炉床土が露出する。下面の中央部にはやや含鉄気味の滓部が突出する。なお、62・11はさらに右側に小破片が5片接合する。
62-12	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	8,000	1	なし	左側部が62・10と接合し、右廻りに62・11、13と、さらに右側部が62・14と接合する形の炉底塊破片。上面に工具痕が多いのも特色で、合わせて8ヶ所を数える。工具痕の方向は大半が短軸方向を向き、上面中央の1ヶ所は上から突き刺したような窪みとなる。また右下手側の工具痕の周辺は径5cmを超える陥没状となる。下手側の側部左寄りが破面で、右寄りの幅9cmほどの範囲は端部がせり上がっている。上面の中央部を62・14と続く、ややゆったりとした流動滓が右方向に流れている。その短軸方向の両脇は一段低くなり、表皮がイガイガした黒褐色の半流動状の滓となる。下面から下手側の側部にかけては浅い舟底状で、表面には軽石や礫を含む褐色の炉床土が面的に貼り付く。また、錆の吹いた突出部も散見する。
62-13	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	1,500	1	なし	3片に割れている板状の炉底塊。左側部が62・11と接合し、下手側は62・12と接合する可能性をもつ。上面は厚さ2cm前後の流動性の低い滓層に覆われ、下半は炉床土となる。側部3面が破面で、上手側の端部が小破面となる。滓は収束気味。炉底塊といっても、炉床土の表面が滓化した程度の薄い資料である。
62-14	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	35,000	1	なし	短軸方向の最大幅が40cmを超え、左右の長さ57cmを測る分厚い炉底塊破片。左側部は62・12と接合し、右側部が62・15と接合する。上面全体がゆったりとした流動滓に覆われ、肩部から10cmほど入った内側を中心に内部のガス抜けのためか、不規則なひび割れが数多く目立つ。また、上面や短軸側の両方の肩部に工具痕が目立つのも特色で、合わせて7ヶ所を数える。このうち、上面右側の中央部には突き刺したような形で1ヶ所、上手側の肩部に2ヶ所、下手側の側部には炉底塊と変形させるほどの深い工具痕が3ヶ所確認できる。残る1ヶ所は左下手側の上面で、幅6cm近い種状となる。左側部の破面から見ると滓層の最大厚みは8cmほどで、以下が炉床土となる。下面は幅広く浅い舟底状で、軽石や小礫に加えて、炉壁片も数多く顔を出している。錆色の一部が砂鉄焼結部様の場所も散在する。炉底塊としては上手左側の側部が小さく欠け落ちている。

表73 製鉄関連遺物観察表(6)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
62-15	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	-	-	-	20,000	1	なし	右側が62・16とした流出孔～溝滓に向かって幅が徐々に狭まる形の炉底塊破片。左側部は62・14と広い範囲で接合する。下手側の側部2ヶ所が、こじ上げるような工具痕により大きく変形しているのも特色となる。特に左下手側の工具痕周辺は、高さ12cm、幅7cmを超える大きな変形が生じている。上手側の側部は上面を流動する青黒い滓が不規則に塗切れて自然に収束する。炉底塊的な部分は中央部より左側30cmほどの範囲で、右側の14cmほどの部分では幅広い流出溝滓様の外観となる。上面表皮には炉壁粉を多量に固着する大きなひだ状の流れ皺を生じている。また、右側部の破面は短軸幅が18cmほどの碗形をしたシャープな破面となる。この部分が流出孔滓とみられる。下面は上面と一応対応するかのようにより左右で質感が異なり、左側半分は30cmほどの範囲が比較的きれいな舟底状となる。礫や軽石が固着しながらも、2cm以下の木炭痕と錆色が目立つ炉内滓的な外観となる。また、木炭痕周辺には明らかに砂鉄焼結部主体の部分が残り、それに対して右側の23cmの範囲は別単位の滓のように下面が丸みをもって張り出している。加えて、下面の中央部や下手側の肩部に沿って、やや不明瞭な、幅5cm程度の工具痕流入滓様の突出部あり。
62-16	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	流出孔～溝滓 (炉床土付き)	-	-	-	3,500	1	なし	左側部の破面が62・15と接合する、きれいな外観をもつ流出孔～溝滓破片。上面は青黒く平滑な流動滓に覆われて、右方向に向かい徐々に幅を狭めている。また、下手側の肩部寄りには滓が重層し、表皮の一部がひび割れから逆転して、巻き込まれている。右側部は小破面となる。下面は急激に幅を狭める丸みをもった舟底状で、軽石や礫を含む褐色土に覆われている。
62-17	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊	-	-	-	420	2	なし	表面全体が炉壁粉を含む土砂に覆われた炉底塊の小破片。ただし、炉底塊といっても下面に砂鉄焼結部に近い炉内滓部が露出するため、むしろ炉内滓破片とすべきかもしれない。上面はやや凹凸をもちながらも平坦気味で、少なくとも側部2面が破面となる。
62-18	第175図 PL.131	1区	テラス1 製鉄炉	炉底塊	4.2	3.4	2.8	762	3	錆化(△)	分析資料No.9 分析資料詳細観察表参照。
63	第177図	1区	流出溝2-c	炉壁 (長軸側・コーナー部・ 木舞孔付き)	6.0	9.3	5.3	178	1	なし	内面が溶化して青黒い垂れが生じ始めている炉壁破片。側部から外面は連続的な破面となる。上面左側の破面には径1.7cm大の丸棒状の木舞孔が露出する。木舞孔の下端部は溶化して内部が塞がっており、現状で長さ4cmを測る。胎土はスサを混じえる粘土質。
64	第177図	1区	流出溝2-c	炉壁 (長軸側・基部接合痕付き)	10.5	7.2	5.5	221	1	なし	下端部が水平に整えられた炉壁基部破片。内面下半は黒色ガラス化しており、炉壁の通風孔部下の前傾のためか上半部が前屈する。破面は左右の側部に加えて、上面と下手側に広がる。胎土はスサをやや多めに混じえる粘土質。
65	第177図 PL.125	1区	流出溝2-c	砂鉄焼結塊(含鉄)	2.8	2.9	0.9	9	2	H(○)	厚さ5mm前後を測る薄板状の砂鉄焼結塊破片。側部4面が小破面で、下面は炉壁表面からの剥離面様。上面は焼結した砂鉄粒子が密に広がる。砂鉄の粒度は還元が進み全体に影らんでいる。もとの粒径は0.1mm大と微細。
66	第177図	1区	流出溝2-c	流出孔～溝滓	3.8	1.8	1.5	24	1	なし	左右の側部が破面となった流出孔～溝滓破片。左側部の破面は径2cm大前後の乱れた丸棒状で、右方向に向かい、ねじれるように流動しつつ細くなっている。滓表面は平滑で暗紫紅色が強い。
67	第177図 PL.128	1区	流出溝2-c	流出溝滓	6.0	5.5	3.9	201	1	なし	左右の側部がシャープな破面となった流出孔～溝滓破片。やや大ぶりの流動単位が重層したもので、上層には流出孔滓様の滓が残っている。滓質は緻密で気孔は少なめ。下面は浅い舟底状で、炉壁粉が点々と固着する。表皮全体に酸化土砂が広がる。
68	第177図	1区	流出溝2-c	炉床土 (炉内流動滓付き・滓付き)	15.4	10.5	7.6	1,040	1	H(○)	下面の左側が瘤状に突出した、炉壁溶解物主体の炉床土破片。下面の突出部は含鉄のために錆色がにじみ、放射割れも生じている。上半部は炉壁溶解物主体で、下手側の側部では不規則な垂れとなる。炉床土の部分は下面右寄りの一部。
69	第177図 PL.125	1区	流出溝2-c	炉床土 (含鉄・滓付き)	40.5	20.0	11.2	6,740	1	H(○)	構成No.32を一週り大きくしたような滓付きの炉床土破片。上手側の側部寄りは滓や炉壁溶解物が折重なったような形で重層しており、下手側にかけては粘土質主体の盤状の部分がすそ広がりに伸びている。後者の上面はガラス質に溶化する。左右の側部から下手側の側部にかけては狭い破面が広がる。下面は炉壁粉や軽石を含む炉床土となり、左側の端部寄りが流出溝滓様で、炉の端部寄りを示す可能性あり。厚みは下手側に向かい徐々に薄くなる。上面からみると、左上側が碗形に窪んだ形で、上手側中央やや左手に、斜め方向に向かう幅2.5cmほどの凹みが確認される。あるいは箱形炉の長軸側端部の通風孔位置と通風の方向に関わるものか。
70	第178図 PL.129	1区	流出溝2-c	流動滓	3.8	0.8	0.8	6	1	なし	歪んだ棒状をした細身の流動滓破片。中央部が径5mmほどの幅をもち、上面にはかすかに流れ皺が確認される。右側部寄りが地面に接している可能性大。破面は不明瞭。
71	第178図 PL.129	1区	流出溝2-c	炉内滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	3.5	3.1	2.6	38	2	H(○)	平面、不整形をした厚さ2.5cmほどの炉内滓破片。短軸側の両側部が明瞭な破面で、焼結した砂鉄が露出する。砂鉄焼結部から炉内滓へ移行する途上の滓が。表面には酸化土砂が広がる。
72	第178図	1区	流出溝2-c	炉内滓(含鉄)	4.2	2.1	1.3	17	2	H(○)	左右方向に伸びる細い棒状の炉内滓破片。酸化土砂に覆われて不明点が多いが、左右の側部が破面の可能性大。上面肩部には錆跡や流動気味の滓表面が小さく突出する。含鉄の流出孔滓の可能性もややあり。
73	第178図	1区	流出溝2-c	炉内滓(含鉄)	3.9	2.8	1.4	16	1	H(○)	平面、不整形をした扁平な炉内滓破片。表面全体が酸化土砂に覆われており、上面や上手側の側部に放射割れの痕跡を残す。下面は浅い舟底状で、木炭痕と青黒い滓表面が露出する。炉壁の表面付近で生成された炉内滓破片か。含鉄部は右寄りの芯部。
74	第178図 PL.129	1区	流出溝2-c	炉内滓(含鉄)	5.6	4.5	3.4	92	3	H(○)	分厚い酸化土砂に覆われたやや丸みをもった塊状の炉内滓。表面の酸化土砂に防害された芯部の状態には不明点が多い。酸化土砂中には砂鉄焼結塊や滓片に加えて、木炭や炉壁粉が含まれている。上面は平坦気味で、右寄りには砂鉄焼結部由来の含鉄部が顔を出す。
75	-	1区	流出溝2-c	木炭	-	-	-	15	1	なし	流出溝2-cの埋土中から採取された木炭3サンプル。大きさは3cm大以下で、枝材と太い材をミカン割りしたものの両者あり。炭化は比較的良好で、一部に菊割れも観察される。明らかに炭化材とは異なっている。未水洗のため表面が分かりにくい。
76	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・上段(下半)・ 横方向接合痕付き・ 砂鉄焼結付き)	3.45	4.85	3.6	36	1	なし	内面の一部に砂鉄が焼結した炉壁破片。側部4面が破面で、外面には明褐色の地が露出している。内面に固着する砂鉄粒子は粒径が0.1mm大前後で、一部がやや角ばっている。右寄りが浅い桶状に窪んでおり、上下方向に向くことからスマキ痕の可能性も残る。胎土中のスサ痕が炉壁表面にも露出する。

表74 製鉄関連遺物観察表(7)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル 度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
77	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・上段(下半)・ 砂鉄焼結付き)	4.4	4.8	3.7	40	1	なし	内面全体に数mmの厚さで砂鉄が焼結した炉壁破片。側部は全周が破面で、うち右側部はひび割れから被熱したためか、幅広く砂鉄が焼結する。砂鉄の粒度は0.1mm大前後で、全体に比較的角ばった粒子となっている。
78	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・中段(上半)・ 横方向接合痕付き・滓化弱・ 砂鉄焼結付き)	9.2	10.5	4.6	283	1	錆化(△)	内面が薄く滓化した炉壁破片。右側部上面の一部は粘土単位の接合部とみられ、砂鉄焼結部が面的に残る。内面の中央付近は表皮が脱落して、外周部のみマグネタイト気味の滓層が薄皮状に残る。側部から外面は連続的な破面となる。胎土中には長短のササが混じえられているが、外面寄りでは目立たない。
79	第180図 PL.119	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・中段(上半)・ 滓化弱・砂鉄焼結付き)	3.8	6.2	3.1	71	1	なし	内面全体が砂鉄焼結部に覆われた炉壁小破片。破面は側部4面と外面に広がる。左右の側部や下面の一部は砂鉄焼結部が肩部を覆うように広がっており、炉壁のひび割れ等から内側に食い込んだものかもしれない。焼結した砂鉄の大半は還元してやや膨らんでいる。ただし、右下の部分では明らかに角ばった砂鉄粒子が主体となる。
80	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・中段(下半)通風孔上・ 横方向接合痕付き・滓化強)	9.5	8.0	3.0	235	2	錆化(△)	内面の滓化が進んで青黒い垂れが目立つ炉壁破片。側部から外面は全体が破面となる。胎土はササを一定量混じえて練りが甘い。そのためか、ひび割れや不規則な隙間も生じている。内面に付着する滓はマグネタイト気味。
81	第180図 PL.120	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・中段(下半)・通風孔上・ 横方向接合痕付き・滓化強)	10.7	11.8	5.5	516	1	なし	内面全体が厚さ1.5cm前後に黒色ガラス質滓化している炉壁破片。側部から外面はイガイガした破面となり、下面は粘土単位の接合部の可能性も残る。内面表皮の滓化部分は光沢をもち、窪みも深い。そのためか、粘土質の胎土はササが横方向に走り、小さなひび割れも目立つ。粘土中の酸化物が反応して斑点状の斑模様となる。
82	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き・通風孔付き)	5.0	5.3	6.6	95	2	なし	右側部下段に通風孔部壁面の一部が残る炉壁破片。通風孔部は径2.7cm以上の円孔とみられる。炉壁内面はマグネタイト系の滓に覆われている。通風孔部の左右方向の角度は斜め45度近く振れている。箱形炉の長軸側でも、かなり右寄りの通風孔か。
83	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き・通風孔付き)	9.0	9.0	3.0	332	2	錆化(△)	左側部中段に通風孔部壁面の一部を残す炉壁破片。通風孔部の径は2.8cm以上の円孔とみられる。箱形炉の長軸中央付近の通風孔部か。炉壁の平面形は通風孔間の溶損のために大きく窪んでおり、右側にも別の通風孔が存在した可能性あり。炉壁内面の滓化は粘土質溶解物主体で、通風孔部は上方からの垂れにより塞がれ気味となる。また、内面下半の一部は黒色ガラス質。側部から外面は全面破面で、ササ痕と細いひび割れが目立つ。
84	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 横方向接合痕付き・ 基部接合痕付き・滓付き)	13.2	11.3	8.8	731	1	なし	下端部が水平に整・成形された炉壁基部破片。残る側部から外面の大半が破面となっている。通風孔部下の炉壁片のためか、内面下部寄りには滓層がややまとまっている。
85	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 通風孔2孔付き・ 基部接合痕付き・滓付き)	20.0	9.1	9.2	1530	1	H(○)	左右の側部上半に通風孔部2孔が明瞭に残る炉壁基部破片。下手側の側部が平坦に整えられて、明瞭な炉壁基部となる。通風孔部は径4cm大を超える円孔と推定され、左右の通風孔間の壁面間隔は約9.6cmを測る。通風孔部の水平角度はやや強く、マイナス35度前後を測る。また通風孔部径が4cmと仮定すると芯々間隔は13.5cm前後が推定される。箱形炉の長軸中央寄りの通風孔部か。炉壁の平面形は内面基部がほぼ直線状であるのに対して外面側が僅かに弧状となり、右方向が薄い。内面の滓化は通風孔部下がえぐれる形ではなく、むしろ、通風孔部下がやや突出するような状態を示す。左右の側部から上面の奥側が破面となっており、外面も表層が剥落する。胎土は小礫やササを混じえた粘土質。
86	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・コーナー部・ 下段(下半)・通風孔下・ 基部接合痕付き・滓付き)	6.1	8.7	7.8	303	1	なし	内面が黒色ガラス化した炉壁基部破片。下手側の側部は平坦に整えられた状態で、平面形はやや弧状となる。左右の側部から外面にかけては破面になっている。炉壁コーナー部寄りの基部破片であろう。
87	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 横方向接合痕付き・ 基部接合痕付き・滓付き)	10.0	6.45	5.05	419	1	なし	前者と同様、下手側の側部が平坦に整えられた炉壁基部破片。内面には木炭痕が目立ち、厚さ5cm近い粘土質の滓層が形成されている。左右の側部から外面は破面となる。平面形は緩やかな弧状。
88	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁(コーナー部)	4.9	8.6	4.9	126	1	なし	内面が酸化色となった炉壁コーナー部破片。内面の左側から側部にかけては全周が破面になっている。平面形はきれいな弧状。外面寄りには被熱が強いいためか、明褐色から一部が吸炭した灰褐色。胎土中にはササが混じえられており、被熱が強いほどササ痕が目立つ。
89	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (コーナー部・ 横方向接合痕付き)	8.3	7.1	7.0	265	1	なし	内面が僅かに滓化が始まった程度の炉壁破片。上端部寄りには発泡気味の滓層が薄皮状に残る。側部4面と外面の大半が破面とみられる。胎土中にはササ痕が横方向に走り、ひび割れは少ない。内面表皮は暗紫紅色となる。
90	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (コーナー部・外面整形痕付き)	10.1	10.3	7.8	560	1	なし	内面の左側が浅い桶状に窪む炉壁破片。平面形は明瞭な弧状となっており、側部全体が破面となる。右側部内面寄りの破面には長さ4cm程度の木の葉の圧痕が残されている。炉壁胎土の調整時に混入したものであろうか。あるいは粘土を練り合わせる折に加えた水に含まれていたものかもしれない。炉壁の厚みは8cm以上が残る。粘土質の胎土にはササをやや多く混じえ小さなひび割れも生じている。
91	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (コーナー部・被熱石付き・ 基部接合痕付き)	9.3	5.4	6.4	262	1	なし	内面に厚さ3.5cm前後の粘土質の滓が貼りついている炉壁破片。左右の側部から上面、さらには外面も破面に覆われており、胎土中にはササと径6cm大の扁平な礫が含まれている。滓表面の色調は黒褐色から暗紫紅色となる。
92	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁 (コーナー部・木舞孔付き)	10.7	11.0	9.0	640	1	なし	内面がやや流動し始めた粘土質の滓に覆われた炉壁破片。側部から外面上半部が破面となっており、上面側の破面には明瞭に木舞の痕跡が残る。木舞孔は径1.4cm前後の丸棒状で、上下方向に向く中空の孔として確認される。長さ5cmまでは確認できるが、下端部は貫通していない。あるいは、粘土質の滓に塞がれているためかもしれない。SS1-製鉄炉の構成No.28とも共通する細い木舞孔となる。本来は炉体構築時に炉壁厚み方向の芯部に設けられたものと推定される。
93	第180図	1区	流出溝2-b	炉壁(工具痕付き)	5.8	7.3	3.9	109	1	なし	内面が滓化気味で、下半部をえぐるように弧状の工具痕が残されている炉壁破片。工具痕の幅は1cm前後で、下面からみるときれいな弧を描いている。炉壁部分は側部から外面が破面となる。内面は暗紫紅色に滓化する。
94	第180図	1区	流出溝2-b	炉床土 (横方向接合痕付き・滓付き)	11.4	6.5	4.5	348	2	なし	表面全体が粘土質と錆色の混在する滓層に覆われた炉床土破片。炉床土の部分は左右の側部がシャープな破面となる薄い薄針状で、灰黒色に被熱した炉壁粉を混じえる胎土が下面に露出する。部分的に発泡して、左手側の側部の表皮は風化のためか白色滓様となる。

第5章 古代以降の調査

表75 製鉄関連遺物観察表(8)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
95	第180図	1区	流出溝2-b	炉床土 (含鉄・砂鉄焼結付き・ マグネタイト付き・滓付き)	7.3	4.6	4.5	186	2	H(○)	上面が厚さ2.5cmほどの滓層に覆われた炉床土破片。表皮の一部は流動状でマグネタイト系の滓部もあり。滓表面の一部に還元が進んだ砂鉄焼結部が確認される。下面は浅い舟底状で、薄皮状に炉壁粉や軽石を含む炉床土が固着する。炉底塊の肩部破片かもしれない。
96	第180図 PL.125	1区	流出溝2-b	砂鉄焼結塊 (含鉄)	2.9	1.7	1.6	20	2	H(○)	平面、不整形をした小塊状の砂鉄焼結塊。側部2面が破面で、下手側の側部から下面は剥離面様となる。全体が比較的均質な砂鉄焼結部から成っており、最小の砂鉄粒度は0.1mmを測る。炉壁表面に焼結したものと推定される。
97	第180図	1区	流出溝2-b	砂鉄焼結塊(含鉄)	10.8	9.8	5.6	40	2	H(○)	分析資料No10 分析資料詳細観察表参照。
98	第180図 PL.125	1区	流出溝2-b	マグネタイト系遺物 (含鉄)	1.9	3.7	1.8	13	1	H(○)	上面が流動化し始めたマグネタイト系遺物破片。側部の大半が破面となっており、下手側の下面は含鉄部の影響のため錆色が滲む。
99	第180図 PL.129	1区	流出溝2-b	工具附着滓	2.7	1.6	0.5	4	1	なし	幅1.6cmほどで棒状の外観を示す工具附着滓小破片。外周部の破面の厚みは3mm前後で、下面には流動状の突出部が確認される。工具の原形は丸棒状の細い鉄棒か。工具と接した内面は光沢をもっている。
100	第180図 PL.126	1区	流出溝2-b	流出孔滓	8.0	3.0	1.75	55	1	なし	幅2.5cm前後の細い棒状をした流出孔滓破片。左右の側部が破面となっており、滓上面には細かい流れ皺が生じている。側部から下面は丸みをもった舟底状で、全面に炉壁粉が貼り付く。
101	第180図 PL.126	1区	流出溝2-b	流出孔滓	7.4	3.4	2.4	107	1	なし	右側部がシャープな破面となった丸棒状の流出孔滓破片。上面左側は一段高く、右側には平滑な流動単位が認められる。左側部は滓表面が途切れながらも流動状となる。滓質は緻密で気孔は少ない。丸棒状の側部から下面には細かい炉壁粉が密に固着する。
102	第180図 PL.126	1区	流出溝2-b	流出孔滓	12.0	4.2	2.1	166	1	なし	2片が接合した長さ12cmほどの流出孔滓破片。全体に細い棒状の外観を示し、側部から下面には工具痕そのものを写したようなきれいな丸棒状の突出部が露出する。右側部はシャープな破面で、左側部は引きちぎられたような不自然な破面となる。破面の気孔はまばらに残る。側部から下面には中小の炉壁粉が密に固着する。
103	第180図 PL.126	1区	流出溝2-b	流出孔滓	6.6	3.7	4.5	143	1	なし	右側部が収束する流出孔滓の先端部破片。左側部が小破面で、右側に向かいやや広がり気味となる。左右幅に比べて上下の厚みの方が大きい。側部から下面は比較的小さい丸棒状で、工具により流出孔底が掘り下げられた形で生成か。上面は流動状で、一部に表皮の脱落が生じている。滓質は緻密。
104	第180図	1区	流出溝2-b	流出孔滓	7.2	5.6	5.2	300	1	なし	前者をさらに太くした形の流出孔滓、先端部寄り破片。左右の側部に加えて左下手側の肩部も破面となる。右側の肩部は斜めに傾斜して滓が収束気味。流出孔の幅は4.8cm前後まで広がっている。滓質は緻密。
105	第180図 PL.126	1区	流出溝2-b	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	11.5	15.0	9.5	1569	1	なし	右側の先端部が外側に大きく広がった特異な形態をもつ流出孔～溝滓破片。左側部中央はシャープな破面で、右側部の下手側には幅4cmほどの棒状の工具痕を残す。全体に扁平なラッパ状に広がっており、上面としたごく狭い範囲には暗紫紅色の表皮をもつ流動滓が小さくまとまっている。上下逆の可能性もやや残る。形態的には流出孔の出口付近が原位置と推定される。
106	第180図	1区	流出溝2-b	流出孔～溝滓	13.0	10.5	7.0	1508	1	なし	形態はやや異なるが、基本的には前者と類似する流出孔～溝滓破片。破面は左側部中段のみで、右側部は滓が途切れ流れ皺が確認される。上面は普通の幅広い流出溝滓様で、流動滓の破片を巻き込みながら右方向に流動する。下手側の側部が段を成し、左側の端部から2cmほど右側が急に広がっている。そのため、この広がった部分が流出溝側と予想される。事実、表面に固着する炉壁粉の色調が左右で異なっている。
107	第180図	1区	流出溝2-b	流出孔～溝滓 (重層)	13.0	12.2	6.2	1523	1	なし	棒状の滓層が重層した流出孔～溝滓破片。破面は左側の中央部で、少なくとも上下2単位の滓の重層が認められる。右側部では端部が途切れれば平滑な自然面となる。上面は前者の流出溝滓に似て、全体的には棒状に流動する。短軸側の両側部は上下の滓の隙間が明瞭な段を成す。
108	第180図 PL.128	1区	流出溝2-b	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	11.5	6.2	4.1	351	1	なし	上面の右側中央部に工具痕を残す、やや特異な形の流出孔～溝滓破片。左右の側部が主破面で、1～2cm幅の流動単位が不規則に重層している。下面は丸棒状の上手側から下手側に向かい、横方向に広がる扁平な流動状となる。工具痕の幅は2cm前後で、少なくとも2単位の重層とみられる。滓質は部位により粗密あり。全体的に不自然な形態をもつ。人為による変形か。
109	第180図 PL.128	1区	流出溝2-b	流出溝滓	10.6	4.0	2.1	154	1	なし	上面に強い流れ皺をもつ細身の流出溝滓。上下に別単位の滓が重層したもので、いずれも流れ皺が強い。平面形は緩やかな弧状で、両端排滓の箱形孔に特有の形態を示す。左右の側部が破面になっており、気孔の一部が肥大する。側部から下面は舟底状で、炉壁粉が点々と固着する。
110	第180図 PL.128	1区	流出溝2-b	流出溝滓	12.5	5.5	2.4	365	1	なし	左右の側部が破面となった典型的な流出溝滓破片。中間部分がくびれながらも右方向に向かって流動して、右側では6.9cmの幅をもつ。左側部の破面は不自然で、突き動かされたために生じた外観を示す。側部から下面は平底の舟底状で、上手側の側部は急角度で立ち上がる。
111	第180図 PL.128	1区	流出溝2-b	流出溝滓	10.0	7.7	3.5	427	1	なし	上面に流れ皺が広がる扁平な流出溝滓破片。左右の側部が破面で、上層の気孔がやや横方向に大きく肥大する。滓表皮は平滑で、色調は暗紫紅色気味。側部から下面は浅い舟底状で、炉壁粉が点々と固着する。
112	第181図	1区	流出溝2-b	流出溝滓	4.5	4.6	3.3	581	1	なし	分析資料No11 分析資料詳細観察表参照。
113	第181図	1区	流出溝2-b	流出溝滓	12.2	10.3	7.4	1328	1	なし	高さ、幅ともしっかりした流出溝滓破片。左右の側部がシャープな破面になっており、流れ皺をもつ厚身の流出溝滓の上面に沿って、幅2.5cmほどの流動単位が複数重層する。側部から下面は丸みをもつながらも幅広い舟底状で、灰色や褐色の炉壁粉が密に固着する。
114	第181図	1区	流出溝2-b	流出溝滓	14.3	9.3	4.2	1221	1	なし	幅広い棒状の外観をもつ流出溝滓破片。左右の側部が小破面となっており、下面右側の端部には別単位の滓破片を噛み込んでいる。左側の破面はやや扁平ながらも丸みをもっており、流出孔滓の情報を残すものか。上面は表皮の脱落した中空部や流れ皺の痕跡を残す。側部から下面は幅広い舟底状で、炉壁粉や滓片を密に固着する。
115	第181図 PL.128	1区	流出溝2-b	流出溝滓	19.5	8.0	8.0	2215	1	なし	左右の側部と上手側の側部右側が破面となった流出溝滓破片。上面左半分はやや盛り上がった形で、右側は捻じれたような流れ皺をもち、幅のまちまちな流動単位が複数重層する。破面の形状は左側部が丸みをもっているのに対して、右側部では浅い棒状となる。典型的な流出溝滓の破片の1つ。
116	第181図 PL.129	1区	流出溝2-b	流動滓	1.6	5.6	1.4	18	1	なし	単位流動滓に近い幅1cm前後の細身の流動滓破片。中間部分が2つに分かれて右側では2単位となる。左右の側部が破面で、下面は炉壁粉による圧痕のためやや変形する。

表76 製鉄関連遺物観察表(9)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
117	第181図 PL.129	1区	流出溝2-b	流動滓	6.8	1.5	1.1	40	1	なし	細身ながらも上面の流れ皺のはっきりした流動滓破片。左右の側部が主破面で、右下手側の側部にも新しい破面あり。左寄りの側部は短軸の両側とも径1.5cm前後の木炭痕により変形している。下面は平坦気味でわずかに炉壁粉の圧痕あり。
118	第181図 PL.130	1区	流出溝2-b	炉底塊～流出孔滓(重層)	15.0	16.0	12.0	4200	1	なし	大型の流出孔滓のような外観をもつ炉底塊の長軸端部破片。左側部下の2/3が炉底塊本体側の大破面で、結晶の発達した緻密な滓層となる。その下手側の上面には滓が均けられた後にできる流動滓の窪みが生じている。右側部は中段から斜め下に向かい扇状に伸びる流出孔滓の基部が残る。表皮には平滑部や流れ皺の両者が共存する。また、この流出孔滓の上手側肩部に、斜め下方から幅1cmほどの工具痕が残されている。上面は流出溝滓と似たさまざまな色調をもつ炉壁粉に覆われた山なりの形態となる。短軸側の両側部から下面は丸みをもった舟底状で、表面には密に炉壁粉が広がっている。本資料は下市築地ノ峯東通第2遺跡の箱形炉の炉底塊と2回り以上小さく、幅も狭い。一見すると、流出孔滓または流出溝滓破片のようにも見えるが、本遺跡の場合、炉底塊の長軸端部破片である可能性がある。最大幅は15cm弱で、厚みこそ12cm近いが、極めて幅の狭い炉底塊が生成されていることが分かる。炉床部の長さを加味すると、極めて内幅の狭い箱形炉であったと推定される。また、出土している流出孔滓や溝滓が全体として小ぶりである点とも共通項をもつ。(ただし、幅の広がった大きな炉底塊も一定量出土している。)
119	第181図 PL.130	1区	流出溝2-b	炉底塊～流出孔滓(炉壁付き・炉床土付き・炉内流動滓付き・工具痕付き)	23.6	21.0	11.5	8180	1	なし	左側部を中心に上方、または斜め上方からの多数の工具痕が残されている炉底塊から流出孔滓破片。最大幅は20cm前後で、一見、大型の流出溝滓破片のような外観を示す。左側部の工具痕は方向は別にして合わせて19単位を超えている。上面は凹凸が激しく、滓質もややまちまちとなる。加えて右上手側から上面にかけては炉壁片も落ち込んでいる。右側部中段は不自然に途切れた破面で、無理に割ったような外観をもつ。短軸側の側部から下面は丸みをもった舟底状で、炉底塊自体が突き動かされているためか一部に重層がみられ、左右で別単位のような形態差をもつ。幅の狭い点は構成No118と似る。また工具痕の多さは、操業途中で何らかのトラブルがあったためと想定される。相対的に、この箱形炉の操業目的が炉内に炉底塊を成長させることではなく、むしろ銑鉄の流し取りを主体とするような意図があったのかもしれない。
120	第181図	1区	流出溝2-b	炉床土(滓付き)	19.0	10.7	5.5	1104	2	なし	平面、不整三角形をした滓付きの炉床土破片。表面は炉壁粉に覆われて不明点も多いが、下手側の側部2面が主破面の可能性が高い。上手側の側部から下面は左右に長手の椀形滓の底面のような外観を示し、緩やかな舟底状となっている。厚さ2.5cmほどの褐色の粘土を主体とした炉床土の下面に、炉壁粉や山土に含まれる中小の礫が固着したものと思われる。破面には中小の気孔や粉炭による隙間が多い滓部が露出する。
121	第181図	1区	流出溝2-b	炉内滓(炉壁付き・炉内流動滓付き・工具痕付き)	5.9	3.3	1.9	61	1	なし	上面左側に斜め短軸方向に向かう工具痕が残る炉内滓破片。工具痕は径1.5cm前後の桶状で、原体は丸棒状か。滓部は左側部が破面になっており、上手側の側部から下面には炉壁粉が点々と固着する。半流動状の滓で、イガイガした上面にははかすかに木炭痕と不規則な窪みが生じている。
122	第181図 PL.129	1区	流出溝2-b	炉内滓(含鉄・砂鉄焼塊付き・マグネタイト付き・工具痕付き)	4.3	4.0	3.2	76	3	H(○)	全体が茶褐色の酸化土砂に覆われた炉内滓破片。不定形な塊状で、下手側の側部下のみに新しい破面が確認できる。上面や側部に木炭痕あるいは工具痕の可能性をもつ浅い桶状の窪みが生じている。磁着はやや強めで含鉄気味となるが、砂鉄焼結由来の可能性もあり。
123	第181図	1区	流出溝2-b	炉内滓(含鉄・マグネタイト付き)	3.5	3.5	1.7	31	2	H(○)	褐色の酸化土砂に覆われた扁平塊状の炉内滓破片。下面の中央部は錆影れによる突出部とみられる。右側部の一部に砂鉄焼結部が露出しており、砂鉄焼結由来の炉内滓の可能性が高い。炉壁表面で生成か。
124	第181図	1区	流出溝2-b	炉内滓(含鉄)	3.7	2.5	3.4	19	3	H(○)	表面の各所から突出部が不定方向に伸びる、半流動状の炉内滓破片。小さな錆影れが数多く、部分的に砂鉄焼結部様となっている。生成初期のメタル部が含まれるものとみられる。裏面の一部は剥離面様となる。
125	第181図	1区	流出溝2-b	炉内滓(含鉄)				69	3	M(◎)	分析資料No.12 分析資料詳細観察参照。
126	-	1区	流出溝2-b	木炭	-	-	-	64	1	なし	分析資料No.13 流出溝2-b埋土中から出土した6サンプルの木炭。小破片が目立ち、最大で3cmを測る。主体は2cm大前後の大きさで、表面の焼痕は目立たない。むしろ、表面や角がシャープで、製鉄炉の操業用に小割りされて炭置き場等に置かれていた木炭が拡散したものか。材は枝材と樹幹材が含まれているが、いずれも小片のため分かりにくい。必要な大きさの木炭を取り除いた後に残された小炭かもしれない。また、未水洗のため不明点も多い。
127	第181図	1区	流出溝2-b	被熱石	7.0	5.95	2.95	117	1	なし	全体が被熱して、下面と上手側の側部が破面となった被熱石破片。上面の中央部にも小破面があり、表皮全体が赤化傾向をもつ。側部から上面は緩やかに盛り上がり、傾斜した右側部表面には鉄錆が点々と固着する。また被熱は表面の部分が最も強い。石質はやや軟質の火成岩か。
128	第181図	1区	流出溝2-a	炉壁(長軸側・中段(上半)・通風孔周辺・滓化弱・滓付き)	11.8	10.2	5.0	392	1	なし	内面表皮が薄く滓化して、一部に粘土質の垂れが残されている炉壁破片。側部から外面は全面破面で、びびり割れからの被熱のためか、外周にも広範囲に弱い滓化部分が広がる。内面中央部から右下部にかけては僅かに砂鉄焼結部が残り、小範囲ながら錆色が広がる。胎土中のササは乱雑。
129	第181図	1区	流出溝2-a	炉壁(長軸側・中段(下半)・通風孔上・横方向接合痕付き・滓化強・滓付き)	7.0	6.0	3.0	106	1	なし	内面の滓化が進み、左側に2条の粘土質の垂れが生じている炉壁破片。側部から外面は破面で、外面にはササ痕が露出する。内面表皮の一部は暗紫紅色となる。
130	第181図	1区	流出溝2-a	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔付き・滓付き)	9.8	8.1	2.8	215	1	なし	粘土質溶解物主体の炉壁表面破片。下端の中央部から裏面にかけては通風孔上頸部の可能性をもっているが、内側にも粘土質の垂れが扱んで、やや不明点が多い。炉壁内面は黒褐色にガラス化して、3cm大前後の木炭痕が点々と残る。側部から外面は全面破面。胎土中にはササに加えて4cm大の軽石も含まれている。
131	第183図 PL.122	1区	流出溝2-a	炉壁(長軸側・下段(下半)・通風孔下・横方向接合痕付き・基部接合痕付き・含鉄・マグネタイト系滓付き・滓付き)	7.2	15.6	4.5	578	1	H(○)	通風孔部下と推定される内面中央部が棚状に突出する炉壁破片。外面全体と外面に接する側部が全周にわたって幅の狭い破面となっている。内面の突出部は半流動状の滓主体で、左半分は含鉄のためか一部が錆色で、広く酸化土砂に覆われている。右側の下半は捻じれたような細い流動状単位が折り重なっている。外面には2cm大以下の礫を含む炉壁土が露出する。
132	第183図 PL.120	1区	流出溝2-a	炉壁(コーナー部・中段(上半)・横方向接合痕付き・滓化弱)	6.5	5.0	5.0	128	1	なし	内面の滓化が僅かに始まり、小さな垂れが数多く残る炉壁破片。右側部は粘土単位の接合部で、残る側部から外面は破面となる。外面の中央部が小範囲で赤褐色に被熱する。

表77 製鉄関連遺物観察表(10)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
133	第183図	1区	流出溝2-a	炉壁 (コーナー部・下段(上半)・ 滓付き)	10.7	10.5	1.6	238	1	なし	内面表皮が黒褐色の粘土質溶解物となった炉壁破片。滓化した表面の質感が構成No.130と似る。内面の各所に点々と浅い木炭痕が残されており、下部部では垂れが突出する。一部が錆色となっているが含鉄ではない。平面形は緩やかな弧状。裏面全体が破面で、小礫を含む胎土が露出する。
134	第183図	1区	流出溝2-a	炉壁 (コーナー部・下段(下半)・ 基部接合痕付き・滓付き・ 軽石付き)	13.05	6.2	6.35	471	1	なし	外面の中央部に径8cm大の礫を含む胎土部分が残る炉壁基部破片。内面はイガイガした滓化状態で、下部部では半流動状の滓が4cm近い厚みで広がっている。一部は炉壁基部に沿って流動する流動滓様。裏面からみると、僅かに炉壁基部を示す平坦面が確認される。裏面全体が破面。
135	第183図	1区	流出溝2-a	炉床土 (含鉄・マグネタイト系滓付き・ 滓付き)	11.0	7.5	3.0	275	2	H(○)	内面全体が半流動状の滓に覆われた炉床土破片。側部には小破面が取り巻き、外面は礫を含む炉床土が薄皮状に残る。滓の一部はマグネタイト化している。
136	第183図	1区	流出溝2-a	炉床土 (炉内流動滓付き・滓付き)	10.2	6.4	5.5	208	1	なし	平面形が異なる以外は前者とよく似た資料。内面全体を半流動状の滓が覆っており、一部に垂れも混在する。外面の中央部に炉床土の痕跡を残し、平面形は弧状となる。
137	第183図 PL125	1区	流出溝2-a	砂鉄焼結塊(含鉄)	3.3	2.0	3.1	17	3	H(○)	側部全体が破面となった小塊状の砂鉄焼結塊。厚さは2.2cmほどで、下部部には別単位の可能性が高い流動滓の破片が突出する。砂鉄焼結部は還元が進み、膨らみをもった粒子が目立つ。側部や肩部には浅い木炭痕も確認される。
138	第183図 PL125	1区	流出溝2-a	マグネタイト系遺物 (含鉄・砂鉄焼結塊付き)	4.2	3.4	2.3	51	2	H(○)	表面がイガイガした炉内滓に覆われたマグネタイト系遺物破片。側部は小破面が連続し、下面は小さな碗形を成す剥離面様。マグネタイト系の滓部分は芯部から外面にかけてとなる。
139	第183図 PL125	1区	流出溝2-a	マグネタイト系遺物 (含鉄・砂鉄焼結塊付き)	3.2	2.8	2.0	26	2	H(○)	表皮が青黒く、強く磁着するマグネタイト系遺物。表裏面には木炭痕が目立ち、左上には砂鉄焼結部も僅かに確認される。側部は不規則な破面となっており、一部が結晶の発達のためか青光りする。
140	第183図 PL125	1区	流出溝2-a	マグネタイト系遺物 (含鉄・砂鉄焼結塊付き)	7.7	4.5	2.3	134	3	H(○)	裏面に砂鉄焼結部を残すマグネタイト系遺物破片。内面全体がイガイガした状態で、下部部では垂れが生じ始めている。右側部から外面の一部は砂鉄焼結部で、焼結した砂鉄粒子が区別できる。粒径は最小で0.1mm大を測り、粒子はやや角ばっている。平面形はやや弧状で、炉壁のコーナー付近の表面に貼りついた状態で生成か。
141	第183図	1区	流出溝2-a	工具付着滓	2.7	2.2	0.8	7	1	なし	分析資料No.14 分析資料詳細観察表参照。
142	第183図 PL129	1区	流出溝2-a	工具付着滓	2.2	2.2	1.5	12	1	なし	上面に幅1.5cmほどの丸棒状の工具痕を残す工具付着滓小破片。下手側では厚みをもっており、約1.5cmに達する。外面はイガイガした半流動状で炉壁粉を噛み込む。工具の原形は鉄棒か。
143	第183図 PL126	1区	流出溝2-a	流出孔滓 (工具痕付き)	6.4	5.8	2.5	184	1	なし	全体が厚みをもった桶状となる工具痕付きの流出孔滓破片。上面には幅4cm以上の工具痕が残り、側部は不明瞭ながら破面主体となる。最大厚みは3cmほどで、下面全体が桶状ないしは碗形を示す。流動性の低い滓で、右側部だけに半流動状の滓が垂れ下がっている。流出孔中に詰まった状態の滓を取り除いたおりの資料か。
144	第183図 PL127	1区	流出溝2-a	流出孔～溝滓	7.2	3.6	2.2	65	1	なし	上面に流れ皺をもち、下面の中央部が丸棒状に突出する流出孔～溝滓。左右の側部が破面となっており、上面には別単位の滓が流れ始めている。下面中央の流動単位は径1.5cm大の丸棒状で、工具痕流入滓の可能性をもつ。また、側面から下面の表皮は炉壁粉に覆われる。
145	第183図 PL127	1区	流出溝2-a	流出孔～溝滓	9.0	3.8	2.2	102	1	なし	右方向に流動するきれいな流出孔～溝滓破片。左側部はシャープな破面で、右側の端部は破面が下手側に片寄りしている。上面の中央部をゆったりとした滓が流れて、右寄りでは上手側の側部に沿って流動した滓が上に乗った形で収束する。下面はやや扁平な丸棒状で、炉壁粉が面的に固着する。内部に気孔があるためか中空部が点在する。
146	第183図 PL127	1区	流出溝2-a	流出孔～溝滓	7.5	3.6	3.0	127	1	なし	上半部が重層した形の流出孔～溝滓。左右の側部が破面になっている。上半部は流れ皺の生じている滓で、先端部がやや上向きとなる。下半部はきれいな舟底状の突出部となっており、表面には炉壁粉が目立つ。上半部の滓の傾斜からみると、下半部の滓自体がやや強い傾斜をもっている可能性を窺わせる。
147	第183図 PL127	1区	流出溝2-a	流出孔～溝滓	8.6	5.8	3.5	164	1	なし	5cm前後の幅をもつ流出孔～溝滓。左半分は太い丸棒状で、右半分が扁平となる。上面が不規則な流動状態であるのに比べて、側部から下面はきれいな丸みをもった棒状となっている。下面には細かい炉壁粉が、上面にはやや粗い炉壁粉が固着する。左右の側部の破面には肥大した気孔あり。
148	第183図 PL127	1区	流出溝2-a	流出孔～溝滓	8.0	7.6	3.5	253	1	なし	幅8cmほどの桶状をした流出孔～溝滓。前者と同様、上面の滓には凹凸が目立つのに対して、側部から下面はきれいな舟底状となる。破面は左右の側部と左上側。滓質は緻密ながら気孔もまばらに残る。
149	第183図 PL127	1区	流出溝2-a	流出孔～溝滓	5.6	9.1	4.0	269	1	なし	上手側の端部に別単位と推定される径3cm大の丸棒状の滓を残す流出溝滓破片。上面下手側の2/3部分が流出溝滓で、厚さ3.7cm前後の扁平な滓となる。複数の流動単位が流動して、流れ皺も確認される。破面は左右の側部主体。
150	第183図	1区	流出溝2-a	流出溝滓	9.2	5.6	2.8	257	1	なし	幅広い流動単位が重層して、流れ皺の発達する流出溝滓破片。左右の側部が複数の破面となっている。側部から下面は全体的には舟底状となるが、滓単位が別のためか出入りが激しい。
151	第183図	1区	流出溝2-a	流出溝滓	13.7	9.2	4.7	687	1	なし	幅9cm程度に発達した大ぶりの流出溝滓破片。幅広い桶状で、破面は長軸両端部の小範囲。上面には半流動状の滓が一部重層する。また、内部のガスが抜けて亀裂も生じている。側部から下面は尖った舟底状で、右側部下半は収束気味とする。
152	第183図	1区	流出溝2-a	流出溝滓	11.1	8.85	5.4	616	1	なし	典型的な流出溝滓破片。上面の中央部を流れ皺を残す幅4cmほどの流動滓がゆったりと流れて、その両側部を別単位の流動滓が流動する。破面は長軸両端部と下手側の肩部となる。下半部の滓が主体で、側部から下面は幅広い舟底状となっている。上下の滓を合わせて全体厚みは5.5cm前後を測る。側部から下面には炉壁粉が密に固着している。破面の気孔は全体に肥大して、一見、蜂の巣状となる。
153	第183図	1区	流出溝2-a	流出溝滓	12.7	8.6	4.9	687	1	なし	分析資料No.15 分析資料詳細観察表参照。
154	第183図 PL128	1区	流出溝2-a	流出溝滓	15.5	13.4	5.05	1914	1	なし	本遺跡では数少ない扁平盤状の大型の流出溝滓。側部のごく一部を除いて全局が破面となっており、幅広い流出溝底、または地面に流出したものと同定される。上面は2～3cm幅の流動単位が乱れたS字状に流れて、流れ皺も僅かに生じている。破面の密度は高いが、中層上部に横方向に伸びた気孔が点々と残されている。下面は僅かに左上側が突出する程度の浅い舟底状で、2cm大以下の炉壁粉や炉床土が面的に固着する。特に炉床土が右半分には目立つ。

表78 製鉄関連遺物観察表(11)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
155	第183図 PL.129	1区	流出溝2-a	流動滓	4.7	0.95	0.8	11	1	なし	長軸の両端部が破面となった単位流動滓様の流動滓破片。上手側がねじれたように太くなっており、下面には点々と炉壁粉の圧痕を残す。
156	第183図 PL.129	1区	流出溝2-a	流動滓	2.7	7.7	1.7	42	1	なし	やや扁平になりつつある流動滓の先端部破片。破面は上手側と右側部下半のみ。中間部分がやや扁平に広がり、下手側の端部が瘤状となる。下面には1cm大以下の木炭痕が目立ち、比較的、流出孔に近い傾斜面を流動したもののか。
157	第183図	1区	流出溝2-a	炉内滓	3.6	6.5	4.5	142	1	なし	下面に薄皮状の炉床土を残す炉内滓破片。側部は連続的な破面に囲まれており、破面数は9を数える。炉底塊下半部の破片の可能性大。滓質は緻密で結晶もやや発達気味。
158	第183図 PL.129	1区	流出溝2-a	炉内滓(含鉄)	10.2	6.5	5.5	260	2	H(○)	全体が茶褐色の酸化土砂に覆われた不定形塊状の炉内滓破片。上下に重層したような外観を示し、左側部下半には砂鉄焼結部が顔を出している。下面には1.5cm大以下の木炭痕が連続し、滓化の程度はやや弱い。酸化土砂のために破面等は不明瞭ながら、側部が破面になる可能性大。性格的には砂鉄焼結部に近い炉底塊の上付近の破片か。
159	第184図	1区	流出溝2-a	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き・ 工具痕付き)	12.3	13.4	6.1	1332	2	なし	平面、不整多角形をした厚さ6cmほどの炉底塊破片。上面は全体が半流動状となっており、不規則な皺が目立つ。左右の側部は部分的に破面になる。上手側の側部下半は本来の炉底塊側部のためか滓が途切れて、肩部から垂れている。また下半には流動滓部分が表面を覆っている。左上手側の側部は斜め直線状に途切れており、何らかの人為による可能性もあり。それと接するように左中央の肩部には幅1.7cmほどの工具痕が残されている。下面はほぼ平坦で、炉床土とみられる礫混じりの土が広がる。右側部は滓が乱れて、中間層にやや隙間あり。滓質は全体的には緻密。
160	第184図	1区	流出溝2-a	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	13.2	18.0	7.1	2274	1	なし	左右の側部と上手側の側部がシャープな破面となった炉底塊の長軸端部寄り破片。上面は木炭痕を残す緩やかな波状で、左下手側には表皮が暗紫紅色の流動単位が確認される。下面から左側部は大きな碗形で、表面には礫や炉壁粉を含む炉床土が面的に残る。左側の破面は緻密な滓質で、気孔が上層のみに認められる。
161	第184図	1区	流出溝2-a	炉底塊 (炉壁付き・炉床土付き・ 炉内流動滓付き・再結合滓付き・ 工具痕付き)	13.0	16.5	19.0	4128	3	なし	上面の左下手側を中心に礫を含む酸化土砂が乗っている炉底塊破片。右側部上半には幅3.7cmを超える大型の工具痕が残されている。工具痕は丸棒状で、表皮には砂鉄焼結部が面を成して広がる。左側部と下面は中小の木炭痕により出入りの激しい状態で、特に左側部では大きく張り出している。上手側の端部は分厚い酸化土砂層とみられる。正位の分りにくい資料で、左側へ90度回転方向が正位の可能性も残される。その場合、工具痕は炉底塊上面に残ることになる。下手側の側部中段には前屈したような炉壁端部が認められる。工具痕周辺の砂鉄粒子は径0.1mm大前後で、一部は剥がれ落ちるほど焼結は弱い。炉底塊上面に太い丸棒状の工具痕を残す資料は、テラス1製鉄炉の炉底塊～溝滓のセットとした構成No.62の一部にも目立っている。
162	第184図	1区	流出溝2-a	再結合滓	8.5	6.4	5.5	247	1	なし	酸化土砂に覆われた流動滓破片主体の再結合滓。各滓片はもとの上下方向を保っておらず、ばらばらな状態となっている。木炭痕を残す破片や流れ皺をもつ平滑な滓も散見される。
163		1区	流出溝2-a	木炭	-	-	-	12	1	なし	炭化材、または焼損の進んだ木炭様資料。流出溝2-bからの出土品で、目立って軟質に見える。炭化も不良で、表皮の一部は木質に近い。地下構造物中の炭化材、あるいは炉体の空焼時の炭化物であろうか。
164	第184図	1区	流出溝2-a	被熱石(錆付き)	29.2	21.7	14.7	11120	1	なし	左側部と上手側の側部から肩部にかけてが破面となった、厚さ13cm前後の被熱石破片。上下面はほぼ平坦で、厚みは右方向に僅かに薄くなっている。被熱部分は上面に2カ所で、灰褐色にくすんでいる。下面側の表皮も薄く赤化しているようにも見えるが、下手側の側部には火山性の岩石特有の赤化部分もあり明瞭とはいえない。吸炭気味の部分は上手右側の側面にも確認される。打痕や低痕は認められず、上面やや右上手に二次的な酸化土砂が貼り付いている。石材の用途は不明。
165	第185図	1区	流出溝1	炉壁 (横方向接合痕付き・ 外面整形痕付き・木舞孔付き)	11.0	11.0	8.8	474	1	なし	内面上部が暗紫紅色に滓化して、粘土質の垂れが生じている炉壁破片。裏面右側には外面が吸炭した炉壁土が残り、2片が接合されている。炉壁自体の最大厚みは8cm前後を測る。裏面の吸炭部分の下端部に径1cm前後の小穴が確認され、木舞孔の可能性も残る。ただし、径がやや小さな点や方向が他の木舞孔例とは異なり、炉壁の内外を斜めに貫通する方向ため、スサ痕かもしれない。側部は全周が破面で、胎土中のスサ痕が乱雑に露出する。
166	第185図	1区	流出溝1	炉壁(含鉄・砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	8.0	7.5	4.5	247	2	H(○)	内面に砂鉄焼結部とマグネタイト気味の滓層が生成し始めている炉壁破片。側部から外面は全面が破面となっている。内面の滓化部分は縮輪状で細かい凹凸を生じている。磁着も強め。焼結した砂鉄の粒径は0.1mm大がベース。
167	第185図	1区	流出溝1	炉壁 (含鉄・滓付き)	8.1	6.0	5.8	248	2	H(○)	表層が厚さ4cm以上の厚みで滓化した炉壁破片。滓化部分は粘土質で、裏面の一部に炉壁土が僅かに認められる。表面全体が酸化土砂に覆われて不明点が多いが、内面の上端部付近には含鉄部があり、僅かに磁着する。
168	第185図	1区	流出溝1	炉壁 (コーナー部・木舞孔付き)	3.7	4.8	2.2	20	1	なし	内面に幅2.8cm以上の浅い極状をした、上下に伸びる木舞孔の痕跡を残す炉壁小破片。木舞そのものが焼失したためか、表皮の一部が滓化して全体が暗紫紅色気味となる。側部から外面は破面となっており、スサ痕が目立つ。
169	第185図	1区	流出溝1	炉壁 (コーナー部・糞巻痕付き)	3.6	4.5	3.0	27	1	なし	内面の中央部に幅1cmほどの細いスマキ痕を残す炉壁小破片。内面の滓化は弱く、僅かに発泡している。側部から外面は破面。
170	第185図	1区	流出溝1	炉床土 (炉壁付き・炉内流動滓付き・ 工具痕付き)	27.0	15.0	10.0	2586	1	なし	下面左下の部分に3単位の工具痕を残す炉床土破片。内面上手側の端部は上下2段となっており、左上端部には横向きのスサ痕が残る炉壁基部が認められる。したがって、炉床土そのものは炉壁基部直下の大型破片とみられる。炉壁土に接する内面には炉壁溶解物が瘤状に広がり、残る炉床土の表面は厚さ4～6cmもの滓や炉壁溶解物の混在層となっている。側部は基本的に破面で、下面の上手側には細かい炉壁粉が表面に固着する炉床土が広がり、下手側は表層が脱落している。工具痕の位置と角度から、滓に覆われて固化した炉床土そのものを剥ぎ取るような意図が窺える。また、もしそうだとすれば、炉床が完全に冷えきらない段階で取り外す意図があることになる。ある程度操作した後の、炉床の貼り替えに関連したもののか。
171	第186図	1区	流出溝1	流出孔～溝滓	2.75	3.0	1.1	25	1	なし	上面に流れ皺を残す流出孔～溝滓の小破片。幅は3cm程度で、上面表皮の暗紫紅色や浅い舟底状の下面に残る炉壁粉の圧痕からみて、流出孔滓の可能性が高めか。左右の側部のみが破面となる。

表79 製鉄関連遺物観察表(12)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
172	第186図	1区	流出溝1	流出孔～溝滓	3.8	2.2	1.3	17	1	なし	前者より一回り厚い流出孔～溝滓破片。上面には流れ皺をもつ2単位の流動単位が重層している。左右の側部はシャープな破面で、側部から下面は小さな舟底状となる。
173	第186図 PL.128	1区	流出溝1	流出溝滓	13.0	6.0	2.8	224	1	なし	右方向に向かって収束する流出溝滓破片。左側には複数単位の流動単位が重層しており、中間には90度方向が変わった滓片が巻き込まれている。また、その右上手側の端部は幅1.7cmほどで、流動しながら先端部が収束する。破面は左側部と下手側の小範囲で、下面は長手の舟底状となる。
174	第186図	1区	流出溝1	流出溝滓	9.9	6.7	2.7	314	1	なし	分析資料№16 分析資料詳細観察表参照。
175	第186図	1区	流出溝1	流出溝滓	7.0	7.7	6.0	459	1	なし	上下面ともに乱れが目立つ中太の流出溝滓破片。上面の滓は重層気味で、水平方向の角度がずれている。これと連動するように、短軸方向の断面形並びに側部から底面が複雑な状態を示す。側部を中心に凹凸が激しく、また炉壁粉を多量に噛み込んでいる。破面は左右の側部のみ。
176	第186図	1区	流出溝1	炉内滓(含鉄)	3.3	4.0	3.1	35	2	H(○)	酸化土砂に覆われた含鉄の炉内滓。上手側の側部には礫を噛み込んでいる。酸化土砂は濃茶褐色で、芯部の含鉄部の影響を受けている可能性が高い。酸化土砂中には粉炭を多量に含む。
177	第186図	1区	流出溝1	炉内滓(含鉄)	7.4	5.2	3.8	169	2	H(○)	前者をさらに大きくしたような、一見、再結合滓様の炉内滓破片。全体が炉壁粉混じり酸化土砂に覆われており、下面の一部に木炭灰がやや大きめの滓部が露出する。表面の酸化土砂中には炉壁片や滓片も含まれている。
178		1区	流出溝1	木炭	-	-	-	1	1	なし	流出溝1出土の木炭片1点。径6cmほどの枝材で、年輪数も2本程度しか読み取れない。炭化はほぼ良好。表面には土砂が残る。
179	第187図 PL.119	1区	テラス1	炉壁 (長軸側・コーナー部・ 上段(上半)・頂部寄り・酸化色)	7.3	6.8	4.4	145	1	なし	内面が僅かに発泡した程度の被熱の弱い炉壁破片。内面表皮にもスサ痕が露出する。下面は平坦気味に透切れて、粘土単位の接合部の可能性をもつ。残る側部3面から外面は破面となる。
180	第187図 PL.119	1区	テラス1	炉壁 (長軸側・上段(上半)・ 頂部寄り・酸化色)	5.3	5.45	5.1	90	1	なし	内面が薄皮状に発泡した被熱の弱い炉壁破片。内面表皮に横方向のスサ痕が露出する。上端部が僅かに水平気味となっているが、接合部かどうかは不明。残る側部から外面は破面となる。
181	第187図 PL.119	1区	テラス1	炉壁 (長軸側・上段(下半)・ 簧巻痕付き・砂鉄焼結付き)	6.3	6.2	3.5	119	2	なし	内面に層状に砂鉄が焼結した炉壁破片。加えて、地の部分に上下方向を向くスサ痕2条が残されているためか、砂鉄層の表面自体がスサ痕に対応して浅く窪んでいる。スサ痕の幅は1.5cm前後か、炉壁の側部から外面は全面破面となる。胎土中にはスサを混じえて、粘土中の鉄分が反応したためか微細な斑点状の滓化部分あり。砂鉄粒子は0.1mm大前後をベースにやや膨らんでいるものが目立つ。
182	第187図 PL.120	1区	テラス1	炉壁 (上段(下半)・横方向接合痕付 き・木舞孔付き?・砂鉄焼結 付き)	15.8	12.2	10.0	1395	1	なし	内面上部に薄皮状の砂鉄焼結部を残す大型の炉壁破片。上下の端部が水平方向に透切れており、粘土単位の接合部を反映している可能性が高い。高さは約8cmとみられる。上面では炉壁内面沿いのみ生きており、地の部分は表層が剥落する。残る側部は破面となる。外面中段に棚状に残る表面については生きている可能性も残る。厚みは10cm前後を測る。炉壁内面は発泡から粘土単位の隙間に回り込むように細い滓が伸びている。下面左側奥に径1cm強の木舞孔様の中空部が露出するが、長さが2、3cmと途中で止まっており、はっきりしない。方向は上下方向に伸びる。なお、この木舞孔様の部分が生きるとすれば、本来の炉壁はさらに厚くなると予想される。資料的には本遺跡の箱形炉の上段下半を代表する良好な資料といえる。
183	第187図	1区	テラス1	炉壁 (長軸側・中段(下半)・ 木舞孔付き・滓化弱)	6.9	9.8	7.0	262	2	なし	内面が青黒く滓化して、小さな垂れが生じ始めている炉壁破片。下端部は粘土質単位の接合部で、横方向に透切れている。残る側部3面と裏面が破面となる。胎土中にはスサ痕を混じえて、細かいひび割れが目立つ。
184	第187図 PL.119	1区	テラス1	炉壁 (中段(上半)・ 簧巻痕付き?・滓化弱)	9.55	11.9	6.2	554	1	なし	内面の中央部が浅いスサ痕様に窪んだ炉壁破片。内面の滓化は弱く、スサ痕などに影響されて乱雑に滓化している。側部全体と外面表皮は破面と推定される。胎土中のスサ量の多さと細かいひび割れが目立つ。
185	第187図 PL.120	1区	テラス1	炉壁 (長軸側・中段(下半)・ 通風孔上・滓化強)	13.5	8.0	7.0	568	1	なし	内面の滓化が進んで、短い垂れが数多く生じている炉壁破片。表面全体がイガイガした印象を受ける。下端部は水平に透切れた粘土単位の接合部様。残る側部3面と裏面が破面とみられる。よく焼け締まった炉の中段を代表する炉壁片である。
186	第187図	1区	テラス1	炉壁 (中段(下半)・通風孔上・ 横方向接合痕付き・滓化強)	6.8	5.4	7.5	198	2	H(○)	内面が薄く滓化して、僅かに垂れ気味のマグネタイト系の滓に覆われている炉壁破片。右側の下端部の表皮は一部滓化しているが、ひび割れからの被熱による熱変化とみられる。残る側部から外面は全面破面。
187	第187図	1区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 通風孔1孔付き・基部接合痕付 き・滓付き)	8.0	12.7	7.0	636	1	なし	下手側の側部が平坦に整えられた炉壁基部破片。通風孔部そのものは残っていないが、通風孔直下の炉壁片と推定される。上面から側部は全面破面となる。外面は平坦気味に透切れているが、表層が剥落している可能性あり。内面は通風孔部下が溶損して、基部側ですそががりになっている。
188	第187図 PL.122	1区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 基部接合痕付き・滓付き)	5.4	8.3	5.2	266	2	錆化(△)	不明瞭ながら、下手側の側部が平坦に透切れた炉壁基部破片。内面は粘土質の滓が垂れ落ちて凹凸が目立つ。炉壁全体が滓化しているためか、側部や外面と似た滓化状態を示す。不明瞭な破面は左右の側部のみ。
189	第187図	1区	テラス1	炉壁 (コーナー部・上段(上半)・ 頂部寄り・横方向接合痕付き・ 酸化色)	6.5	4.0	3.8	70	1	なし	内面表皮が表層のみ剥落して、肩部にくすんだ褐色の被熱を残す炉壁破片。側部から外面は破面となっており、一見、粘土塊様に見える。
190	第187図 PL.120	1区	テラス1	炉壁 (コーナー部・上段(下半)・ 簧巻痕付き?・砂鉄焼結付き)	7.5	7.0	6.4	199	1	なし	内面の左側端部にスサ痕とみられる上下方向の窪みを残す炉壁破片。内面は発泡状態で、側部から外面は全周が破面となる。僅かに表面に砂鉄が焼結する。炉壁コーナー部破片のためかスサ痕は通常より太く、一見、木舞孔様となる。
191	第187図	1区	テラス1	炉壁 (コーナー部・中段(上半)・ 簧巻痕付き?・滓化弱)	6.7	8.8	4.6	196	1	なし	内面表皮が僅かに滓化し始めている炉壁破片。側部から外面は全面破面でスサ痕が露出する。内面にごく浅いナデ痕または、スサ痕様の窪みを残す。方向的にはナデ痕の可能性が高いかもしれない。
192	第187図	1区	テラス1	炉壁 (コーナー部・中段(下半)・ 通風孔上・滓化強)	6.2	7.3	6.0	195	2	なし	下手側の側部が粘土単位の接合部様に透切れた炉壁破片。内面は上方から粘土質溶解物が次々と落下して、不規則な瘤状となっている。側部3面と外面は破面となる。炉壁基部破片の可能性もやや残る。
193	第187図	1区	テラス1	炉壁 (コーナー部・下段(上半)・ 通風孔付き)	10.7	8.8	6.1	530	1	なし	平面形が強い弧状をした炉壁破片。内面は滓化・溶損が進み、左下半部では粘土質の垂れが複数重層する。側部は全周にわたり破面となる。外面は色調からみ表層が脱落している可能性大。
194	第187図	1区	テラス1	炉床土 (炉内流動滓付き・滓付き)	12.0	17.0	4.2	795	1	H(○)	内面の表層が半流動状の粘土質の滓や小単位の流動滓に覆われた炉床土破片。外側部は全周が破面で、外面には炉壁粉を含む濃茶褐色の炉床土が面を成す。内面左下手側の滓部分は炉内流動滓様となる。

表80 製鉄関連遺物観察表(13)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
195	第188図	1区	テラス1	炉壁 (コーナー部・簧巻痕付き)	4.6	6.0	3.0	45	2	なし	内面の中央部に上下方向に伸びる幅2cm以上のスマキ痕を残す炉壁小破片。スマキ痕の壁面も含めて表皮の全体が発泡気味。側部から外面は全面破面。
196	第188図	1区	テラス1	炉壁 (コーナー部・簧巻痕付き・ 砂鉄焼結付き)	5.0	5.0	3.5	64	1	なし	前者と同様、内面の中央部に上下方向に伸びるスマキ痕を残す炉壁小破片。表皮は全体に発泡気味で、右上部の破面には砂鉄が焼結する。スマキ痕の幅は2.3cm前後を測る。側部から外面は破面となる。
197	第188図	1区	テラス1	炉壁(簧巻痕付き)	4.3	5.2	4.3	59	2	なし	内面に上下方向に伸びる2単位のスマキ痕を残す炉壁小破片。左側のスマキ痕は壁面の一部のみで、現状で幅は1.2cm程度を測る。右側のスマキ痕はほぼ完存しており、最大幅2.5cmを測る。側部から外面は破面。
198	第188図	1区	テラス1	炉壁(簧巻痕付き)	7.5	5.5	3.0	103	2	錆化(△)	内面に上下方向に伸びるスマキ痕を3単位残している炉壁破片。中央のスマキ痕は幅が分り左右のスマキ痕は半欠となる。中央のスマキ痕の幅は2.3cm前後。炉壁内面は薄皮状に溶化して、表皮の脱落部はスポンジ状に発泡する。左上から粘土質の滓が垂れている。側部から外面は破面で、胎土中のスサはまばら。
199	第188図	1区	テラス1	炉壁 (含鉄・砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	16.0	8.5	7.0	709	2	H(○)	内面的上段寄りに砂鉄焼結部を残す上下に長い炉壁破片。中間の部分は表層が溶化して、中段以下は溶損が進む。内面の上半部には上下方向の窪みがあり、滓に覆われているが、スマキ痕の可能性大。幅は2.0~2.7cmほどを測る。焼結した砂鉄部分は還元して粒子が影らんでいる。側部から外面は破面となる。上部を基準とすれば、内面下半がかなり強く溶損していることになる。
200	第188図	1区	テラス1	炉壁 (含鉄・滓付き)	13.7	14.9	7.7	1251	1	特L(☆)	分析資料№17 分析資料詳細観察表参照。
201	第188図 PL.125	1区	テラス1	炉床土 (炉内流動滓付き・滓付き)	27.2	11.2	7.2	1730	1	なし	左右に長手の炉床土の肩部破片。内面には炉壁溶解物主体の付着物が重層して、部分的に大きく盛り上がっている。また、上手側の肩部に沿ってまとまった滓部が左右方向に伸びて炉内流動滓様となる。外面は炉壁粉を混じえた褐色基調の炉床土で、下面下手側では表層が欠落して、粘土質またはガラス質の滓が露出する。下面の右寄りには含鉄部が小範囲に生成され、錆影れが盛り上がっている。
202	第188図	1区	テラス1	炉床土 (横方向接合痕付き・含鉄・ 炉内流動滓付き・滓付き)	10.8	17.5	4.6	1030	2	L(●)	基本的には前者と似た炉床土の肩部寄り破片。内面が不規則な粘土質の滓に覆われており、細かい木炭痕も目立つ。また右上手側を中心に炉壁粉に覆われている。この炉壁土については落下して固着したのか、補修のためかは不明。色調は被熱の弱い明褐色。炉床土は側部全周が破面で、下面には炉床土特有の土が露出する。
203	第188図 PL.125	1区	テラス1	砂鉄焼結塊 (含鉄)	4.2	3.4	1.8	25	2	H(○)	側部全周が破面となった不定形板状の砂鉄焼結塊。外面はやや面が乱れており、炉壁表面からの剥離面の可能性を残す。また、短軸側の両側部は木炭痕による圧痕とみられる。砂鉄粒子の粒径は0.1mm大前後をベースに、やや還元が進んでいる状態を示す。砂鉄粒子は比較的均質で、細かいがよく揃っている。
204	第188図 PL.125	1区	テラス1	砂鉄焼結塊 (含鉄)	4.2	2.8	2	30	2	H(○)	基本的には前者と同様、小さいながらも板状の砂鉄焼結塊破片。側部は全周が破面で外面は剥離面様。内面右側には木炭痕が明瞭に残る。還元程度は前者より進み、部分的に溶化している。
205	第188図 PL.125	1区	テラス1	マグネタイト系遺物 (砂鉄焼結付き)	2.2	3.95	1.5	14	2	なし	左側部から下手側の側部が破面となった、マグネタイト系遺物の小破片。上面は平坦気味で、右側部は窪んでいる。また、この側部表面には滓の母体となった砂鉄粒子が点々と固着する。滓は磁着が強く、破面は青光りしている。
206	第188図 PL.126	1区	テラス1	流出孔滓	4.4	6.5	2.4	154	1	なし	左右の側部がシャープな破面となった幅6.5cm強の流出孔滓破片。上面の7割方の表皮が剥落して、直下の滓表面が露出する。短軸方向の断面形は扁平な楕円形で、表面には炉壁粉が面を成す。滓質は緻密で上層のみに気孔が残る。
207	第188図	1区	テラス1	流出孔滓	4.9	6.3	4.1	169	1	なし	左右の側部と上面がシャープな破面となった流出孔滓破片。短軸方向の断面形は前者と同じで、下半部は丸みをもった舟底状となる。この下半部の最大幅は5cm前後。短軸側の両側部では別の流動単位が外側に張り出している。
208	第188図	1区	テラス1	流出孔~溝滓	5.9	2.2	0.8	10	1	なし	一見、工具付着滓のような薄い楕状の外観をもつ流出孔~溝滓。工具付着滓との違いは、楕状の内面表皮も流動状の滓に覆われている点で、僅かに流れ皺をもつ。破面は左右の側部と右上手側の肩部。滓の主体が流れ出した後に、流出孔底で生成されたものと予想される。
209	第188図 PL.119	1区	テラス1	流出孔~溝滓	5.45	2.25	2.0	35	1	なし	幅2.2cmほどの扁平塊状の流出孔~溝滓。左側部のみが小破面で、右側の端部は丸みをもって収束する。下面は平坦気味で、影らみをもった上面や側部には炉壁粉が点在する。
210	第188図	1区	テラス1	流出孔~溝滓	3.1	4.0	2.0	41	1	なし	左右の側部が破面となった流出孔~溝滓の小破片。上面はやや乱れて表皮の脱落部も認められるが、短軸側の側部から下面は丸みをもった棒状となる。破面に気孔がやや目立ち、流出孔滓の可能性がやや強めか。
211	第188図	1区	テラス1	流出孔~溝滓	8.3	4.4	1.0	93	1	なし	幅1~2cmの流動単位が寄り添うように重層した流出孔~溝滓。全体に緩やかなS字状に流れており、左下手側の側部が主破面となる。左右の側部にも小破面あり。上面の一部は暗紫紅色で流れ皺が目立つ。側部から下面は浅い舟底状で、炉壁粉の圧痕主体。どちらかと言えば流出溝滓の可能性が高い。
212	第188図	1区	テラス1	流出孔~溝滓	9.0	8.8	6.1	696	1	なし	分析資料№18 分析資料詳細観察表参照。
213	第188図	1区	テラス1	流出溝滓	5.7	5.5	2.3	112	1	なし	上面に強い流れ皺をもつ扁平な流出溝滓破片。左右の側部が主破面で、上手右寄りにも小破面あり。下面は平坦気味で、炉壁粉の圧痕により変形する。
214	第188図	1区	テラス1	流出溝滓	5.5	5.5	2.8	133	1	なし	2~3cm幅の流動単位が重層した流出溝滓破片。左右の側部が主破面で、破面には大きな気孔あり。下面は浅い舟底状で、炉壁粉が点々と固着する。
215	第188図	1区	テラス1	流出溝滓	9.1	6.9	3.2	277	1	なし	7cm近い幅をもつ流出溝滓の先端部寄り破片。左側の側部が主破面で、残る側部3面の一部が小破面となる。右方向に向かい薄くなる形態の溝滓で、上面左側の端部のみ流出孔滓様。また、下面全体はごく浅い舟底状で、灰褐色基調の炉壁粉が固着する。
216	第188図	1区	テラス1	炉底塊	10.7	9.3	6.1	328	1	なし	上手側の側部を中心に酸化土砂に覆われた炉底塊破片。上面から左右の側部に加えて、上手側の側部も破面となる。破面には4cm以下の木炭痕が連続している。また内部にも木炭痕が広がり、密度の低い滓となる。上手側の側部は緩やかな丸みをもった自然面で、一部に砂鉄が焼結する。

表81 製鉄関連遺物観察表(14)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
217	第188図	1区	テラス1	炉底塊 (炉床土付き)	8.0	8.0	8.0	886	1	なし	側部4面がシャープな破面に囲まれた緻密な炉底塊破片。上面はかろうじて生きており、緩やかな弧状となる。下面は舟底状で炉壁粉が固着する。滓質は緻密で気孔が部分的に肥大する。
218	第188図	1区	テラス1	炉底塊 (含鉄)	10.6	11.6	6.6	923	1	H(○)	全体が酸化土砂に覆われた含鉄の炉底塊破片。上下面が生きており、左右の側部から上手側の側部が破面の可能性をもつ。上面の酸化土砂の一部に錆跡や黒錆が目立ち、下面には炉床土とみられる褐色土が広く固着する。下手側の側部は厚さ3cm強の盤状。平面形からみて炉床塊のコーナー部付近か。含鉄部は上面表皮寄りに散在。
219	第188図	1区	テラス1	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	2.8	4.9	1.2	24	2	H(○)	錆色と半流動状のマグネタイト系の滓部が混在する炉内滓小破片。左側部と上手側の側部が破面で、右側部は木炭痕主体。マグネタイト系の滓部の一部が小範囲でメタル化する。
220	第188図 PL.129	1区	テラス1	炉内滓(含鉄)	6.2	4.0	3.5	100	2	H(○)	表面が厚い酸化土砂に覆われた、厚さ4cmほどの含鉄の炉内滓。上面は僅かに窪み、肩部を中心に錆跡が認められる。下面に突出する瘤状の部分はいずれも酸化土砂から成る。含鉄部の主体は上面寄りに散在か。
221	第189図	1区	テラス1	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き・ 砂鉄焼結付き)	8.6	5.3	4.3	270	3	H(○)	分析資料No19 分析資料詳細観察表参照。
222	第189図	1区	テラス1	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	4.6	2.7	2.0	30	3	錆化(△)	小塊状の再結合滓破片。表面は炉壁粉や砂鉄焼結部に覆われている。小さい割りには比重が高いことから、芯部には滓片が含まれている可能性あり。
223	第189図 PL.133	1区	テラス1	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	9.15	10.0	4.4	297	2	錆化(△)	厚さ5cmほどの不定形盤状の再結合滓破片。側部には基本的に破面が連続し、上面の8割方も破面の可能性をもつ。破面には炉壁粉や砂鉄焼結部に加えて、細かい木炭痕による中空部が無数に見られる。下面は浅い舟底状で、炉壁粉がやや多めに固着する。浅い土坑または溝底で形成された可能性もあり。
224	第189図 PL.133	1区	テラス1	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	6.9	9.3	5.5	282	2	H(○)	前者よりさらに下面の炉壁粉が目立つ再結合滓破片。下面に固着するのは炉床土も加わっている。上面から左右の側部に加えて、下手側の側部も破面となる。また、木炭痕とみられる中空部がやや目立つ。下面は浅い舟底状。
225	第189図 PL.133	1区	テラス1	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	8.5	9.8	3.4	219	3	H(○)	扁平盤状をした砂鉄焼結部主体の再結合滓。上面全体と側部上半が破面となっており、下面には炉壁粉が目立って固着する。上面の砂鉄焼結部には大小の木炭痕が残り、最も大きいものは長さ4.5cmを測る。砂鉄粒子には被熱して丸みをもったものと、生砂鉄とみられる多面体で角ばったものの両者が混在する。砂鉄の粒度は最小で0.1mm大。構成No.222-227とした再結合滓の中では、内部の炉壁粉が少なく、最も砂鉄の量が多い資料である。下面は土坑底に接したためか浅い舟底状。
226	第189図	1区	テラス1	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	7.0	14	5.0	452	3	H(○)	下面に炉床土や軽石を多量に固着する再結合滓破片。側部4面が破面で、上面の左上側も破面の可能性をもつ。細かい炉壁粉と砂鉄焼結部主体で、3cm大以下の木炭痕もやや目立つ。下面の状態は構成No.227と似る。
227	第189図 PL.133	1区	テラス1	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	10.7	7.6	4.0	509	2	H(○)	下面にやや分厚く、軽石や炉床土様の付着物が固着する再結合滓破片。左右の側部の一部が明瞭な破面で、上手側の側部には木炭痕が目立つ。短軸方向の断面形は浅い瘤状で、左上側がせり上がっている。土坑等の肩部寄りで生成されたものか。上面自体は生きている可能性大。
228	-	1区	テラス1	木炭	-	-	-	29	1	なし	テラス1の床直、貼床内、埋土中、あるいはテラス1上部の表土中などから出土した木炭5サンプル。しっかりとした木炭は貼床内出土品に加えて、南壁拡張区(製鉄炉を一部壊している攪乱穴)から出土した小袋の一部で、床直からの出土品は表面の焼損が進み、細かくなっている。埋土中出土の木炭も一部に焼損が認められる。他方、南壁拡張区とされた内の1片は炭化材様で、軟質に見える。貼床内の木炭は流出溝2-bや排滓場1出土の木炭とやや共通点を持ち、炭化の良好な硬質な木炭で、いずれも3cm大以下の小破片となる。したがって、SS1出土の木炭には性質の異なる3種の木炭が含まれていることになる。材には枝材とミカン割りの樹幹材が含まれている。
229	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・上段(上半)・頂部寄り・ 簧巻き痕付き・酸化色)	4.7	4.0	2.3	35	1	なし	内面に上下方向を向く2本のスマキ痕を残す炉壁小破片。側部から外面は破面となる。スマキ痕はいずれも幅が完存しない。左側のスマキ痕は現状で幅8cmを測る。炉壁表面の一部に僅かながら砂鉄が焼結する。
230	第190図 PL.119	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・上段(上半)・頂部寄り・ 簧巻き痕付き・酸化色)	4.7	4.9	3.6	36	1	なし	内面右側に上下方向に伸びるスマキ痕が明瞭に残されている炉壁破片。スマキ痕の幅は2cm強とみられる。なお、上塗りされているためか6mmほど奥に別単位の別のスマキ痕が顔を出している。側部から外面は全面破面。
231	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・上段(下半)・ 砂鉄焼結付き)	2.6	2.7	2.2	14	2	なし	内面表皮に厚さ2mmほどの砂鉄焼結部を残す炉壁小破片。側部から外面は破面。砂鉄粒子は0.1mm大をベースに大半が還元して膨らみをもっている。
232	第190図 PL.119	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・上段(下半)・ 簧巻き痕付き・砂鉄焼結付き)	4.5	5.1	3.4	50	2	なし	内面右側に上下方向に伸びるスマキ痕の一部が残る炉壁小破片。スマキ痕は現状で1.8cm程度の幅をもつ。炉壁内面全体の色調は暗紫紅色気味。側部から外面は破面となる。
233	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(上半)・ 横方向接合痕付き・滓化弱)	6.5	7.0	4.0	140	1	なし	内面表皮が僅かに滓化が始まり、短い粘土質の垂れが散在する炉壁破片。下面の一部は斜め方向に向かう接合痕様の平坦面を成す。残る側部から外面は破面。内面の下端部から粘土単位の接合部にかけては部分的に砂鉄焼結部となる。微細な流動化した滓部は僅かに磁着し、砂鉄焼結部由来か。
234	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(上半)・ 滓化弱・砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	7.0	6.0	4.0	130	1	なし	内面が前者と似た、滓化が始まった程度の炉壁破片。表皮の色調が青黒く、かつ光沢をもつ。磁着も部分的に強く、砂鉄焼結部がマグネタイト化しているものとみられる。左上の部分はまた砂鉄焼結部に近い。側部から外面は破面となる。
235	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(上半)・ 滓化弱・マグネタイト系滓付き)	6.8	6.0	4.3	164	2	なし	平面形が大きく「へ」の字状に折れ曲がった炉壁破片。また、下面は水平に途切れた粘土単位の接合部となる。炉壁コーナー部破片の可能性あり。内面は砂鉄焼結部から還元が進んで、マグネタイト系の滓が短い垂れとなり始めている。側部3面が破面で、外面にはひび割れからの被熱が広がる。
236	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(上半)・滓化弱)	9.3	10.1	8.2	510	1	なし	内面が滓化してマグネタイト系の細いつららの垂れが目立つ炉壁破片。内面が全体に青黒い色調となる。側部から外面は破面になり、上端部のみ粘土単位の接合部のためか水平方向に途切れている。粘土の練りが甘く、内面からのひび割れが発達する。

表82 製鉄関連遺物観察表(15)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
237	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(下半)・ 通風孔上・横方向接合痕付き・ 含鉄・滓化強)	8.8	7.8	7.0	334	2	錆化(△)	下手側の側部が平坦に途切れた粘土単位の接合部となる炉壁破片。平坦面にはスサ痕が密に並ぶ。上手側の側部も平坦面。残る左右の側部から外面は破面となる。炉壁内面は粘土質主体の垂れが生じ始めている。
238	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(下半)・ 通風孔上・含鉄・滓化強)	7.5	7.6	2.8	208	2	錆化(△)	内面がやや強く滓化して、粘土質溶解物とマグネタイト系の滓部が混在する炉壁表面破片。側部から外面は全面破面。スサ痕は横方向で、ある程度は粘土単位を意識したもののか。
239	第190図 PL.120	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(下半)・ 通風孔上・滓化強)	8.5	8.05	7.15	382	1	なし	内面が青黒色から暗紫紅色となり、粘土質の垂れが複数認められる炉壁破片。下端部では垂れが2cmにも達する。側部から外面は破面となる。
240	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段(下半)・通風孔上・ 横方向接合痕付き・滓化強)	7.5	8.5	4.5	394	1	なし	内面に粘土質の垂れや溶損が認められる炉壁破片。上端部は粘土単位の接合部で、残る側部から外面が破面となる。他の炉壁でも同じ傾向をもつが、接合痕の平坦面がいずれも前傾している。
241	第190図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	3.0	4.6	1.7	23	2	なし	下面に通風孔部の天井部の一部を残す炉壁小破片。通風孔部は円孔で径は3cm以上となる。炉壁内面は青黒く滓化して、通風孔部の上顎は短く垂れている。残る側部3面と外面が破面。
242	第190図 PL.121	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き・含鉄)	8.3	8.7	5.7	246	2	錆化(△)	右側部に通風孔部壁面の一部を残す炉壁破片。炉壁内面はくすんだ暗紫紅色に滓化して、短い垂れが生じている。側部から外面は全面破面。通風孔部の左右方向の角度は、かなり斜め右方向に向いている。箱形炉の長軸側でもかなり右端部寄りか。
243	第190図 PL.121	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	6.7	7.3	10.7	246	2	なし	前者と同様、右側部中段に通風孔部壁面の一部を残す炉壁破片。通風孔部の先端は上方からの細いつらら状の垂れにより塞がれ気味。通風孔部の左右方向の角度は前者よりさらに角度がついている。炉壁内面は粘土質の滓に覆われ、中小の垂れが確認される。側部から外面は破面となる。
244	第191図 PL.121	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔周辺・通風孔1孔付き)	11.0	14.0	6.5	740	1	なし	外面右上部から左下に向かい通風孔部の壁面が長さ6.5cmほど残る炉壁破片。通風孔部は円孔で、径は約3.3cm前後を測る。通風孔部先は壁面に沿って垂れ落ちた粘土質の滓で上顎部が塞がれ気味。炉壁内面は厚いところで3.5cmを超える炉壁溶解物に覆われており、やや太い垂れと溶損が共存する。表皮の色調は暗紫紅色が強い。横長の炉壁破片で左側の1/3は炉壁溶解物の垂れ部分。側部から外面は凹凸の激しい破面となる。炉壁としては箱形炉の長軸側中央よりやや左手の破片か。
245	第191図 PL.121	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	4.8	7.7	4.1	71	1	なし	右側部下半に通風孔部の壁面の一部を残す炉壁内面破片。通風孔部の左右方向の角度は斜め右方向に向く。内面は厚さ1cmほどの粘土質溶解物に覆われ、点々と垂れが生じている。垂れの方向は下方の溶損が進んでいるためか、やや突起状。
246	第191図 PL.121	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	6.3	9.2	8.1	218	2	なし	右側部に径3.3cmほどの通風孔部壁面が残る炉壁破片。通風孔部は円孔とみられ、先端部にはやや滓が折り重なっている。通風孔部を取り巻く炉壁内面は、滓化・溶損が進み、顎部が深くえぐれている。破面は側部から外面。炉壁の内面表皮は暗紫紅色。通風孔部の左右角度は箱形炉の長軸中央右手か。
247	第191図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	7.0	7.4	4.3	181	2	なし	左側部上端に通風孔の右側部から顎部にかけて残る炉壁破片。通風孔部は円孔で、径2.5cmのところまでは確認できる。炉壁内面は滓化・溶損が進み、通風孔部の右脇には垂れが突出する。側部から外面は破面となる。通風孔部の位置は箱形炉の中央やや左手か。
248	第191図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	6.9	5.8	2.2	82	2	なし	外面下端部に通風孔部壁面のうちでも上顎側の一部を残す炉壁表面破片。通風孔部は円孔の可能性が強く、現状で径1.7cmまでは確認される。上顎のためか、かなり急角度で斜め右下を向いている。炉壁部分は通風孔部壁面沿いのみが薄皮状に突出して、左側は強く溶損する。内面表皮は暗紫紅色でまばらに発泡する。
249	第191図 PL.121	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	7.2	8.9	4.9	354	2	なし	左側部に斜め下に向かい通風孔部の壁面が残る、厚さ5cmほどの炉壁破片。側部から外面は破面となる。通風孔部は円孔の可能性があり、径2.2cmまでは確認できる。炉壁に対しての左右方向の角度は箱形炉の中央やや右手で、通風角度はマイナス45度近い急角度となる。内面は滓化・溶損して、短い粘土質の垂れが数多い。側部から外面は破面となる。
250	第191図	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 通風孔2孔付き・横方向接合痕 付き・基部接合痕付き・滓付き)	6.2	11.5	9.5	442	1	なし	左右の側部に通風孔部2孔の壁面が残り、下手側の端部が水平に途切れた粘土単位の接合部となる炉壁破片。通風孔部は左側の方が残りが長く、右側は先端部壁面の一部が僅かに残る程度となる。左側は円孔で径4.2cmを測り、奥行きは7cmまで確認される。左右の通風孔の間となる炉壁内面は大きく溶損して窪みとなっている。右側部の通風孔は壁面が幅1.5cm、奥行き3cmの範囲で残るのみで全体像は不明。破面は上面と右側部の一部さらには外面全体となる。通風孔部下の接合面はスサ痕が平行するように露出し、粘土質の垂れも加わっている。通風孔部の左右方向の振れは僅かで、箱形炉の長軸側でも中央やや右手に位置する可能性がある。また、2孔の通風孔部壁面の間隔は約9.5cmを測る。逆算すると、各通風孔部の径が4cmと仮定すると、通風孔の芯部間隔はおおよそ13.5cmとなる。なお、炉壁基部を水平にすると通風孔の角度はマイナス24度となるが、他の炉壁資料でみるよう粘土塊を前傾気味に積み上げている場合、さらに強いマイナス角となろう。
251	第191図 PL.123	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 通風孔1孔付き・基部接合痕付 き・滓付き・含鉄)	9.0	10.9	9.8	790	1	錆化(△)	排滓場出土の通風孔付きの炉壁の内、通風孔顎部の状態が良く理解できる資料である。上面右側に通風孔顎部の一部が残り、約6cm下に前者と同様、粘土単位の接合部または炉壁基部に相当する平坦面がかるうじて確認される。通風孔部の径は現状で3cm前後を測り、奥行きは少なくとも5.5cmまでを確認できる。顎部は厚さ2.6cmほどの粘土質溶解物に覆われており、下方ではさらに厚くなる。また、顎部そのものが5cmほど前方に突出する形となる。炉壁に対しての左右方向の振れは箱形炉の炉壁長軸側でも右手と推定される。なお、島根県などの調査例によると、顎部下には鉄滓や含鉄部が固着する機会が多いが、本例では少なくとも10cmまでは粘土質溶解物で占められており、滓部がほとんどみられない。こうした点を重視すれば、炉底塊が生成されないような操業形態も考え得る。側部から外面は全面破面。
252	第191図 PL.122	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔周辺・通風孔下・ 基部接合痕付き・滓付き)	10.2	11.75	5.9	540	1	なし	内面の上半部が木炭痕の大きな粘土質溶解物となり、下半部に錆色が目立つ炉壁破片。側部から外面は破面となる。通風孔部下、または炉床直上の破片と推定されるが、通風孔部は残されていない。
253	第191図 PL.122	1区	排滓場1	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 基部接合痕付き・炉床土付き・ 炉内流動滓付き・滓付き)	6.6	8.8	4.9	268	1	なし	下手側の側部が平坦に途切れて、厚さ1cmほどの滓層が貼り付いている炉壁破片。裏面から見ると、炉壁基部と直下に伸びる炉床土との隙間に貫入した炉内流動滓となっている。内面は不規則な粘土質で溶解物が広がり、細い垂れも生じている。側部から外面は破面。

第5章 古代以降の調査

表83 製鉄関連遺物観察表(16)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
254	第191図	1区	排滓場1	炉壁 (コーナー部)	11.9	9.6	5.3	500	1	なし	内面が青黒い粘土質溶解物に覆われた、炉壁コーナー部でも中段下半相当の炉壁破片。平面形は緩やかな弧状で、側部から外面の大半は破面となる。上面の中央手前側の一部が平坦化されており、粘土単位の接合部の可能性もあり。
255	第192図	1区	排滓場1	炉壁 (コーナー部・通風孔周辺・ 横方向接合痕付き)	10.0	18.0	7.5	1160	2	なし	内面が黒褐色から暗紫紅色の粘土質の垂れに覆われた、やや横長の炉壁破片。内面中央部の溶損が進んでいるためか、上下方向の垂れや窪みが目立つ。側部から外面は破面となる。上面の内面寄りから斜め右上に平坦気味に途切れており、粘土単位の接合部の可能性も残る。平面形は緩やかな弧状。外面の中央部は横方向に淡茶褐色の面が広がるが、本来の外面かどうかは不明。
256	第192図	1区	排滓場1	炉壁 (コーナー部・流出孔周辺・滓 付き)	10.2	13.4	7.3	980	2	なし	内面が分厚い粘土質溶解物主体の滓層に覆われた炉壁破片。側部から外面は破面となっており、右側部中段は黒色ガラス質滓に覆われている。この黒色ガラス質滓は通風孔部、または流出孔部寄りを示す可能性あり。
257	第192図	1区	排滓場1	炉壁 (コーナー部・基部接合痕付き・ 滓付き)	9.8	7.6	5.9	416	1	なし	内面の右上部が突出して、裏面に黒色ガラス質の滓が広がる炉壁破片。この突出部やガラス質滓の部分は通風孔の頸部周辺の可能性を持つ。内面は厚さ5cm前後の粘土質溶解物に覆われて、炉壁土そのものは外面に沿った薄皮状の部分となる。側部から外面は全面破面。
258	第192図 PL.122	1区	排滓場1	炉壁 (通風孔周辺・炉床土付き・ 熱曲がり・滓付き)	12.4	8.2	8.6	734	1	なし	炉壁基部が前屈して、炉壁基部直下に形成された炉内流動滓層に倒れ込んだ形の炉壁破片。両者の隙間は外面から見ると横方向の割れとして露出する。炉内流動滓層は扁平な板状で、幅6cm前後、厚さ2~3cmとなっている。炉壁の内面側は粘土質溶解物と滓の混在物で埋まっている。左右の側部と上面が破面となり、炉内流動滓の下面に炉床土、または、地山由来の付着物あり。
259	第192図	1区	排滓場1	炉壁 (工具痕付き)	4.5	4.5	1.5	43	1	なし	内面に幅3.2cm以上の工具痕を残す炉壁表面破片。工具痕は太い丸棒状で、左右方向に残されている。炉壁側の側部から外面は破面となる。
260	第192図	1区	排滓場1	炉壁 (炉床土付き・工具痕付き・滓 付き)	9.0	10.7	6.3	438	1	なし	外面の左側部に引き起こしたような弧状の工具痕が残る炉壁破片。工具痕の幅は3.5cm以上で、滓層ごと曲っている。炉壁内面は炉壁溶解物に覆われ、表面には破面や小さな垂れが混在する。右上手側の上部には炉床土が確認される。
261	第192図	1区	排滓場1	炉床土 (横方向接合痕付き・滓付き)	12.0	12.4	4.5	1040	1	なし	上手側の側部上半を除き、側部が全周にわたり破面となった炉床土破片。下手側に向かい徐々に薄くなる盤状で、上面には炉壁溶解物が広がっている。側部からみると下半部は砂粒の目立つ炉床土で、その上面に粘土質の滓層が広がる形となる。上手側の側部は垂直方向に滓が途切れて、僅かな含鉄部が点在する。
262	第192図 PL.119	1区	排滓場1	炉床土 (炉内流動滓付き・滓付き・含鉄)	9.0	12.0	6.0	520	2	錆化(△)	前者を一回り小さくした形の、全体観のよく似た炉床土破片。側部の4方が破面で、上面を粘土質溶解物が覆い下面には炉床土が露出する。下手側に向かい徐々に薄くなるのは、炉床の短軸方向の断面形が楕状となっているためか。
263	第192図 PL.125	1区	排滓場1	炉床土 (マグネタイト系滓付き・滓 付き・含鉄)	16.0	12.0	7.0	1074	1	H(○)	分析資料No20 分析資料詳細観察表参照。
264	第192図 PL.125	1区	排滓場1	炉床土 (通風孔周辺・炉壁付き・滓 付き・含鉄)	34.5	15.2	9.6	4600	1	H(○)	上面に厚さ5cmにも達する炉壁溶解物が不定形塊状に乗っている、大型の炉床土破片。下面に沿った厚さ2cmほどの範囲が本来の炉床土部分で、その上に最大厚みが6.5cmにも達する粘土質溶解物や含鉄の滓が乗っている。炉床土と粘土質溶解物主体の部分との境には、炉内流動滓様の滓があり、上手側の側部下端に顔を出している。この部分のみ滓表皮が風化して、白色滓化する。上面の中央上手側の側部には通風孔部沿いの炉壁片が固着する。炉床土側は軽石や小礫を混じえた砂質土となる。
265	第192図	1区	排滓場1	炉床土 (工具痕付き・滓付き)	8.9	6.1	2.9	146	2	なし	上面に左右方向に伸びる工具痕の痕跡を残す盤状の炉床土破片。側部は全周が破面となる。工具痕は2単位とも見えるが、やや不明瞭。
266	第192図 PL.119	1区	排滓場1	炉床土 (工具痕付き・滓付き)	12.7	10.7	3.3	444	2	なし	内面の左下手側と下面右側の端部に浅い楕状の工具痕が残る炉床土破片。上面の方が明瞭で、幅2cmほどのきれいな楕状となっている。長さは約8cmを測る。下面の方は不明瞭で、状態としては炉床土をこじ上げるような形となる。炉床土自体の側部は全面破面。
267	第192図	1区	排滓場1	炉床土 (流出孔付き・滓付き)	9.1	6.9	6.6	270	1	なし	左側部に幅6cmを超える緩やかに折れ曲がった工具痕が残る炉床土破片。工具痕が広めで中間に低い段をもつことから、2単位分の重層ともみえる。方向は斜め上方で、ややこじ上げるような状態を示す。炉床土の表面は厚さ4cmほどの粘土質溶解物に覆われている。
268	第192図	1区	排滓場1	炉床土 (工具痕付き・炉内流動滓付き・ 滓付き・含鉄)	9.4	8.6	4.6	435	1	H(○)	上面に厚さ4cmほどの炉内流動滓が固着した炉床土破片。上面左側には2単位以上の工具痕が一部重なりながら残されている。右側は平滑な表皮をもつ流動滓様。側部は連続的な破面となっている。右下に突出する鋸影れの芯部に含鉄部あり。
269	第193図	1区	排滓場1	炉床土 (炉内流動滓付き・ 工具痕流入滓付き・滓付き)	12.3	14.6	7.6	715	1	なし	下面の中央やや左手に、径2.5cm前後の工具痕流入滓が突出した形で残されている炉床土破片。炉床土側の外周部は全面破面で、上層は粘土質溶解物に覆われている。大型の木炭痕や通風孔先端部周辺の炉壁片も二次的に固着する。工具痕流入滓は工具を炉床に対して斜めに突き刺したような形で、約6cmの長さをもつ。なお、炉床が下手側に傾斜する場合は、工具痕流入滓というよりも、炉壁を上下に貫通する木炭孔の基部に滓が流れ込んだものと見た方がよいかもしれない。
270	第193図	1区	排滓場1	炉床土 (コーナー部・通風孔周辺・ 横方向接合痕付き・滓付き)	18.0	12.0	5.0	1015	2	なし	一見、薄い炉壁のような外観を示す炉床土破片。全体に浅い楕形で4cm前後の厚みをもっている。外面には典型的な砂礫混じりの炉床土が露出する。胎土は砂粒や火山性の小礫、軽石を含む山土様。色調は濃褐色。内面は黒色基調の粘土質に覆われている。なお、垂れ等の方向からみて、上手側に立ち上がるものとみられる。下手側の端部は孔状に窪む。工具痕または流出孔に関わるものか。
271	第193図	1区	排滓場1	炉床土 (コーナー部・炉壁付き・ 横方向接合痕付き・滓付き)	16.6	9.2	7.0	919	1	なし	上手側の側部下端が収束気味となる炉床土破片。上層は厚さ5.5cmほどの粘土質溶解物に覆われており、下面沿いのみが炉床土となる。上手側の側部では両者の隙間に割り込むように炉内流動滓が顔を出す。平面形は弧状。
272	第193図 PL.125	1区	排滓場1	砂鉄焼結塊 (含鉄)	3.2	2.5	1.5	19	1	H(○)	厚さ1.8cmほどのやや扁平な砂鉄焼結塊。側部3面が破面で下面は剥離面様となる。右側部下半は表皮がマグネタイト化して、僅かに流動し始めている。砂鉄粒子は0.1mm大を基調として、やや膨らみをもつもの粒子も存在する。また、粒子の細かいほど還元が弱く角ばっている。
273	第193図 PL.125	1区	排滓場1	砂鉄焼結塊 (含鉄)	3.3	3.0	1.5	19	2	H(○)	全体に還元がやや進んだ、厚さ1.3cmほどの砂鉄焼結塊。側部は全面破面で、上面側は滓化して錆色となる。下面の下手側は砂鉄粒子が比較的区別される。

表84 製鉄関連遺物観察表(17)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
274	第193図 PL.125	1区	排滓場 1	砂鉄焼結塊(含鉄)	2.6	2.7	1.4	14	2	H(○)	上下面や側部に木炭痕が残る砂鉄焼結塊。上面側の方が還元が進み、滓化が認められる。側部から下面は砂鉄粒子が観察される。前2者は炉壁表面で生成されたような特色をもち、本例は炉底塊の一部をなす可能性が高い。
275	第193図 PL.125	1区	排滓場 1	マグネタイト系遺物(含鉄・砂鉄焼結塊付き)	4.7	4.0	2.3	78	1	H(○)	下面に砂鉄焼結部が露出するマグネタイト系遺物破片。側部は全周が破面で、上面は半流動状となる。下面に沿った6mm程度の厚みの部分が砂鉄焼結部で、砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓が生成される過程が明瞭である。含鉄部は右下手側か。
276	第193図 PL.125	1区	排滓場 1	マグネタイト系遺物(含鉄・砂鉄焼結塊付き)	2.7	4.8	1.8	59	2	H(○)	前者と同様、下面寄りが砂鉄焼結部となり、上層が滓化しているマグネタイト系遺物破片。破面は不規則な側部全周で、右側部中央付近は光沢をもって広がっている。上面の滓部は半流動状で短い垂れや盛り上がりあり。下面の砂鉄焼結部には粒子が角ばっているものとやや膨らみをもつ粒子の両者が認められる。
277	第193図 PL.126	1区	排滓場 1	流出孔滓	4.2	4.3	3.3	104	1	なし	左右の側部がシャープな破面となった、やや扁平棒状の流出孔滓。表面は平滑で、二次元的な炉壁粉の固着あり。側部から下面には炉壁粉が密に固着する。気孔は上面表皮寄りにごく僅か。
278	第193図 PL.126	1区	排滓場 1	流出孔滓	9.0	5.5	4.5	364	1	なし	前者を一回り大きくしたような、やや扁平な丸棒状の流出孔滓破片。左右の側部が破面で、上面にはゆったりとした流動単位が重層する。側部から下面は丸棒状。上面表皮の一部が脱落して、直下の大型の気孔が露出する。
279	第193図 PL.126	1区	排滓場 1	流出孔滓	9.9	6.6	4.65	428	1	なし	基本的には前2者と似た、扁平な丸棒状の流出孔滓破片。9.7cmほどの長さで、左右の側部や上面表皮の一部が破面となる。滓がやや動かされているためか全周の8割方が炉壁粉に覆われており、上手側の側部に最終的な流動滓の表面が露出する。炉壁粉の固着は下手側の側部に広い。
280	第193図 PL.126	1区	排滓場 1	流出孔滓(工具痕付き)	6.0	5.9	5.3	259	1	なし	右側部に2単位を数える工具痕の先端部が残る流出孔滓、または流出溝滓破片。破面は工具痕を除く左右の側部から短軸側の側部下半の破面で、左側部には径3.7cmほどの2単位からなる流出孔滓の端部が露出する。左右方向の断面形も中間部分で上面が広がっているため、右半分が流出溝滓かもしれない。下面は浅い舟底状。
281	第193図 PL.126	1区	排滓場 1	流出孔滓(含鉄・炉床土付き)	10.0	8.5	7.0	990	1	錆化(△)	右側の側部が収束している径8.5cmほどの流出孔滓。左側部のみが破面で、上面は不規則に盛り上がった半流動状の滓となる。側部から下面は3cm大以下の木炭痕による窪みと土砂中の小礫や炉壁粉が固着した面で見、炉底塊の底面様。流出孔中で固化したためか滓質は緻密で、上層では気孔がやや目立つ。
282	第193図 PL.127	1区	排滓場 1	流出孔～溝滓	6.5	3.7	1.1	33	2	なし	幅2cmほどの扁平な流出孔～溝滓破片。上面には流れ皺があり、途中で下手側に分岐している。破面は左右の側部と分岐した先端部。滓の色調は暗紫紅色となる。
283	第193図 PL.127	1区	排滓場 1	流出孔～溝滓	7.8	2.4	1.4	65	1	なし	長さ8cmほどの流出孔～溝滓破片。上下に重層した流動単位が確認され、右方向では幅が広がっている。上層の滓は芯部に気孔が肥大する。下面は浅い舟底状で、炉壁粉や小礫の圧痕からなる。
284	第193図 PL.127	1区	排滓場 1	流出孔～溝滓	6.7	9.3	3.15	270	1	なし	1～3cm幅程度の流動単位が重層した流出孔～溝滓破片。側部2面が破面で、破面の芯部は気孔が肥大して中空となる。側部から下面は上面同様、流動単位が区別できるが、上面とは流動方向が40度以上異なっている。また、中央部付近は丸棒状で流出孔滓に近い。
285	第193図 PL.127	1区	排滓場 1	流出孔～溝滓	12.3	6.4	4.0	439	1	なし	分析資料No21 分析資料詳細観察表参照。
286	第193図 PL.127	1区	排滓場 1	流出孔～溝滓	12.0	7.3	5.0	515	1	なし	平面、不整形円形をした流出孔～溝滓破片。左側部下端に径3cm大の流出孔滓の破面が露出し、右方向に向かい急激に幅も広がっている。右側の先端部は収束し、土砂の圧痕によりやや変形する。側部から下面には流出孔の出口付近から流出溝にかけてのラップ状に広がる形態がよく残る。流出孔側の滓にはやや気孔が目立つ。
287	第193図 PL.127	1区	排滓場 1	流出溝滓	11.0	7.0	5.0	497	1	なし	上半部が折り重なったような流れ皺となる流出溝滓破片。左右の側部下半が破面となる。下半の滓は浅い桶状で密度も高い。左側部には上下の滓の隙間が大きな中空部として露出する。下面はきれいな舟底状で、灰色基調の炉壁粉が点在する。
288	第193図 PL.128	1区	排滓場 1	流出溝滓	12.1	9.1	3.1	616	1	なし	上面表皮が脱落したためか中小の気孔が全体に露出する流出溝滓破片。左右の側部が主破面で、短軸側の両側にも小破面あり。3cm前後の厚板状の滓で、上手側の側部には不規則な突出部あり。破面の結晶が発達し、部分的に気孔が肥大する。ごく浅い舟底状の底面には炉壁片を噛み込み、やや凹凸が目立つ。
289	第193図 PL.128	1区	排滓場 1	流出溝滓	17.5	10.8	5.3	868	1	なし	上面が複雑な流動状を示す流出溝滓破片。左右の側部や下手側には小破面あり。側部から下面は全体的には丸みをもった舟底状で、右側では方向の異なる滓と一体化する。上面の中央部が不自然に窪んでいるのに対応する可能性が高い。幅3.3cm強の丸棒状の工具による突き崩しの可能性大。またそれに関連して、上面右下手側も傾斜するように変形している。
290	第193図 PL.128	1区	排滓場 1	流出溝滓(重層)	11.6	19.8	10.3	1980	1	なし	上下2枚の流出溝滓が重層した資料。下半の滓は厚さ4cm前後の板状で、上半の滓は桶状を示す。上下の滓の関係を下面を基準とすると、上面の滓の短軸上手側が45度前後立ち上がってしまっている。したがって、結果的には上面の滓のみが突出した形となる。側部は破面主体で、上下の滓とも上面は大ぶりの木炭痕や不規則な凹凸に覆われている。構成No.289と同様、流出溝滓にいろいろな力加わっていることが分かる。
291	第194図 PL.128	1区	排滓場 1	流出溝滓(含鉄)	31.0	13.9	6.7	3350	2	H(○)	左右方向に長手の大型の流出溝滓破片。滓は左右別単位と見られ、左側の浅い桶状の滓の右上に、左方向からやや厚みをもった別の流出溝滓が乗っている。右側の滓の上面には工具痕とみられる径3cm大前後の圧痕が残されている。下面はいずれの滓とも軽石や炉床土由来の土砂を噛み込む。
292	第194図 PL.129	1区	排滓場 1	流動滓	5.7	5.1	0.8	43	1	なし	1cm幅前後の細身の流動滓が5本、寄り沿うように重層した流動滓破片。左右の側部が破面で、下面には炉壁粉の圧痕が残る。表皮は黒褐色から暗紫紅色気味。
293	第194図 PL.129	1区	排滓場 1	流動滓	5.9	3.5	1.8	57	2	なし	幅2cm前後を測る、先端部が折れ曲がった流動滓破片。左側部が破面で、側部から上面は丸みをもつ。破面の気孔は部分的に肥大する。
294	第194図 PL.129	1区	排滓場 1	炉底塊～流出孔滓(炉内流動滓付き・炉床土付き)	13.5	12.0	6.5	1590	1	なし	上面右側に別単位の流動滓が折り重なったように重層する、炉底塊端部から流出孔滓破片。左側の下半が炉底塊側で、その右側の側部中央から幅8cmほどの流出孔滓が伸びている。側部は上手側を除きシャープな破面となる。流出孔滓側は滓が重層して5枚程を数える。下面は全体に浅い舟底状で、炉床土や炉壁土の固着が強い。

表85 製鉄関連遺物観察表(18)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
295	第194図 PL130	1区	排滓場1	炉底塊～流出孔滓 (炉床土付き)	19.8	15.8	9.4	4530	1	なし	右側部下半に径5cmほどの、やや扁平棒状をした流出孔滓が突出する、炉底塊の長軸端部破片。左右の側部はシャープな破面で、炉底塊側の短軸幅は15cm弱と狭い。上面右寄りの8割方は重層する致セン幅の流動滓により覆われている。また、右側部上手側には径8cm大の別単位の流出孔滓の破面が露出する。本資料によれば、流出孔部の位置が操業途上で7cmほど横方向にずれていることが分かる。左右逆の可能性もややあり。
296	第194図	1区	排滓場1	炉底塊 (コーナー部・炉内流動滓付き・ 炉床土付き・工具痕付き)	17.0	14.7	7.5	2120	1	なし	上面に4単位以上の浅い工具痕が残る炉底塊コーナー部破片。上面から右側面、さらには上手側の側部が生きており、残る側部2面が破面となる。炉底塊自体の厚みは左側で3cm前後を測り、浅い楕形を示す。下面は丸みをもった舟底状で、小礫を含む炉床土が露出する。
297	第194図	1区	排滓場1	炉底塊 (炉床土付き・炉床土(滓付き) 付き)	9.8	20.0	6.0	1730	1	なし	上面に径9cm大の炉壁片や塊状の滓が乗っている扁平な炉底塊破片。炉底塊の厚みは5cm前後で、上面には不定方向の流動滓が露出する。下手側の側部が生きており、残る側部3面が破面。全体に不均質な炉底塊といえる。
298	第194図 PL130	1区	排滓場1	炉底塊 (炉内流動滓付き・炉床土付き)	14.3	22.3	4.0	1900	1	なし	上面全体が不規則な流動状の滓に覆われた扁平な炉底塊破片。上面と短軸側の側部の一部が生きており、炉底塊の幅は22cm強を測り、厚みは3～6cm前後となる。短軸側の両肩部がややせり上がり、上面には次々と流動状の滓が重層している。下面は乱れてはいるが、全体形状は幅広い平底状。
299	第194図	1区	排滓場1	炉底塊 (炉内流動滓付き・炉床土付き)	20.2	11.8	13.1	3470	1	なし	左下手側の側部を除く側部3面がシャープな破面となった炉底塊破片。厚みをもった炉底塊で、最大厚みは14cmを超える。ただし、上層の5.8cmほどの厚み部分は複数の流動単位が重層したもので、炉底塊本体は下半部にある。破面の気孔は部分的に肥大して、上方に伸びるものが主体。下面は幅広い舟底状で8割方を粉炭痕が占め、残る部分に炉床土が確認される。
300	第194図	1区	排滓場1	炉底塊 (工具痕付き)	9.4	11.2	10.5	1360	2	なし	上面下手側に径2.5cm程の丸棒状の工具痕を残す炉底塊または、流出孔滓破片。左右の側部と上手寄りの肩部がシャープな破面となる。上面には右方向に流動する滓が確認され、下面は粉炭痕と炉床土が残る。滓質は緻密で、やや気孔が散在する。短軸方向の幅が狭く、炉底塊端部の流出孔滓の可能性もある。
301	第195図	1区	排滓場1	炉底塊 (含鉄)	15.0	13.0	7.0	1130	2	H(○)	上下面の上手寄りに瘤状の酸化土砂が目立つ炉底塊破片。左右の側部と上手側の側部が破面となる。上面と下手側の側部が生きており、炉底塊としての最大厚みは4cm前後と薄い。下面は浅い舟底状で、炉床土の剥離面となる。含鉄部は上面表皮寄りに広め。
302	第195図	1区	排滓場1	炉底塊 (含鉄・コーナー部・ 炉床土付き・炉内流動滓付き)	21.0	14.0	7.0	4380	1	H(○)	2片が接合する厚さ10cmほどの炉底塊コーナー部破片。上面と上手側の側部から右側部にかけてが部分的に生きており、左側部と下手側の側部が破面となる。上面は中央部がゆとりと盛り上がり、一部に引きつれたような皺が生じている。下面はごく浅い舟底状で、淡は赤褐色の炉床土が貼り付く。滓質は緻密。
303	第195図 PL130	1区	排滓場1	炉底塊 (含鉄・炉床土付き・工具痕付き)	19.0	20.0	5.0	3401	1	H(○)	厚さ5cmほどの幅広い楕状をした炉底塊破片。右寄りの側部を除く側部3面が破面で、下手側の側部下手には太い丸棒状の工具痕が3単位残されている。右端の工具痕は幅3.5cm、長さ6cm程度を測る。いずれの工具痕も炉底塊を引き起こすような形の斜め上方からの圧痕となる。上面は浅い楕状に窪み、炉壁片や小礫が点々と固着する。また滓の風化のためか全体が灰褐色となる。下面には部分的に炉床土が残るが、工具による変形のためか表層が脱落している。
304	第195図 PL129	1区	排滓場1	炉内滓 (炉床土付き・工具痕付き)	11.5	6.2	5.2	422	1	なし	上面右寄りに幅広い楕状の工具痕が残る炉内滓破片。工具痕の幅は最大4cm程度で、上面から右側部にかけてが急角度で曲っている。資料本体は炉壁溶解物主体で、下手側の側部には炉床土が固着し、風化色様の色調となる。
305	第195図 PL129	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄)	5.4	3.8	3.2	78	2	H(○)	表面が茶色の酸化土砂に覆われた不定形塊状の炉内滓破片。上面はやや平坦気味で、下面は剥離面様。側部には木炭痕と破面が混在する。下面の一部に砂鉄焼結部由来の滓部が確認され、炉壁表面で生成か。含鉄部は上面寄り、部分的にマグネタイト系の滓化をしている可能性あり。
306	第195図	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄)	8.5	6.5	5.7	446	1	H(○)	分厚い酸化土砂に覆われた厚さ6cmほどの炉内滓破片。上面の左側のみ木炭痕が残る本来の表面が露出する。マグネタイト系の滓部からメタルが分離し始めた程度の外観で、見かけより含鉄部は狭い。側部から下手は酸化土砂に覆われて不明点が多いが、破面の可能性が高い。
307	第195図	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き・ 砂鉄焼結付き)	8.0	11.8	5.2	324	3	H(○)	酸化土砂に覆われ、礫の二次的な固着も認められる炉内滓破片。下手側に突出する扁平な滓は流出滓破片の可能性あり。上面上手側には砂鉄焼結部が確認される。主体となる含鉄の滓部は厚さ4cmほどで、裏面は剥離面様。
308	第195図	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	8.6	4.4	2.8	143	2	H(○)	表面に黒錆と酸化土砂が目立つイガイガした外観の炉内滓破片。側部には小破面があり、下面は波状の剥離面となる。表裏面の一部に砂鉄焼結部が確認され、マグネタイト系の滓部から、ごく小範囲でメタル部が分離し始めている。
309	第195図	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	9.7	7.0	4.0	212	2	H(○)	分析資料No22 分析資料詳細観察表参照。
310	第195図 PL129	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	8.8	9.2	5.9	423	2	H(○)	酸化土砂に覆われた含鉄の炉内滓破片。上面はやや平坦気味で、細い垂れや黒錆のじみが見られる。側部から下面は中央部が突出して、分厚い酸化土砂に覆われている。また、その一部から放射割れと黒錆のじみが見られる。含鉄部が生成し始めている炉底塊、または炉壁表面で生成か。
311	第195図 PL129	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	8.3	7.0	3.0	436	2	H(○)	右側部に青黒い砂鉄焼結部が露出する炉内滓破片。残る裏面の8割方は黄褐色の酸化土砂に覆われている。また、その表面には放射割れが走る。
312	第195図	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄・炉内流動滓付き・工具 痕付き)	6.7	7.0	6.5	474	2	H(○)	側部が連続的な小砂面に囲まれた、厚さ6.5cmほどの炉内滓破片。右側部上半は浅い楕状の工具痕、または木炭痕が残る。破面は緻密で、部分的にマグネタイト気味に青光りする。また、下手側の側部中段に砂鉄焼結部あり。下面に沿って木炭痕が集中し、黒錆と放射割れも認められる。
313	第195図	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	3.9	3.0	2.2	38	3	L(●)	分析資料No23 分析資料詳細観察表参照。
314	第195図 PL129	1区	排滓場1	炉内滓 (含鉄)	3.7	3.3	2.5	52	2	L(●)	側部4面が破面となった小塊状の含鉄の炉内滓。上面全体と下面の中央部がごく小範囲で生きている。下手側の側部上半を中心に放射割れが走り、含鉄部の存在を示している。側面や破面に1cm大以下の木炭痕が確認され、上下方向に伸びる気孔が散在する。炉底塊の上皮寄り破片か。

表86 製鉄関連遺物観察表(19)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
315	第195図	1区	排滓場1	炉内滓(含鉄)	4.4	4.1	3.8	61	2	L(●)	厚い酸化土砂と大きな放射割れが目立つ炉内滓破片。厚さ3cmほどの塊状で、側面は破面の可能性が高い。下面はやや平坦気味となるが、生きているかどうかは不明。また、錆跡の欠けも認められる。含鉄部は中核部にやや広め。
316	第195図	1区	排滓場1	炉内滓(含鉄)	6.3	6.6	3.3	169	2	特L(☆)	分析資料No24 分析資料詳細観察表参照。
317	第195図 PL.129	1区	排滓場1	炉内滓(含鉄)	7.0	3.1	1.5	34	3	錆化(△)	表面が酸化土砂に覆われた含鉄の炉内滓破片。右側には幅1cm強の突出部あり。一見、鉄製品にもみえるが、透過X線像をみると、錆化が進んだ不規則な含鉄部が滓中に広がっている。本来はメタル部がやや広がった可能性が高い。メタル部の一部は流動気味となって内部に気孔が認められることから、炭素量は高めか。
318	第195図 PL.129	1区	排滓場1	黒鉛化木炭(含鉄)	1.7	1.4	0.88	2	1	錆化(△)	下面に小塊状の酸化土砂が固着する黒鉛化木炭の小破片。黒鉛化木炭の部分は厚さ4mmほどの薄板状で、上面には光沢をもった破面が露出する。また僅かに磁着気味。
319	第196図	1区	排滓場1	木炭	-	-	-	26	1	なし	排滓場1から採取された13サンプルから成る、いずれも小破片となっている木炭。小振りながら表面がシャープなもの1、2cm大の粉炭に近い、表面に焼損が確認される2種類のグループから成る。前者は流出滓2-bやSS1の一部の木炭と同様、製鉄炉の操業用に準備された木炭ではあるが、粒度が小さいために使われなかった一群である。後者は製鉄炉の操業に用いられた後に、排滓や炉体の解体に伴って排出されたと推定される、軟質ではあるが表面の焼損が進んでいる一群である。後者は表面の一部に錆色が見られる傾向にある。材質や炭化の具合は両者とも同じ傾向をもつが、表面の焼損や粒度があていば異なっている。
320	第196図 PL.119	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・上段(下半)・貫巻き痕付き・砂鉄焼結付き)	5.2	4.0	4.15	55	2	なし	内面の左側に上下方向のスマキ痕が残る炉壁小破片。幅は1.4cmほどで、右側にはもう一本別のスマキ痕が確認される。内面表皮は発泡から僅かに滓化が始まった程度で、右側のスマキ痕の壁面を中心に砂鉄が薄皮状に焼結する。側部4面と外面が破面。
321	第196図	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・上段(下半)・砂鉄焼結付き)	5.0	4.1	3.0	41	2	なし	内面に厚さ5mmほどの砂鉄焼結部からややマグネタイト化した滓部が残る炉壁小破片。内面は下方ほど滓化が進む。側部から外面は破面で、上端の一部にはひび割れから貫入した砂鉄焼結部が認められる。砂鉄の粒径は0.1~0.3mm大で、一部の粒子が角ばっている。
322	第196図 PL.119	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・上段(下半)・砂鉄焼結付き)	5.0	9.0	4.0	179	2	なし	内面の右半分は厚さ8mmほどの砂鉄焼結部を残す炉壁破片。側部から外面は全面破面となる。砂鉄焼結部は上方ほど還元程度が弱くなっている。砂鉄の粒径は0.1~0.2mm大で、還元の弱い粒子はいずれも角ばっている。胎土は粘土質でスサをまばらに混じえる。胎土中の鉄分が反応して斑点状の黒色の粒子となる。
323	第196図 PL.120	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・中段(上半)・滓化弱・含鉄・砂鉄焼結付き・マグネタイト付き)	8.2	5.5	4.1	160	2	H(○)	内面の砂鉄焼結部全体が還元して、細い垂れが生じ始めている炉壁破片。内面の中央部は上下方向に向かい窪み気味で、木舞孔の痕跡の可能性あり。側部4面と外面が破面となる。滓表面は磁着気味。
324	第196図	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・中段(上半)・滓化弱)	7.3	7.6	5.1	144	1	なし	内面全体が厚さ1cm前後のガラス質滓に覆われた炉壁破片。表面が暗紫紅色で、部分的に光沢をもつが非磁着。側部から外周部は全面破面。
325	第196図 PL.120	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・中段(上半)・滓化弱・含鉄・砂鉄焼結付き・マグネタイト付き)	6.9	5.6	5.5	153	2	なし	構成No.323と似た内面状態を示す炉壁破片。表面は微細な垂れとなるマグネタイト系の滓部に覆われている。側部から外面は破面で、上下面はやや平坦気味に塗切れている。
326	第196図	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・中段(下半)・滓化強・通風孔上)	9.1	10.2	6.5	411	2	なし	内面が粘土質の滓に覆われた、やや溶損の進む炉壁破片。色調はくすんだ暗紫紅色。側部から外面は破面となり、胎土中にはひび割れが目立つ。
327	第196図 PL.120	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・中段(下半)・滓化強・通風孔上)	11.2	8.7	4.5	406	1	なし	前者と同様、内面がくすんだ暗紫紅色の粘土質溶解物に覆われている炉壁破片。下半ほど滓化・溶損が進み、僅かな垂れやひびの表面を覆うようにガラス質滓が認められる。側部から外面は破面。
328	第196図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔1孔付き)	16.0	13.0	6.0	1057	1	なし	下面中央部のやや右手に通風孔の先端部が一孔確認される炉壁破片。通風孔部の径は3.3cm前後を測り、円孔となる。上側の部分は炉壁内面から垂れ落ちてきた粘土質の滓に覆われている。通風孔部の上下角度はマイナス46度前後と強い。側部は全面破面で、外面上段には粘土単位の接合部様の窪みあり。通風孔位置は箱形炉の長軸側の中央やや左手の破片か。通風孔上部の壁面の様子がよく分かる資料である。内面は、滓化・溶損が進み、下方ほど瘦せている。
329	第196図	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔1孔付き)	13.5	13.0	10.0	762	1	なし	左側部下端に通風孔部壁面の一部を残す炉壁破片。側部から外面は破面となる。右上端部の一部が粘土単位の接合部痕様に平坦化する。通風孔部は径3cm以上の円孔とみられるが、ひび割れと重なり、やや不明瞭。炉壁内面の滓化は下半部で進み、溶損で瘦せた上に、上方から粘土質の垂れが覆っている。通風孔部の位置は箱形炉の長軸側中央でも前者よりやや左手か。
330	第196図	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔1孔付き)	6.3	7.5	4.2	140	1	なし	右側部上段に通風孔部壁面の一部が残る炉壁破片。内面は粘土質の滓が複数の瘤状に垂れている。側部から外面は全面破面。通風孔部は円孔と推定され、位置は箱形炉の長軸側のやや左手か。
331	第196図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔1孔付き)	7.2	6.5	6.5	129	2	なし	裏面のやや左寄りに円孔となる通風孔部一孔を残す炉壁破片。通風孔部の径は現状で3cm以上を測り、通風孔部先には粘土質の垂れが短いつらら状に伸びている。炉壁内面は強く溶損して、通風孔部の壁面側がひだ状に突出する。側部から外面は破面。通風孔部の位置は箱形炉の長軸左寄りか。
332	第196図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔1孔付き)	6.9	4.7	2.7	145	2	H(○)	外面下端部に径3.5cmを測る円孔状の通風孔部の上顎を残す炉壁破片。通風孔部の上下角度はマイナス42度前後を測る。炉壁内面は暗紫紅色に滓化して裏面にはスサ痕が露出する。通風孔部の位置は箱形炉の長軸中央でも僅かに右手か。
333	第196図	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔1孔付き)	4.3	7.0	5.0	91	2	なし	裏面左側に円孔状の通風孔部の上顎から側部にかけてが残る炉壁小破片。通風孔部の径は2.3cm以上で、斜め下方へ先端が向かう。炉壁内面は厚さ1.5cm前後の粘土質の滓に覆われ、通風孔部を塞ぎ気味。側部から外面は破面となる。通風孔部の位置は前者より僅かに右手か。
334	第196図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁(長軸側・下段(上半)・通風孔1孔付き・基部接合痕付き)	8.3	13.5	9.2	588	1	なし	右側部中段上部に径3.7cm前後の円孔となる通風孔部を残す上下に長い炉壁破片。炉壁内面は通風孔部下が大きく溶損して、上方から太い粘土質の滓がつらら状に垂れ落ちている。炉壁の平面形は強い弧状で、箱形炉の長軸左側部付近の可能性をもつ。通風孔部の上下角度はマイナス40度前後。通風孔の位置は炉壁が曲っているためやや算出しにくい。側部から外面は連続的な破面となっている。

表87 製鉄関連遺物観察表(20)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
335	第197図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き・基部接合痕付 き)	7.7	6.1	4.2	129	3	なし	右側部中段に通風孔部壁面を残す炉壁小破片。通風孔部は径3.0cm以上の 円孔と推定されるが、胎土のひび割れのため厳密には不明となる。箱形 炉の長軸中央付近の通風孔部とみられ、上下角度はマイナス48度前後を 測る。炉壁内面は暗紫紅色に滓化・溶損している。側部から外面は破面。
336	第197図	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	5.0	10.2	12.4	275	1	なし	右側部に円孔状の通風孔部壁面の一部を残す炉壁破片。現状では径1.9cm 以上を測る。炉壁内面は通風孔の周囲を含めて、斜め外側に向かい強く 溶損して、ほとんど水平近くに前傾しているために、正確なものの上下 角度は算出しにくい。なお、箱形炉の長軸に対しての通風孔位置は中央 やや左手か。側部から外面は破面となる。
337	第197図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	8.9	9.0	4.5	315	1	なし	上端左寄りの破面に円孔状の通風孔頸部が残されている炉壁破片。通風 孔部の径は現状で2.5cm以上を測る。箱形炉の長軸中央やや右手の通風 孔部と推定され、上下角度はマイナス48度前後か。炉壁内面は通風孔部 下がえぐれるように溶損して、不規則な粘土質の垂れが重層している。 側部から外面は基本的に破面。
338	第197図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	10.0	9.0	5.0	387	2	なし	左側部中段に径3.5cmを測る円孔状の通風孔部の右側面が残る炉壁破片。 通風孔部の左右の角度は箱形炉長軸側でも左寄りとみられる。上下角度 はマイナス46度前後を測る。炉壁内面は滓化・溶損して、暗紫紅色の垂 れが瘤状に散在する。破面は側部から外面。
339	第197図 PL.121	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	6.4	6.5	5.0	251	2	H(○)	右側部下半に円孔と推定される通風孔部の壁面を残す炉壁破片。通風孔 部は現状で径2cm以上を測る。通風孔位置は箱形炉の長軸側のほぼ中央 付近と推定される。上下角度はマイナス48度前後と推定される。炉壁内 面は通風孔部の左側と頸部側が溶損してしまっている。また、さらに左 側にも別の通風孔部があるためか、壁面が突出気味となる。側部から外 面は破面。
340	第197図 PL.123	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・通風孔1孔付き・ 基部接合痕付き・滓付き)	12.0	13.7	11.1	678	1	H(○)	右側部上半に通風孔部壁面の左下の部分が残る、下部部は水平に途切れ た炉壁基部となっている。炉壁上端の平面形は強い弧状で、炉壁基部側 では直線状となる。通風孔部の径は2.5cm以上で、上下角度はマイナス33 度前後を測る。箱形炉の長軸端部側左端の通風孔部の可能性をもち、ほ ぼ炉壁コーナー部に近い位置が想定される。通風孔部先は現状で炉壁基 部から8.5cm上に先端頸部が位置している。炉壁内面は強く滓化・溶損し て、通風孔部周辺のみが突出する形となる。側部から外面は破面。胎土 中にはスサと5cm大の礫が混入している。
341	第197図 PL.123	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・通風孔2孔付き・ 横方向接合痕付き・ 基部接合痕付き・滓付き)	12.2	17.0	11.0	2132	1	なし	本遺跡出土資料の中では最も典型的な通風孔部付きの炉壁破片。下手側 には炉壁基部の平坦面が残る、左右の側部中段には2孔分の通風孔部壁 面が確認される。両者の壁面間隔は10.5cmを測る。ただし、炉壁基部を 基準にすると、通風孔部の高さに差が生じている。左側の通風孔部が基 部から約7cm上に先端部があるのに対して、右側の通風孔部では先端部 が基部から約9.5cm上に位置している。したがって、左右の落差が2.5cmも あることになる。この理由は、①炉壁の長軸側中央寄りと端部寄りでは 高さを意図的に変えている可能性と、②炉壁基部が同じ水平面に設けら れていないという場合のどちらかであろう。本資料の通風孔部位置は いずれも箱形炉の長軸の中央付近で、高さに2.5cmの差がある点は注目され る。(なお、現代の実験炉例では通風孔の高さを隣り合う2孔で差をつけ ている例や、長軸の中央から端部にかけて下がり気味の傾斜をつけてい る例もある。)右側の通風孔部は径3.4cmを測り、上下角度は25度前後とな る。左側の通風孔部は径3.5cmを測り、上下角はマイナス32度前後となる。 内面は2つの通風孔の間が上方を含めて大きく溶損して、通風孔頸部側 では炉壁溶解物が4cmほどの厚みで積み重なっている。側部から上面は 破面で、平坦気味の面となる外面も表皮が剥落している可能性が高い。
342	第197図 PL.122	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・通風孔1孔付き・ 基部接合痕付き・滓付き)	8.5	9.7	1.8	331	1	錆化(△)	内面が黒色ガラス質に覆われた炉壁基部破片。下部部には炉壁基部を示 す平坦面が僅かに残り、上面右側には通風孔部の頸部周辺が残されている。 通風孔部の径は現状で3cm以上を測る。炉壁基部から通風孔部先ま での高さは約6cmを測る。これは、通風孔頸部を含む炉壁全体が溶損 のため前屈するためかもしれない。通風孔の位置は箱形炉の長軸側左手と 推定される。上下角度はマイナス46度前後となるが、炉壁の前屈の影響 が加わっている可能性あり。側部から外面は破面。
343	第197図 PL.122	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・通風孔1孔付き・ 基部接合痕付き・滓付き)	12.0	13.8	5.9	932	1	なし	左上端部に通風孔頸部の一部を残す炉壁基部破片。下部部は内面に沿っ て垂れ落ちてきた粘土質の滓に覆われているが、炉壁基部がころうして 確認される。両者の間隔は約7.5cmである。箱形炉の長軸側でも、中央 やや左手の通風孔部の可能性をもつ。上下方向の角度は算出しにくい残 存状況となる。側部から外面は破面。
344	第198図 PL.122	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔1孔付き・ 横方向接合痕付き・基部接合痕 付き・炉床土付き・滓付き)	19.0	25.0	6.0	3125	1	なし	上面の中央部に溶損が進んで径6cmにも広がった通風孔部一孔の痕跡を 残す大型の炉壁破片。炉壁内面も溶損が進み、通風孔下を中心に厚さ8 cmも達する粘土質溶解物が重層するように固着する。通風孔部は下部部 の炉壁基部の平坦面から約9.5cmの高さに位置している。箱形炉の長軸側 中央やや左手の通風孔部の可能性をもつ。ただし、左右に長手の炉壁片 とみられるのに、少なくとも通風孔部周辺の左右10cm以内には隣の通風 孔部の痕跡が確認できない。また、本資料では炉壁基部直下に幅2cmほ どの炉床土の端部が残されている。破面は炉壁側部と上端に加えて表面 の大半に及ぶ。
345	第197図	1区	排滓場2	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・基部接合痕付き・ 滓付き)	9.7	17.1	7.4	1180	1	なし	外面下半に炉壁基部を示す平坦面とそれに接するように炉床土が一部に 固着する炉壁破片。左右の側部が主破面で、上下面では幅の狭い破面が 露出する。炉壁内面上部はマグネタイト系の滓となり、下半の8割方は 厚さ6cm以上にも達する粘土質溶解物に覆われる。下手側には垂れも生 じている。炉床土の部分は炉壁基部直下に接したように残り、厚みは2.4 cm程度と薄いことが分かる。つまり、炉床土の肩部上に、10cm以上の厚 をもつ炉壁基部が乗る形で炉体が構築されていることになる。また本 資料では、炉床土の厚みより炉壁の方が外側に少なくとも5cmはみ出 していることが読み取れる。従って、炉壁基部が炉床掘り方の肩部に状 態となるのかもしれない。
346	第198図	1区	排滓場2	炉壁 (コーナー部)	14.7	9.3	6.4	620	2	なし	側部から外面が破面となった炉壁破片。下部部はやや炉壁基部に似て水 平方向途切れ気味。内面の上半部は粘土質の滓が垂れた溶損部で、下半 部ではやや錆色強い。上部方向に通風孔部が位置する可能性も残る。
347	第198図	1区	排滓場2	炉壁 (コーナー部・通風孔周辺・ 横方向接合痕付き・滓付き)	12.4	16.0	6.6	1000	2	なし	内面上部が溶損や粘土質の垂れに覆われている炉壁破片。内面下半部は 木炭痕や錆色の目立つ炉壁溶解物が折り重なっている。左右の側部と上 端部に加えて外面が破面となる。外面から見ると下部部は炉壁基部に近 い外観をもつ。また、左側部上端の周辺が通風孔部となる可能性あり。 裏面は粘土単位の接合部様で、横方向の隙間が生じている。

表88 製鉄関連遺物観察表(21)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
348	第198図	1区	排滓場2	炉壁 (コーナー部・基部接合痕付き・滓付き)	8.0	11.0	10.5	596	2	なし	下手側の側部が平坦に整えられた炉壁基部破片。下端の中央部は瘤状の粘土質溶解物に覆われている。炉壁内面はこの溶解物を境に下手側は黒色ガラス質で、上半は青黒く、僅かに磁着する滓部となる。左右の側部と上面全体が破面となる。
349	第198図	1区	排滓場2	炉壁 (コーナー部・基部接合痕付き・滓付き)	9.4	9.8	9.2	708	2	なし	平面形が強い弧状をした炉壁基部破片。上部部は横方向に整えられた粘土単位の接合部で、裏面下端は炉壁基部と推定される。したがって、上下幅が約8cmの粘土単位となる。内面は上下で滓質が異なり、上半部は磁着気味で、下半部は木炭痕の大振りなガラス質となる。
350	第198図 PL.122	1区	排滓場2	炉壁 (コーナー部・通風孔周辺・基部接合痕付き)	9.0	13.0	5.5	602	1	なし	外面下半に平坦に整えられた炉壁基部と炉床土の肩部片が残る炉壁基部破片。側部の8割方は破面で、外面も破面となる。内面は木炭痕と上部から落ちてきたと推定される黒色ガラス質滓化した粘土質の滓に覆われる。
351	第198図	1区	排滓場2	炉壁 (コーナー部・基部接合痕付き・滓付き)	11.8	12.6	8.5	866	1	なし	外面の下端部寄りに炉壁基部と炉床土の肩部片が確認される炉壁基部破片。平面形は僅かに弧状。側部から上面奥側に加えて、外面全体が破面となる。内面は3cm大以下の木炭痕と表面がガラス質滓化した粘土質溶解物に覆われる。
352	第198図	1区	排滓場2	炉床土 (基部接合痕付き・滓付き)	13.3	14.0	6.0	1020	1	なし	上面と上手側の側部を除く側部4面が破面となった盤状の炉床土破片。上手側が厚く、下手側に向かって薄くなっている。上手側の側部は上半2/3がイガイガした粘土質の滓で、下部の表層が風化色となる。上面下手側は粗く発泡した粘土質の滓に覆われ、下面は灰色から灰白色の炉床土が面を成す。上面や上手側の側面を覆う錆色は二次的な色調。
353	第198図	1区	排滓場2	炉床土 (基部接合付き・滓付き)	13.5	16.7	6.0	1120	1	なし	左右の側部から下手側の側部が破面となった盤状の炉床土破片。前者と比べて二次的な酸化色が少なく、上面表皮の色調が黒褐色気味。上手側は7cmを超える厚みで、下手側に向かい徐々に薄くなる。左側部からみると、上半2/3が黒色ガラス質滓を含む炉壁溶解物となる。下面に沿って炉床土が明瞭に露出する。下面は上手側が大きな波状で、全体は平底状となる。炉床土の厚みは1~4cmと幅をもつ。
354	第199図	1区	排滓場2	炉床土 (炉内流動滓付き・工具痕付き)	13.7	18.9	3.1	1110	1	なし	上面右側に幅4.8cmを測る工具痕を残す炉床土破片。工具痕は右方向からの丸棒状で、先端部が止まっている。炉床土の部分は側部が全周にわたり破面となり、上面の左側を中心に厚さ3cm前後の半流動状の滓に覆われている。下半の1~3cm程度の厚み部分が炉床土で、小礫を含む砂質土から成る。上面右下下手側にも工具痕様の窪みあり。幅は3cm弱と狭く、半分以上が酸化土砂に埋まっている。やや炉底塊状の炉床土破片となる。
355	第199図	1区	排滓場2	炉壁 (木舞孔付き)	9.8	16.0	5.0	665	1	なし	二片が接合した、外面に木舞孔を残し下端の破面に沿って工具痕が残る炉壁破片。内面は滓化が弱めで、部分的に薄皮状の粘土質の滓に覆われている。下端の工具痕は幅1.5cmほどで、弧を描いて横方向に伸びている。裏面中央に上下方向に残る木舞孔は径3.3cm程度の桶状で、丸棒状の木舞の壁面に接したものと推定される。被熱にはやや強弱あり。炉壁側は側部から外面左側が破面となる。
356	第199図	1区	排滓場2	炉壁 (工具痕付き)	8.2	8.5	5.9	316	1	なし	全体が滓化した炉壁溶解物様となった炉壁破片。側部や内面には小破面が点々と残されている。外面右手には大型の工具痕が露出する。幅は現状で5.5cm以上で、長さは上下方向で約8cmを測る。下方から突き上げられたような工具痕で、内面はガラス質となる。
357	第199図 PL.125	1区	排滓場2	砂鉄焼結塊 (含鉄)	2.2	3.1	2.8	18	3	H(○)	厚さ2.6cmほどの扁平塊状をした砂鉄焼結塊破片。側部4面が破面様となる。砂鉄粒子は右側ほど還元が進む。また一部がメタル化しているためか、錆色もあり。
358	第199図 PL.125	1区	排滓場2	砂鉄焼結塊 (含鉄・マグネタイト系滓付き)	3.5	3.3	1.9	19	3	H(○)	表面が薄皮状の酸化土砂に覆われた砂鉄焼結塊。地は全体が黒褐色で風化も進んでいる。厚みは約2cmを測り、炉壁表面で生成か。
359	第199図	1区	排滓場2	マグネタイト系遺物 (含鉄・砂鉄焼結付き)	5.7	5.3	3.0	101	2	H(○)	分析資料No25 分析資料詳細観察表参照。
360	第199図 PL.125	1区	排滓場2	マグネタイト系遺物 (含鉄・砂鉄焼結付き)	3.9	7.2	2.9	110	2	H(○)	酸化土砂に覆われたマグネタイト系遺物。右側部下半には砂鉄焼結部が露出し、残る側部や上面には放射割れと黒錆のにじみも確認される。形状は不定形で、下面は剥離面様。芯部には含鉄部が広がる。
361	第199図 PL.126	1区	排滓場2	流出孔滓	6.9	4.2	4.6	159	1	なし	径3cmほどの丸棒状をした流出孔滓破片。上面には青黒い滓が重層している。左右の側部が破面で気孔は発達気味。側部から下面はきれいな丸棒状を示す。
362	第199図 PL.126	1区	排滓場2	流出孔滓	8.4	6.1	7.5	690	1	なし	右側部が面を成して収束する、太い棒状の流出孔滓破片。左側部が主破面で、右上の肩部にも小破面あり。左半分は上下に長い丸棒状で、右側の端部が一段と膨らみをもつ。流出孔の出口付近で生成か。破面の気孔はやや肥大する。外面には炉壁粉や炉床土が固着する。
363	第199図 PL.126	1区	排滓場2	流出孔滓	5.6	12.4	8.5	965	2	なし	左側部全体と右側部下手側の下半がシャープな破面となった流出孔滓、または溝滓破片。左右方向に桶状に窪んだ上面に塊状の滓が重層し、下半の滓は右上手側の側部が収束する。滓質は比較的緻密で、結晶が肥大する。気孔は部分的にやや発達気味。右側面中段の一部が工具痕様に窪む。
364	第199図	1区	排滓場2	流出孔滓	9.9	14.6	8.0	1430	1	なし	右側部が上手側に向かい細くなっている特異な形態の流出孔滓。左右の側部下半が一部、破面となっている。中間の部分が短軸方向に向かい帯状に高まる滓で、その両側部は2.5cm以上低くなって流動する。上面から側部の半分以上と下面全体に炉壁粉や炉床土が面的に固着する。下面は幅広い舟底状。左右逆の可能性もやや残る。
365	第199図 PL.126	1区	排滓場2	流出孔~溝滓	9.3	2.7	1.6	67	1	なし	径2.7cmほどの丸棒状をした流出孔~溝滓破片。右側部は収束しており、上面左側の表皮から左側部が破面となる。右側の断面形は上下にやや長手の丸棒状。
366	第199図 PL.127	1区	排滓場2	流出孔~溝滓	10.2	7.0	4.2	326	2	なし	右方向に幅を増しながら流動する流出孔~溝滓破片。左右の側部が小破面で、上面の右端には方向が大きく交わる形で別単位の滓が巻き込まれている。母体となる下半の滓は径3cm前後で、破面には肥大した気孔や流動単位が露出する。下面は丸棒状で炉壁粉が密に貼り付く。
367	第199図 PL.127	1区	排滓場2	流出孔~溝滓	14.0	9.0	7.0	1860	1	なし	左右の側部がシャープな破面となった流出溝滓、または流出孔~溝滓破片。上面には幅広い流動単位が重層して流れ緩も生じ始めている。下半部は左側に残る径6.5cmほどの扁平棒状の滓部から右方向に向かい急激に広がる形で伸びている。下面は丸みをもった舟底状で、左側の丸棒状の底面には炉壁粉が密に固着するが、右側では量が少ない。逆に右下下手側の側部を中心に薄く砂鉄が焼結する。

表89 製鉄関連遺物観察表(22)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
368	第199図 PL.127	1区	排滓場2	流出孔～溝滓	17.5	11.5	9.3	2266	1	なし	太い棒状の流出孔～溝滓破片。前者と同様、上半と下半の滓では外観が異なっている。本例では上半に表裏逆転した径8cmを超える丸棒状の流出孔滓が乗り、下半には流出溝滓様の部分が確認される。左右の側部の一部が破面で、明らかに上下の滓では気孔の大きさや結晶の状態が異なっている。
369	第199図 PL.127	1区	排滓場2	流出孔～溝滓	16.5	12.1	8.5	2570	1	なし	径12cmを超える太いやや扁平な丸棒状の流出孔～溝滓破片。左側部がシャープな破面で、右側部は別単位の滓と一体化している。上面は全体に盛り上がり、一部が瘤状となる。左側部の破面の結晶は緻密で、4cm大を超える木炭痕が1ヶ所に残る。
370	第200図 PL.127	1区	排滓場2	流出孔～溝滓	17.0	16.0	9.0	3890	1	なし	構成No.367を一回り大きくしたような、上下の滓の質感が大きく異なっている流出孔～溝滓破片。左右の側部と短軸側の肩部が破面となる。上半の滓は中小の流動単位が乱雑に重層する幅広い流出溝滓様で、下半の滓は縦断面形が太い丸棒状となる流出孔滓様。右側部では上下の滓が明瞭に分かれている。上面中央から左上手にかけては流動状の滓表面に砂鉄が広がり、下面の滓の左下の端部は滓がけりちぎられて、下方に突出する。
371	第200図	1区	排滓場2	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	9.0	6.6	4.8	416	1	なし	上面の中央部に左方向から差し込まれた工具痕を残す流出孔～溝滓破片。工具痕の最大幅は約2.2cmで、長さは4.3cmを測る。上面表皮は暗紫紅色の目立つ流動状。上手側の側部のみが破面になっており、下面下手側はやや丸棒状の外観を示す。90度左回転する可能性もあり。
372	第200図	1区	排滓場2	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	8.8	5.0	6.1	525	2	なし	手前側の側部上半に幅2.3cm以上の明瞭な工具痕を残す流出孔～溝滓破片。工具痕の長さは7.7cmを超えている。破面は左側部から上手側の側部上半で、上面右側から肩部にかけては流動状の滓表皮の一部を残す。下半の滓はやや乱れているが、全体的には丸みをもった舟底状となる。
373	第200図 PL.127	1区	排滓場2	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	13.0	12.1	10.2	1540	1	なし	側部や底面に不規則な突出部を残す、やや大型の流出孔～溝滓破片。上面の中央部は極状に窪み、その表面には工具痕が2ヶ所と不規則な細い流動単位の痕跡が残る。工具痕は幅1.8cm程度のやや深い極状。破面は両側部から短軸側の肩部に帯状に残る。下半の凹凸は別単位の滓の影響による可能性もあり。
374	第200図	1区	排滓場2	流出溝滓	8.3	4.3	2.7	144	1	なし	分析資料No.26 分析資料詳細観察表参照。
375	第200図	1区	排滓場2	流出溝滓	7.0	10.0	6.0	835	1	なし	左側部全体と右上手側の肩部が破面となった流出溝滓破片。厚さ5.5cmを超える滓の先端部破片で、右側部下手側では滓が途切れ気味。先端部が一且破面となった後に、表皮が薄く溶化したような不自然な外観を示す。左側部の破面の滓質は緻密で、上面表皮直下の気孔が肥大する。
376	第200図 PL.128	1区	排滓場2	流出溝滓 (工具痕付き)	12.8	10.3	3.5	745	1	なし	上面表皮に流れ皺が目立つ、幅12cmを超える扁平な流出溝滓破片。左右の側部から上手側の側部が破面となる。下面はごく浅い皿状で、軽石や炉壁粉が点々と固着する。左側部下半が工具痕により上下方向に窪んでおり、幅2.4cmほどの浅い極状となる。流出溝から滓を取り外す目的か。
377	第200図 PL.128	1区	排滓場2	流出溝滓	13.7	17.8	5.7	2258	1	なし	左側部から短軸側の側部にかけてが連続的な破面となった、幅18cm以上に達した流出溝滓破片。厚さは5cm前後で、側部からみると乱雑な重層が確認できる。上面表皮は暗紫紅色で流れ皺あり。下面は浅い碗形になっており、右側部側で収束気味。
378	第200図	1区	排滓場2	炉底塊～流出孔滓 (コーナー部・炉床土付き・ 炉内流動滓付き・工具痕付き)	11.0	12.0	6.0	1230	1	なし	下面の右下下手側に工具痕を残す炉底塊～流出孔滓。工具痕の幅は約3cmを測る極状で、斜め下方向に向かい緩やかに伸びている。破面は左側部から上手側の側部。左側部の破面からみると明らかに別単位の滓が重層する。下半の滓は2.5cmほどの扁平な極状で、上面下手側の滓は幅5.5cm程度の太い丸棒状を示す。上下の滓とも右側で収束気味。
379	第200図	1区	排滓場2	炉底塊～流出孔滓 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	14.5	10.5	8.4	2010	1	なし	上面の6割方と上手側の側部が生きている炉底塊～流出孔滓破片。上面は浅く窪み、やや流動状の滓に覆われる。上手側の側部から下面は丸みをもった舟底状で、炉壁粉や軽石が固着する。滓質は緻密で、気孔の一部が上下方向に発達する。流出溝滓の可能性もあり。
380	第200図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊～流出孔滓 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	23.0	18.5	9.0	4310	3	H(O)	下面の右側が肥厚して、幅12cm程度の滓部が突出する炉底塊～流出孔滓破片。最大幅は中間部分で約18.5cmを測る。左側では滓が薄くなって、上面には半流動状の滓が露出する。左右の側部が主破面で、短軸側の肩部直下にも狭い破面あり。下面は軽石や炉壁粉を含む炉床土様の土砂が貼り付く。下面沿いの表皮直下には中小の木炭痕がやや目立つ。
381	第200図	1区	排滓場2	炉底塊～流出溝滓 (コーナー部・炉床土付き・ 炉内流動滓付き・工具痕付き)	22.7	14.5	10.6	4140	1	なし	下手側の側部に斜め下に向かう幅広い工具痕が残されている、炉底塊～流出溝滓様の資料。工具痕の最大幅は4.2cmを測る。左右の側部の一部が破面で、全体観は流出溝滓様。上面にはゆったりとした流動滓が盛り上がるように流れている。下面は大きな舟底状で、工具痕のために上手側の滓が大きく欠けている。性質的には流出溝滓部分が主体とみられる。
382	第201図	1区	排滓場2	炉底塊 (炉床土付き・流出孔滓付き・ 炉内流動滓付き)	19.6	16.3	13.5	4870	1	なし	左右の側部が主破面となった、流出孔滓付きの炉底塊破片、または重層した大型の流出溝滓破片。左側部から見ると、分厚い4単位以上の滓が重層した資料で、最下層の滓の一部は幅8cmほどの流出孔滓様となる。それに対して、上部に重層する滓はいずれも幅広い流動滓がやや不定方向に流動する外観の流出溝滓様となる。下面左寄りを中心に炉床土が面的に貼り付き、右方向にかけてはまばらとなる。なお、上下の滓層はやや軸を異にする。
383	第201図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊 (炉床付き・木炭付き・ 炉内流動滓付き)	23.0	20.0	14.0	11520	1	なし	上面全体が窪み、その中央部に木炭痕の目立つ滓部が盛り上がるように乗っている炉底塊破片。厚みは15cm以上もあり、滓質は全体的に緻密。破面は上面や左側部を除く側部の各所に広がり、一部は肩部にまで及んでいる。この破面のため本来の炉底塊の長軸方向が分かりにくい。下面は深い碗形で、左側部並びに上手側の側部の立ち上がりが急となる。滓質は下面沿いの4cmほどの部分には2cm大以下の木炭を噛み込み、小振りの木炭痕や不規則な隙間が目立つ。それに対して、上層では結晶が発達して気孔がほとんど認められない。下面は灰色の炉床土と一部に5cm大に近い木炭痕が顔を出す。炉底塊の端部様の特色をもっており、左90度回転方向が正位の可能性も残る。

表90 製鉄関連遺物観察表(23)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
384	第201図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊 (工具痕付き・炉壁付き・ 炉床土付き・炉内流動滓付き・ 含鉄)	20.3	19.0	8.5	6410	1	錆化(△)	左側部が不自然に途切れて、中段下手側に径4.6cm大の工具痕が残る炉底塊破片。上面側は炉壁溶解物とみられる粘土質の滓に覆われ、残る右側は1.2cm程度の幅をもつ流動滓が不規則に重層する。破面は左右の側部と短軸側の肩部となる。滓質は左側部が流動性の低い炉内滓様で、右側部の破面は気孔が上半部で発達する緻密な流動滓様。短軸方向の断面形は厚さ1.2cmを超える分厚い盤状で、下手側の側部から下面は、側部が急激に立ち上がる平底に近い舟底状となる。表面には炉壁粉や軽石を含む明褐色の土砂が固着する。資料自体の性格は炉底塊端部から炉壁基部直下で生成された流出孔滓のようにもみえる。他方、180度逆転して炉底塊の上面に流動滓が溜まった状態ともみえる。後者の場合、工具痕は流出孔側から炉内の滓を取り除く目的で印されたものの、結果的には成功しなかったことになる。
385	第201図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き・ 含鉄)	20.0	18.0	10.0	7950	1	H(○)	下手側の側部を除く側部3面が大型の破面に囲まれた、厚さ1.2cmほどの分厚い炉底塊破片。上面は全体的に平滑な滓層に覆われ、点々と瘤状の突出部も散在する。また、左上側部の肩部には径2.7cm以上の深い工具痕が残されている。左右の側部はシャープな破面で、下面から下手側の側部のみが小振りの木炭痕の散在する滓層となる。上半部は結晶の発達した密度の高い滓層に占められている。下面は幅広い緩やかな舟底状で、4cm以下の木炭痕が散在する。上面に残る工具痕は滓も抜くというよりも、炉底塊を割り分ける目的のためであろうか。
386	第201図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き・ 含鉄)	18.5	19.5	14.6	8390	1	H(○)	黄褐色の分厚い酸化土砂に覆われた炉底塊破片。左右の側部が主破面で、短軸方向の幅は1.8cm程度と狭い。それに対して厚みは1.4cmを超えている。上面は中央部側がやや窪み、右方向に全体が傾斜する。側部から下面は幅のやや狭い舟底状で、表面が荒れて、不規則な窪みや炉床土の剥落部が確認される。滓質は全体に緻密。
387	第202図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	23.0	20.5	17.0	16470	1	なし	上面にやや不定方向に向く複雑な流動滓が覆っている、分厚い炉底塊破片。左右の側部が主破面で、シャープな破面が露出する。また、短軸側の側部上半にも破面が広がる。下半部の密度の高い滓と上半部の横方向に気孔が肥大する流動状の滓の両者が重層する。そのため、資料としては炉底塊上部にやや厚い流動滓層が乗っているという可能性と、炉底塊に似た密度の高い流出孔～滓滓の上に流動性の高い流出滓層が重層したという、両者の可能性をもつ。側部から下面は幅の狭い舟底状で、立ち上がり急となる。また、側面下半から下面には炉壁粉が密に貼り付く。
388	第202図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き・ 含鉄)	41.0	20.0	16.0	23000	1	錆化(△)	前者を短軸方向に2倍ほど広げたような形の大型の炉底塊破片。左右の側部が直線状の大破面となっており、上手側の肩部や上面にも小破片が広がる。上面はごく緩やかな幅広い楕状で、その上を2～5cm幅程度の流動滓がやや不定方向に流れている。この流動滓層の厚さは、右側部の破面とみると約7cm前後の厚みをもつ。その下の8cmほどの滓部は密度が高く、ほとんど気孔の見えないしっかりした炉内滓層となる。下手側の肩部上面には幅2cmほどの工具痕様の窪みあり。方向や高さからみて、炉壁の通風孔から挿入された工具の「あたり」かもしれない。炉底塊の側部から底面は幅広い舟底状で、灰色から褐色の炉床土が目立って固着する。
389	第203図 PL.130	1区	排滓場2	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き・ 含鉄)	24.8	42.0	23.2	25000	1	錆化(△)	上面全体が幅広い流動滓に覆われている炉底塊破片または、流出溝溜り滓。右方向に向かい側部が急激に立ち上がり、破面は短軸側の両側部と左側部に広がる。左側部に露出する破面の滓質は前2者とやや似ており、上半部が流動滓の重層部で、下半部は密度の高い炉底塊様となる。流動滓の上面やや上手側には、別単位の滓片が複雑に残っている。また、表皮の色調も黒褐色から紫紅色と幅広い。下半の滓を含む側部から下面は短軸方向に長い舟底状で、上面の滓とは軸が異なっている。下面上手寄りに大きな割れ目が露出しており、これを境に別の炉底塊が角度を変えて結合しているようにもみえる。前2者に比べて下面の炉床土の固着がやや弱く、場合によれば、炉底塊の破片の集積に後から流動滓が乗ったという可能性も残る。
390	第202図	1区	排滓場2	炉内滓 (工具痕付き)	8.4	9.0	3.5	228	1	なし	下面の右側部寄りに幅3.3cm程度の工具痕が残る薄板状の炉内滓破片。側部は全周が破面で、下面は浅い碗形となる。上面は全体にイガイガしており、僅かに木炭痕も確認される。炉壁内面から剥落した滓か。
391	第202図	1区	排滓場2	炉内滓 (炉内流動滓付き・木炭付き)	7.2	7.5	4.0	300	2	なし	上面が半流動状となった厚さ5.5cmほどの炉内滓破片。側部は全周が破面で、粗い気孔や木炭痕が露出する。上面左側部寄りの木炭痕の芯部には木炭が残る。炉底塊の上皮寄り破片か。
392	第202図	1区	排滓場2	炉内滓 (炉内流動滓付き・ 砂鉄焼結付き・含鉄)	6.0	7.0	3.5	244	3	H(○)	下面に砂鉄焼結部が広がっている炉内滓破片。側部は全周が連続的な破面で、不規則な気孔も露出する。上面は平坦気味で、表皮の剥落により全体が気孔の露出した破面となる。左上側部の側部から肩部にかけては滓表皮が風化して、白色滓化している。下面の砂鉄焼結部は0.1mm大の粒子をベースに還元が進んでいる。含鉄部のためか側部には放射割れ少々あり。
393	第202図	1区	排滓場2	炉内滓 (炉内流動滓付き・ マグネタイト系滓付き・含鉄)	5.2	6.3	4.0	195	2	H(○)	側部から下面がシャープな破面となった炉内滓破片。上面は半流動状で、マグネタイト化している。また、僅かに含鉄気味のためか、一部に錆色が確認される。下面の破面では結晶が発達して磁着は弱い。
394	第202図 PL.129	1区	排滓場2	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き・ 砂鉄焼結付き)	8.0	8.0	4.0	310	3	H(○)	表面の8割方が厚い酸化土砂に覆われた炉内滓破片。外観からみて側部から下面は破面と推定される。下手側の側部から下面にかけては酸化土砂が剥落して、内部の木炭痕が目立つ滓層が露出する。部分的に砂鉄焼結部の痕跡を残し、場所によっては黒錆が生じている。木炭痕の表面には一部、砂鉄粒子が確認できる。
395	第202図 PL.129	1区	排滓場2	炉内滓 (含鉄)	3.9	5.1	2.7	83	5	H(○)	表面が厚い酸化土砂に覆われた小塊状の炉内滓破片。下面の下手側には酸化土砂中に含まれる礫が突出し、右側部には黒錆の吹いた滓層が確認される。全体に磁着するものの、比較的弱い。
396	第202図	1区	排滓場2	炉内滓 (含鉄)	6.9	8.0	4.3	255	3	H(○)	分析資料№27 分析資料詳細観察表参照。
397	第202図	1区	排滓場2	鉄塊系遺物 (含鉄)	4.2	4.4	2.0	38	3	L(●)	分析資料№28 分析資料詳細観察表参照。
398	第202図	1区	排滓場2	木炭	-	-	-	5	1	なし	排滓場2から出土した5サンプルから成る小片の木炭。ほぼすべてが焼損しており、そのうち半分は表面に錆色が確認される。おそらく、製鉄炉の操業に用いられた後に、排滓場に廃棄された既使用の粉炭であろう。
399	第204図	1区	表土	炉壁 (長軸側・上段(下半)・ 砂鉄焼結付き・ 横方向擦合痕付き)	5.0	7.0	3.5	60	1	なし	内面が発泡して僅かに砂鉄粒子が確認される炉壁小破片。側部から外面は破面となる。内面の一部が上下方向に浅く窪むが、スマキ痕かどうかは不明。

表91 製鉄関連遺物観察表(24)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
400	第204図	1区	表土	炉壁 (長軸側・上段(下半)・ 砂鉄焼結付き)	7.1	7.0	3.8	148	1	なし	側部から外面が破面となった炉壁小破片。内面は僅かに中央部が窪んだ平坦面で、表面のみが発泡する。破面には炉壁胎土中のスズと石英質の粒子が目立つ。
401	第204図	1区	表土	炉壁 (長軸側・中段(上半)・ 滓化弱・マグネタイト系滓付き・ 砂鉄焼結付き)	5.0	4.5	3.0	75	2	H(○)	内面が厚さ2.5cmほどのマグネタイト系の滓に覆われた炉壁小破片。側部4面が破面で、外面も破面となる。滓層の右下の部分は砂鉄焼結部となり、還元はかなり進んでいる。内面上部は滓が垂れ気味となる。
402	第204図 PL.120	1区	表土	炉壁 (長軸側・中段(上半)・ 滓化弱・砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	10.0	8.7	6.8	450	1	なし	内面全体が青黒い色調の縮細状に滓化した炉壁破片。側部3面が破面となり、下手側の側部は斜め下方に向く平坦面となる。この部分は粘土単位の接合部の可能性あり。内面の滓化部分はマグネタイト化しており、全体に磁着する。また、垂れも生じ始めている。
403	第204図	1区	表土	炉壁 (長軸側・中段(下半)・滓化強・ 通風孔上・横方向接合痕付き)	7.4	7.3	4.3	196	1	なし	内面が全体に滓化して、粘土質溶解物が垂れとして残る炉壁破片。側部から外面は破面となる。なお、側部の一部が面を成すが、方向的にはひび割れの一つと考えられる。
404	第204図	1区	表土	炉壁 (長軸側・中段(下半)・滓化強・ 通風孔上・横方向接合痕付き)	12.7	9.4	5.5	514	2	錆化(△)	内面が滓化・溶損して垂れが目立ち、下半の溶損が進む炉壁破片。平面形はやや弧状で、側部3面と外面が破面となる。上下面が一部水平に途切れており、粘土単位の接合部の可能性もあり。
405	第204図 PL.120	1区	表土	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔1孔付き)	8.8	5.0	4.8	165	2	なし	左側部に径3cm以上の通風孔部壁面が残る炉壁破片。通風孔部の右壁面沿いの炉壁片で、右側の表面は強く溶損している。通風孔部は円孔とみられ、奥行5.5cmのところまで残存する。右下の頸部には厚さ3cm近い粘土質の滓が垂れ落ちている。破面は上下面の一部と外面全体となる。
406	第204図 PL.120	1区	表土	炉壁 (長軸側・下段(上半)・ 通風孔周辺・通風孔1孔付き・ 横方向接合痕付き)	8.3	7.0	4.1	185	2	なし	前者と類似した通風孔部の右壁面沿いの炉壁破片。左側部には径3cm以上を測る通風孔部壁面が確認される。通風孔部の奥行は5.5cm以上を測る。右側の炉壁表面は強く溶損して、表皮は暗紫紅色を示す。破面は上下面と裏面側。
407	第204図	1区	表土	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・通風孔1孔付き・ 滓付き・基部接合痕付き・ マグネタイト系滓付き)	4.0	3.3	1.2	26	1	なし	上面に通風孔の下顎部を残す炉壁小破片。通風孔部の壁面に沿って残る厚さ2cmほどの炉壁片で、外面は黒褐色のガラス質滓化して、頸部下では垂れとなる。通風孔部は現状で径2.4cm程度が残される。炉壁の外面は破面。
408	第205図	1区	表土	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・通風孔2孔付き・ 滓付き・基部接合痕付き)	8.3	9.5	7.1	434	2	なし	下手側の側部が平坦な粘土単位の接合部となり、左右の側部に通風孔2孔分の壁面が確認される炉壁破片。破面は上面から外面にも広がる。通風孔2孔の内、左側の方が残存範囲が広い。現状で径4.9cm、奥行は6.5cmを測る。右側の破面では僅か2cmほどの範囲にのみ通風孔部の壁面が残る。左右の通風孔部の壁面間隔は6.6cm程度と狭い。そのため、仮に通風孔部径を4cmと仮定すると、2つの通風孔部の間隔は10.6cm前後となる。左右の通風孔部とも下向き通風方向で、残りの良い左側ではマイナス27度前後を測る。これはあくまで、下手側の平坦面を水平にした場合である。通風孔の位置は箱形炉の長軸中央寄りの2孔と推定される。
409	第205図	1区	表土	炉壁 (長軸側・下段(下半)・ 通風孔下・滓付き・ 基部接合痕付き・炉内流動滓付き・ 炉床土付き・工具痕付き)	18.4	13.8	10.1	1960	1	なし	外面中段に炉壁基部を示す平坦面が露出する炉壁破片。直下には最大厚みが7cmにも達する滓層が形成されている。また、炉壁内面右下の滓層には、上下方向に伸びる径3cm大の工具痕が確認される。炉壁の平面形は緩やかな弧状で、やや長軸端部寄りの可能性大。左右の側部と外面上半が破面になっている。下面は炉壁粉を固着する炉床土が面を成しており、炉壁基部の平坦面と炉床土の間を押し広げるように炉内流動滓が広がっている。この滓の上面表皮のうち風化した部分では灰黒色となる。炉壁内面は表面が黒色ガラス質化した粘土質溶解物に覆われ、3cm大以下の木炭痕も散在する。内面の工具痕が上下方向に伸びるため、炉壁を解体した折に炉床土との境目に残されたものか。構成No.411の炉床土とはセットとして理解がしやすい。
410	第205図	1区	表土	炉壁 (長軸側・下段(下半)・通風孔下・ 滓付き・横方向接合痕付き・基 部接合痕付き)	5.5	7.0	9.0	217	1	なし	下手側の側部が平坦な炉壁基部、または粘土単位の接合部となった炉壁破片。左右の側部から上面に加えて外面も破面となる。内面にはつららの垂れが散見され、下手側の平坦面も接合部の隙間から被熱して、表皮の一部が薄く滓化・発泡している。
411	第205図 PL.125	1区	表土	炉床土 (滓付き・工具痕付き・ 炉内流動滓付き)	14.0	15.0	9.5	1480	1	なし	上手側の側部に斜め上下方向に向く、3単位の工具痕が残る炉床土破片。上面は全体が粘土質溶解物に覆われて一段高く、上手側から下手側に向かないだらかに傾斜する。左右の側部と下手側の側部が破面。下面は軽石や炉壁片を固着する砂質の炉床土で、上手側では炉内流動滓様となる。この滓部分の範囲は奥行が3cm前後で厚みは4cm弱を測る。3ヶ所に残る工具痕は重層しているためやや分りにくくなっているが、およそ3.5cm幅前後の浅い窪みとなる。本資料に残る工具痕と構成No.409に残る工具痕は、径や方向から見て同一の性格をもつ可能性が窺える。おそらく、製鉄炉の操業を終えた段階で、炉体基部と炉床との間に縦方向に丸棒状の工具を差し込むことで、両者を分解するような意図があったものと考えられよう。逆にこうした状況は、炉壁と炉床土との関係を読み取ることもできる。
412	第205図	1区	表土	炉床土 (含鉄)	8.5	6.5	5.5	303	3	特L(☆)	分析資料No.29 分析資料詳細観察表参照。
413	第205図 PL.125	1区	表土	砂鉄焼結塊 (含鉄)	2.2	2.4	1.2	9	2	H(○)	厚さ1cmほどの小塊状の砂鉄焼結塊。側部は少なくとも2面が破面様で、下面が剥離面様となっている。砂鉄粒子が確認でき全体が錆色となる。
414	第205図 PL.125	1区	表土	マグネタイト系遺物 (含鉄・砂鉄焼結付き)	7.0	2.8	3.6	137	2	H(○)	左右の側部と上手側の側部が破面主体となった、マグネタイト系遺物破片。表裏面には砂鉄焼結部と不規則なつららの垂れが共存し、破面の一部は青光りしている。磁着も強く、砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓部に移行する過程を物語る。表面の一部に木炭痕あり。
415	第205図 PL.126	1区	表土	流出孔滓 (炉床土付き)	3.2	2.4	2.5	63	1	なし	短軸方向の断面形が上下に長い不整形円形をした細身の流出孔滓破片。左右の側部が破面で、上面には滓が流れている。側部から下面全体は明褐色の炉壁土に覆われる。破面の気孔はやや肥大する。
416	第205図	1区	表土	流出孔滓 (炉床土付き)	8.7	9.7	5.3	682	1	なし	幅9cmほどのやや扁平な流出孔滓破片。左右の側部が破面で、上面はごく浅い桶状で滓がゆつたりと流れている。側部上半には低い段を生じ、下面は炉壁粉の点在する浅い舟底状となる。滓質は緻密で、中央の1ヶ所のみ気孔が上方に伸びる。
417	第205図 PL.126	1区	表土	流出孔滓 (炉床土付き)	8.1	10	8.6	1135	1	なし	右側部で収束する太い丸棒状の流出孔滓破片。左側部とそれに接する肩部の2面が破面となる。側部から下面には炉壁粉が密に固着する。破面は緻密で、外周部のみ気孔が目立つ。流出孔の出口付近で固化した滓の先端部破片か。

表92 製鉄関連遺物観察表(25)

構成番号	図版番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
418	第205図 PL.126	1区	表土	流出孔滓 (炉床土付き・工具痕付き)	6.0	4.5	4.0	197	1	なし	前者を1/4程度の細身にしたような流出孔滓の先端部寄り破片。短軸方向の断面形は不整形で、左右の側部下半が破面となる。右側部下側には幅1.7cmほどの工具痕とみられる浅い窪みが残る。側部から下面は丸みをもった丸棒状で、炉壁粉が固着する。
419	第205図	1区	表土	流出孔滓 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	5.4	8.3	6.2	440	1	なし	上面が流動状で、大きな表皮の剥落部が露出する流出孔滓破片。最大幅は8cm程度で、左右の側部が大きな破面となる。側部上半から上面は滓の重層が確認され、下面は丸棒状に突出する。破面の結晶が発達して気孔の一部が肥大する。
420	第205図 PL.127	1区	表土	流出孔～溝滓 (工具痕付き・炉床土付き・炉内流動滓付き)	160	131	48	1414	1	なし	流出孔から溝滓にかけての典型的な滓破片。左側部下側には幅6cmほどのやや扁平棒状の流出孔滓が突出して、下面では長さ10.5cmまで伸びている。その上面から右側部にかけては、出入りの激しい流出溝滓が上層から右側部にまで広がっている。上面は暗紫紅色の流動状で、上手側が陥没する。また、右側部には幅4.8cm前後を測る太い丸棒状の工具痕が明瞭に残る。残る側部には不規則なひだ状の滓部が突出する。破面は左側部が中心で、右側部の工具痕の周辺には突き崩しに伴うひび割れが認められる。
421	第205図	1区	表土	流出孔～溝滓	7.0	6.3	4.5	231	1	なし	左右の側部が破面となった流出孔～溝滓破片。上面には1～2cm幅の流動単位が重層している。表皮は暗紫紅色で僅かに流れ皺あり。上面左側には別単位の滓を固着する。破面の気孔は部分的に肥大して中空部となる。
422	第205図	1区	表土	流出孔～溝滓	10.4	8.0	2.6	414	1	なし	左右の側部がシャープな破面となった流出孔～溝滓破片。右方向に向かって薄くなって広がる滓で、上手側の側部も破面となる。上面には1～3cm幅の流動単位がうねりながら重層する。下面は左側の2/3の部分がきれいな舟底状で、炉壁粉が面的に貼り付く。
423	第205図 PL.127	1区	表土	流出孔～溝滓	8.0	5.5	4.3	393	1	なし	左右の側部が破面となった流出孔～溝滓破片。左側はやや丸棒状の断面形をもち、右側では扁平となる。左右の破面とも上層の気孔が大きく肥大して中空部となる。下面は丸みをもった舟底状。
424	第206図	1区	表土	流出孔～溝滓	11.4	7.4	6.5	574	1	なし	左右の側部がやや凹凸のある破面となった流出孔～溝滓破片。平面形は逆「へ」の字状に曲っており、流出溝等のコーナー部で生成した可能性大。上面は次々と滓が重層しているため凹凸が激しく、肩部直下にもその影響は広がっている。右側部上半は滓の先端が収束気味。側部から下面は折れ曲がった丸棒状となる。
425	第206図 PL.127	1区	表土	流出孔～溝滓	17.5	14.2	5.0	1393	1	なし	左右で平面形態の異なる流出孔～溝滓破片。左半分は扁平な丸棒状で、右半分は厚板状に短軸側が広がっている。破面は左側部と右下側部から右側部下端で、右側の肩部はやや収束気味となる。下面は左側から扁平な丸棒状の滓が中央部に向かって伸びている。構成No.420と形態は異なるが、類似する条件をもつ。
426	第206図 PL.127	1区	表土	流出孔～溝滓	30.0	24.0	8.5	12610	1	なし	上面に幅2～7cm程度の流動単位が重層している流出孔～溝滓破片。左右の側部と下手側の肩部に破面が確認される大型の滓となる。最大幅は16cm程度で、下面全体が大きな舟底状となる。上面の滓は平滑で流動性が高く、流れ皺も目立つ。左側部の破面では幅13cm前後の流出溝滓様の滓の上に、厚さ2cmを超える流動滓が次々と乗っていることが分かる。下面は軽石や小礫を含む山土主体で、全体的には流出溝滓の可能性が高めと見られる。
427	第206図	1区	表土	流出溝滓	9.3	6.1	4.8	406	1	なし	上面と上手右寄りの側部が生きている流出溝滓破片。上面はやや盛り上がったように流動する青黒い滓部で、やや縮縮状にも見える流れ皺が生じている。側部は乱雑な気孔が露出する破面となる。下面は浅い舟底状で炉壁粉が点在する。
428	第206図	1区	表土	流出溝滓	13.1	8.5	4.5	340	1	なし	幅8.5cmほどの流出溝滓破片。上面は生きており、左下手側と右側部下端が破面となる。上面は半流動状で、左側はガスが抜けて陥没したためか一段低くなっている。上面肩部には炉壁粉が点在し、丸みをもった舟底状の側部から底面には軽石や炉壁粉が密に固着する。
429	第206図	1区	表土	流出溝滓	10.3	9.5	4.1	471	1	なし	上面が平坦な桶状をした幅11cmほどの流出溝滓破片。左右の側部が破面で、平滑な上面表皮が広く脱落して、直下の肥大した気孔が目立って露出する。側部から下面は浅い舟底状で、表面には多量の礫や軽石を含む土砂が露出する。
430	第206図	1区	表土	流出溝滓 (炉床土付き)	10.9	12.5	4.7	642	1	なし	左右の側部と上手側の側部がシャープな破面となった流出溝滓破片。上面の上手側半分が半流動状で表皮が脱落しているのに対して、下手側はより流動状で、外面に広がり気味となる。破面にはやや気孔が目立ち、舟底状の下面には軽石主体の土砂が露出する。
431	第206図 PL.128	1区	表土	流出溝滓 (工具流入滓付き・流出孔滓付き)	14.7	12.5	4.4	1490	1	なし	幅13cm弱を測る密度の高い桶状の流出溝滓破片。左右の側部が破面となっており、上面には幅2.5～6cm程度のゆったりとした流動滓が重層している。下面は流動単位が一部区別される程度の舟底状で、上手側の側部には径2cm前後の丸棒状をした流動滓、または工具痕流入滓が突出する。長さは8cmを超える。流出溝滓の底面には軽石や炉壁粉が点在する。
432	第206図 PL.130	1区	表土	炉底塊～流出孔滓 (炉床土付き・炉内流動滓付き・工具痕付き)	13.4	17.4	9.0	2768	1	なし	左右の側部が破面となった炉底塊～流出孔滓、または単独の流出溝滓破片。平面形が右方向に向かい急激に狭まっており、複数の滓が重層した状態を示す。上面は平坦気味で、短軸側の側部上半は上下の滓の隙間が段を成す。また、下手側のみ下段滓の上面に複数の工具痕とみられる浅いあたりが確認される。幅は2.2cm以上。側部に残る破面は全体に散ったような形となる。側部から下面は丸みをもった舟底状で、軽石や炉壁粉が固着する。また、右側の下面には幅4cmほどの別単位の流出溝滓、または流出孔滓の破片を巻き込んでいる。
433	第206図	1区	表土	炉底塊 (炉床土付き・炉内流動滓付き)	17.5	9.2	11.3	4118	1	なし	左右の側部がほぼ直線状の破面となった、炉底塊の中核部破片。短軸方向の幅が17.5cmほどと狭いのが特色で、中央部付近で約10cmの厚みをもっている。上面は肩部を除いて浅い桶状に窪み、一部に破面が露出する。左右の破面は極めて緻密な滓層で、気孔もほとんど認められない。側部から下面はきれいな舟底状で、1～2cm大の木炭痕が炉床土の剥離面に顔を出す。

表93 製鉄関連遺物観察表(26)

構成 番号	図版 番号	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁 着 度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
434	第207図	1区	表土	炉底塊 (含鉄・滓付き・工具痕付き)	17.0	17.1	13.5	3998	3	H(○)	右側部中段に手前側から差し込まれた太い丸棒状の工具痕が3単位残されている炉底塊破片。左側部が大破面で、短軸側の側部や肩部にも小破面あり。厚みは15cm前後としっかりしている。上面は平坦気味で、細身の流動滓と厚い酸化土砂に覆われている。一部に黒錆が確認される。下面はやや幅広い舟底状で、下手側の側部には厚さ3cmほどの炉床土が固着する。左右の破面には2cm大以下の木炭痕が目立ち、上半部からは含鉄部由来とみられる黒錆が広がる。滓の性格としては炉底塊の荒割り個体か。なお、工具痕の表面に砂鉄焼結部が露出しており、工具痕の幅は3cm以上と推定される。
435	第207図	1区	表土	炉内滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	7.8	7.4	3.6	263	2	H(○)	表面が5cm大以下の木炭痕に覆われた炉内滓破片。砂鉄焼結部主体の炉内滓で、表面の各所に砂鉄層が露出する。木炭痕が大きいことから、何らかの熱量不足に伴うものか。上下面は生きている可能性があり、側部は不規則な破面と木炭痕に覆われている。
436	第207図	1区	表土	炉内滓 (含鉄・砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	4.0	3.3	2.4	42	2	H(○)	厚さ2.5cmほどの小塊状をした含鉄の炉内滓破片。前者よりやや還元が進み一部に砂鉄焼結部が露出する。木炭痕は大きめで、側部は破面主体となる。黒錆が吹き磁着も強い。
437	第207図	1区	表土	炉内滓 (含鉄・砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	7.0	4.6	6.1	234	3	H(○)	側部から下面の9割以上が破面に覆われた、含鉄の炉内滓破片。厚みは5cm強で、上面は緩やかな波状の平坦面となる。下面は小さな椀形にまとまる。側部の破面はマグネタイト気味の滓部主体で、下手側の側部下は粒子が区別できる程度の砂鉄焼結部となる。個々の結晶がマグネタイト化しているためか、いずれの粒子もきらきらと輝く。
438	第207図	1区	表土	炉内滓 (含鉄)	5.0	4.5	2.35	73	3	H(○)	上面上手側が大きな錆影れとなった含鉄の炉内滓破片。下半部は木炭痕とみられる窪みや錆影れが混在して、全体に凹凸が目立つ。表面は酸化土砂に覆われて磁着も強い。
439	第207図	1区	表土	炉内滓 (含鉄)	7.0	5.2	3.9	217	2	L(●)	分析資料No.30 分析資料詳細観察表参照。
440	第207図	1区	表土	再結合滓 (含鉄・砂鉄焼結付き)	17.5	9.2	4.2	663	3	錆化(△)	厚さ5cm前後を測る、短軸方向に長手の盤状をした再結合滓破片。左右の側部から下面は礫や軽石を含む接地面で、上面の9割方が破面になっている。表面には大小の木炭痕と砂鉄焼結部様の面が広がる。一部に滓片や木炭を噛み込む。左右方向の断面形状から、幅10cm弱の溝の底部で形成された可能性が強い。被熱砂鉄が主体となる再結合滓。
441	第207図	1区	表土	再結合滓 (含鉄)	3.6	5.0	2.3	46	1	H(○)	厚さ2cmほどの板状をした含鉄の再結合滓破片。側部3面が破面で、下面は土坑や溝底に接したような軽石混じりの土砂の接地面となる。上面には微細な滓片や還元が進んだ砂鉄粒子が確認される。
442	第108図	1区	窯2	炉内滓 (含鉄・炉壁付き・炉内流動滓 付き)	3.9	4.5	4.9	99	1	錆化(△)	側部3面が破面となった炉内滓、または流出孔滓破片。上面から側面は流動性の低い滓部で、木炭痕や僅かな含鉄部も認められる。下面は浅い舟底状で、軽石を含んだ炉床土様の土砂が固着する。
443	第124図	1区	窯3	流出溝滓	7.9	9.2	4.8	461	1	なし	左右の側部と短軸側の側部の一部が破面となった流出溝滓破片。上面では1~2cm幅の流動単位が重層し、側部の破面にも滓の重層が読み取れる。下面は浅い舟底状で、軽石や小礫を含む流出溝底の土砂が固着する。
444	第136図	1区	窯3	炉底塊 (含鉄・炉内流動滓付き)	14.1	13.5	11.4	2438	3	H(○)	上面がやや平坦気味で、左側部から下手側の側部が破面となった炉底塊コーナー部破片。厚みは11cm前後を測り、破面には木炭痕の可能性をもつ不規則な窪みが広がっている。右側部から上手側は立ち上がりの急な椀形で、粉炭に近い木炭痕が面を成している。また、一部に工具痕流入滓様の棒状の突出部あり。出土位置は窯3で、石材の代用に持ち運ばれた炉底塊破片かもしれない。
445	第146図	1区	灰原3	炉内滓 (含鉄・マグネタイト系滓付き・ 須恵器付き)	11.1	6.5	7.2	382	3	H(○)	下面に内外面にタタキ目の残る須恵器裏破片が二次的に固着した、炉内滓破片。滓部は表面の大半が破面で、一部がマグネタイト気味の滓となる。僅かに下手側の側部を中心に含鉄部があり、錆影れも認められる。須恵器と結合したのも、含鉄部由来の錆による可能性あり。
446	第146図	1区	灰原3	炉内滓 (含鉄)	4.5	4.5	4.0	73	2	H(○)	厚さ3cmほどの小塊状をした含鉄の炉内滓破片。表層の半分以上が酸化土砂に覆われており、側部から下面は破面様となる。上面は平坦気味で、下面を中心に放射割れや黒錆のにじみも確認される。前者と同様、ややマグネタイトした含鉄の滓か。
447	第263図	2区	II層	流出溝滓	11.8	8.1	5.5	792	1	なし	破面と自然面が混在する流出溝滓破片。上面右側には流動状の滓部が小範囲で残り、側部から下面右寄り丸みをもった舟底状となる。下手側の側部からみると、上下別単位の流動滓が重層している。左側は破面主体で、左上手側に僅かに流出溝滓の側部が認められる。
448	第246図	2区	炭焼窯15	木炭	14.5	11.8	6.7	481	1	なし	分析資料No.31 分析資料詳細観察表参照